【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　中部西小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	◎確かな学力の定着　○基礎的な・基本的な知識・技能の定着 ○論理的思考力向上を意識した授業　○言語活動の充実 ○読書環境及び読書活動の充実　○汎用的な資質・能力の育成	3
主な方策 成果と課題	○基礎的な・基本的な知識・技能の定着 ・単元ごとに付けたい力を明確にし、問題解決的な学習や探究的な活動に取り組んだ。問題解決能力を向上させる授業づくりを通して、子ども一人ひとりが問いをもち、自分で選択・決定することを繰り返して主体的に考え、表現し、互いの思いや考えを聴き合い、楽しく意欲的に学び合い高め合う姿があった。また朝学の時間を使って漢字の定着など基礎的・基本的な知識を身に付けさせている。タブレットを日常的に使い子どもの思考・表現を活性化し、情報社会において主体的に参画する情報活用能力を身につけることができるよう、ＩＣＴを有効活用する授業づくりを積極的に模索し実践してきた。外国語活動では積極的に外国語を使い意思疎通し態度や汎用的な資質・能力の育成に取り組んできた。 「目と耳と心で聴こう」を合言葉に友だちの意見を聞き合い、学びを深めた。 ○論理的思考力向上を意識した授業 ・児童が筋道立てて考え、表現し高め合えるよう思考する場面を設定し、思考ツールを使いながら授業やつけたい力に合わせ、系統的に指導した。児童は、日常的に筋道立てて考える言葉を使ったり、学習の中で理由や根拠など意識して発言したりすることができた。しかしすべての児童への定着はできておらず、個に応じた取り組みが必要である。 ○読書環境及び読書活動の充実 ・図書館司書や地域ボランティアによる読み聞かせや、なのはな文庫や司書による新しい本の紹介など児童が本に触れる機会を増やしてきた。また年２回の図書館まつりや昼読の時間の確保など子どもたちが主体的に読書をしようとする環境づくりをしてきた。昼読の時間では、日常的に本を読む習慣を身に付けさせると共に昼読の時間を利用して電子図書の利用も推進している。児童アンケートでは８０％の児童が読書が好きであると回答している。今後も読書好きの児童を増やすために昼読の時間に読み聞かせを行うなど様々な本と出会う場を増やしていく。	

重点目標２	◎しなやかな心を育てる ○人権教育の推進 ○道徳的実践力を培う「考え、議論する道徳」の実践 ○生活習慣の向上 ○児童会活動の推進	3
主な方策 成果と課題	○人権教育の推進 「きらきらむくの子タイム」「職員の情報交換」 ・日常の教育活動において、学級や学年等で人権課題について考える場を設けてきた。また、代表委員によるいじめ防止劇を鑑賞することで、身近な差別や人権問題について自分の考えを持つことができた。 ⇒学校評価アンケートでは、保護者、児童共に９５％以上が「人権」に関する項目や「自分のことを大切にしている」の項目で肯定的な回答をしている。 ○道徳的実践力を培う「考え、議論する道徳」の実践 ・教師が児童の実態に合わせた教材を作成し、授業を行った。子どもたちは身の周りで起こる人権問題などについて考えることができた。 ○生活習慣の向上 「あいさつ運動」「今月の生活目標」「清掃指導」 ・今年度はあいさつを重点として取り組みを行ってきた。運動のほか、各月の生活目標であいさつに関する目標を立てて各学級へ呼びかけに行く活動を行った。また、教職員が良いモデルとなるように積極的にあいさつをする姿を見せてきた。 ⇒児童、保護者共に約８５％が肯定的にとらえている。保護者は昨年より２％増加している。しかし、地域の方へのあいさつが不十分な姿が見られるため、今後も指導を継続していきたい。 ○児童会活動の推進 ・各委員会、よりよい学校を目指し活動に取り組んできた。今年度からGoogleclassroomを活用し、全校へ動画を配信する等の取り組みも行うことができた。	

重点目標３	◎健康な体づくり ○健康に生きるための体力向上　　○食育・保健指導の推進 ◎命を守る取り組みの推進 ○安全指導の充実　　○防災教育の充実	3
主な方策 成果と課題	○健康に生きるための体力向上 「授業実践」「体力強化月間」「水泳」「運動会」「５分間記録走」「なわとび週間」 ・児童の実態把握に努め、安全に配慮した場づくりや活動量を確保できる授業作りを行い、十分に運動することができた。 ・熱中症指数による制限などもあり、休み時間に外で遊ぶ児童の割合が減った。 →昨年度７４％だったが、今年度６５％（児童の学校評価アンケートより） ・体育的行事を通して、運動に親しみ、体力向上に努めることができた。 ○食育・保健指導の推進「食育の授業」「保健指導」 ・全学年学期に１回、食育の授業を実施し、食に対する知識を深めることができた。 ・保健指導を全学年実施し、栄養や体の仕組み等を考える機会になった。 ⇒児童の学校評価アンケートの結果から、朝食を毎日食べている児童が昨年度に比べ7.9%増えていた。今後も食育の推進を行うとともに、保護者への啓発を図りたい。 ○安全指導の充実「地区児童会」「登校指導」「ふれあいパトロール」「日常指導」 ・児童の登下校の様子から現状を把握し、地区児童会で交通安全について話し合うことができた。 ・教師間で児童の学校での過ごし方について情報共有し、日常の指導に生かすことができた。授業での場作りなど、学年で話し合いながら安全な授業を心掛けている。 ・首から上の怪我が多かった。首から上の怪我は大きな怪我につながることもあるため、些細な怪我でも積極的に認知し、保護者に連絡していくようにしている。 ○防災教育の充実「避難訓練」「緊急引き渡し訓練」「地域と連携した防災学習」 ・学期に１回避難訓練を行うことで防災の意識を高めることができた。 ・３学期の避難訓練では、実際に被災状況を想定して新たな避難計画を組むことができた。 ・地域防災ボランティアによる防災学習を全学年実施し、日常の防災意識を高める事ができた。	

重点目標４	全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現 ◎個に応じた指導の実現に向けて連携を強化する。	3
主な方策 成果と課題	**○校内支援体制の充実と特別支援教育の推進** 　打ち合わせや特別支援委員会で情報交換、支援の方針や手立ての検討をした。必要に応じ授業に支援員や教員を加配し、どの子も安心して学べる環境整備を行った。また、通級教室、教育委員会支援課、医療機関との連携も行った。学校アンケートでは、92%の保護者が肯定的な回答をした。100%をめざし、個のニーズを把握し、よりよい支援の検討、継続を行う。 **○関係機関と連携したチームによる教育課題（不登校児童・日本語指導が必要な児童等）への対応** 　不登校対応としては、打ち合わせや登校サポート委員会で情報交換、支援の方針や手立ての検討をした。また、SCによる児童の観察・カウンセリング、教職員へのコンサルテーションを活用するとともに、医療機関との連携も行った。日本語指導が必要な児童には、適応指導員による別室指導も行い、学習支援を行った。児童や保護者がより利用しやすいように情報発信を行う。 ○中部中学校区保幼小中で連携した子どもの見守り・授業研究 　「主体的に学ぶ力を育てる～しなやか したたか 主体的～」をテーマに１年を通じて交流するとともに、発達段階に応じた保育や授業を保育や授業を公開し検討した。	

重点目標５	◎学校参画員会（CS)を核とした教育活動の推進。 家庭・地域と協働した安心安全な学校づくり。	3
主な方策 成果と課題	**<u>○学校参画委員会（拡大委員会）</u>** 参画委員会（拡大委員会）では、学校づくりビジョンについての意見交換や授業参観を通じて、学校の取り組みを共有することができた。 **<u>○参加参画型授業</u>** 春の学校参加参画授業には保護者２４０人来賓３人秋には保護者３２７人来賓２２人が参加した。各学年で、春・秋の学校公開における参加参画授業の取組について子どもの学びが深まるものとなっているのかについて検証を行うことで、地域の人とのよりよい出会いや、かかわりを深める機会につながった。 「まちかど音楽会」では、ＰＴＡや地域の人の協力のもと準備を進め、児童がたくさんの人に支えられていることを知る機会となり、地域の一員としての意識を強くもつことができた。リハーサル公開には保護者３８４人が参観した。 **<u>○ふれあいパトロール</u>** 地域の方に見守っていただくことにより、安心して下校することができた。 **<u>○学校支援員（ボランティア・学習アシスタント）</u>** 家庭科や書写の学習を通じて、より充実した教育活動を進めることができた。また、読み聞かせやクラブ・委員会活動にボランティアに入ってもらうことで、地域の方から学ぶ機会にもなり、児童の効果的な学習活動につながった。	

２　改善方針

【重点１に関わって】
・教室の読書環境を整え、児童らが様々な本に出会えるようにするとともに、読み聞かせや昼読等、読書に親しむ時間を確保する。国語教科書巻末教材「言葉の広場」を活用しながら言語活動を充実させ、語彙の充実をはかる。また、家庭読書の日を設定し、読書活動を家庭につなげるよう取り組んでいく。
【重点２に関わって】
・休み時間に外で遊ぶ児童の割合が減っているため体育の授業や休み時間を活用し、子どもたちが「やってみたい」「おもしろい」と思える運動・遊びを体験させながら、外での運動・遊びの意欲向上につなげたい。
【重点５に関わって】
・令和６年度の反省をもとに、学校参画委員会を核とした参加参画型授業を含めた、地域とつながり共に学んでいく教育活動に取り組んでいきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　浜田小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	考える子	4
主な方策 成果と課題	【主体的・能動的に学ぶ力】 　確かな学力の定着について、６年生の学調において全国・県の平均を上回る結果を得ている。子どもたちの「学ぶことが楽しい」「授業中、自分で考えたり、聴き合ったりして学んでいる」の質問項目も肯定的回答が９０％を超えており、この結果から意欲的に学習に取り組んでいることがわかる。 【ICTの有効な利活用による、自ら学び続ける学習力と、情報活用能力・読書習慣】 　「タブレットや図書室を活用していますか」という質問項目では、子どもたちから９０％を超える肯定的回答を得ている。「タブレットは文房具の一つ」として、授業や家庭学習などで活用を進めた。全校では、自分の考えを思考ツールを用いて構造化し、それを文章化する活用に取り組んだ。そして、学んだ思考ツールを用いて、授業中に自分の考えをまとめる活動を積み重ねることで、子どもたちが自分の考えをまとめるための手立ての一つとなってきている。 　また、読書推進校として、図書室を拡大したり、図書の整理・入れ替えを進めるなど、環境整備に努めた。月に１度、図書室でのイベントを実施し、図書室へ足を運ぶ機会を設けた。取り組みを続けることで、休み時間には多くの子どもが図書室へ行き、本に触れる機会となっていた。	

重点目標２	やさしい子	4
主な方策 成果と課題	【人権意識・感覚を醸成する、人権教育】 　「いじめや差別は絶対にいけない」という質問項目に対し、ほぼ１００％の子どもたちが肯定的回答をしており、子どもの意識は高い。校内では、人権教育のカリキュラムを系統立てて考え、日々の授業につなげている。今年度もいじめ防止に対するキャンペーンを全校で取り組んだ。各学級でいじめ防止標語を作り、廊下に掲示した。互いに意識を発信し合うことで、だれもが安心して過ごせる環境づくりに努めた。 【特別支援教育】 　子ども一人一人の教育的ニーズを、毎日の観察やSCによるアセスメントなどにより把握し、個別の支援計画を作成して、必要な支援や配慮につなげることができた。「すべての子を全職員で育てる」という共通理解のもと、日々の指導の積み重ねによって、互いに認め合う心情を育てることができた。	

重点目標３	つよい子	3
主な方策 成果と課題	【運動の楽しさ、心地よさを味わう】 「進んで運動に親しんでいますか」という質問項目に対して、子どもたちから９割近くの肯定的回答を得ている。今年度から新たな取り組みとして、きょうだい学年遊びを委員会が主体となり行った。また、なわとびでは全校で長縄の８の字跳びに取り組み、学級ごとに目標を決め、全校集会の日に向けてコツコツと練習に励む姿が見られた。これらの取り組みにより、休み時間に外へ出て遊ぶ子どもが増え、子どもたちの運動意欲も向上している。 「生活習慣が身に付いていますか」という質問項目に対して、保護者の肯定的回答は８割近くであった。基本的な生活習慣は概ね身についていると考えられる。一方で、子どもたちを見ていると、姿勢の保持が難しかったり、椅子に深くもたれかかったりする現状がある。日々の学校生活の中で、子どもたちに意識づけさせていく必要がある。	

重点目標４	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	【授業改善研修の推進】 子どもたちが問題意識や課題意識を持ち、各教科の見方・考え方を働かせ、確かな資質・能力を身につけることができるように、四日市モデル等を活用し、学校・学年・教科等で連携しながら指導することで、子どもが４５分間学び続ける授業づくりを行った。特に、タブレットを活用することで、学びや活動を共有し、協働的に学ぶことや自ら学び続ける探究活動を中心に自己調整的に学ぶ授業展開を行った。教師の授業観のアップデートが進んでいる現状にある。 【情報を共有し、組織として迅速かつ丁寧に対応する生徒指導体制づくり】 年度が始まる前に、生徒指導の方針を具体的に提示したことで、どの学級でも一貫した指導をすることができ、教職員アンケートでも肯定的な評価を得られた。引き続き、子どもたちが安心して落ち着いて学習ができるよう指導にあたる。 今年度は、より専門的な対応が必要になるケースがあった。担任だけではなく、チーム学校として的確かつ迅速にSCやSSW、SLなどの様々な関係機関と相談をしてつながることができた。また、情報共有の時間を毎週末確保したことで、全職員で子どもを見守る環境づくりを行えた。	

重点目標５	家庭や地域と協働する学校づくり	4
主な方策 成果と課題	【情報の発信と受信】 アンケートにおいて、「保護者・地域の方が学校教育へ参画できる機会を持てているか」の項目について、肯定的回答を9割以上得ることができた。学校運営協議会においても、教師の授業力や学習に向かう子どもの姿、掲示物から分かる日ごろの取組について評価をいただいている。また、ホームページを毎日更新したり、学校だよりを定期的に配付したりして、子どもの様子を保護者や地域の方に発信している。 【地域の方々に学ぶ場面の設定と拡充】 １年を通じて外国語授業支援、読み聞かせ支援、一部クラブ活動において地域・保護者の支援を得ており、時期によっては、授業支援も得ている。今年度から、地域の方に支援を得ててボッチャクラブが増えた。今年度も保護者に「はまだっ子応援団募集」を呼びかけることで、これまで以上にクラブの支援をしていただき、新たに書写ボランティアができ、外国語授業・読み聞かせのボランティアの数も増えた。	

２　改善方針

【重点目標１】
　本校で力を入れてきたICTの学校・家庭での効果的な活用、読書活動の充実について、成果が出てきている。学習での「わからなさ」を聴き合えるためにも、個別の支援体制や授業と家庭学習の連携の強化、SSTでのコミュニケーション能力の伸長を図る。
【重点目標２】
　日頃からの職員間の情報共有や共通理解を密に行い、組織としてチーム学校で対応に当たっていく。全職員で子どもたちを見ることを意識し、一貫した指導に努める。
【重点目標３】
　授業で「５分間運動」を導入に取り入れたり、多様な運動経験をつめるよう現在の取り組みを継続し、「運動のおもしろさ」を味わう機会を設けていく。学級や学年を超えた遊びの機会を委員会等で設定し、子どもたちの運動意欲向上を目指す。学校生活では、保健指導や給食指導や保健領域の学習をすることにより、自分でできることをふやすことで生活習慣に対する意欲の向上と改善を図る。地域や保護者に対して、体育の授業や生活習慣について学習を積んでいる姿を発信する機会を設ける。
【重点目標４】
　外部講師等の招聘による教職員研修や子どもへの出前授業の機会をつくり、専門的な視点から学び、自らを振り返る実践を増やす。
【重点目標５】
　引き続き、開かれた学校づくりを行う。学校での教育活動の意義、子どもの様子の発信をし続ける必要がある。また、地域の人材・教材活用について計画を立て直し、学習機会を増やしていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　塩浜小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着　～思考力・判断力・表現力をバランスよく育成し、問題解決能力、情報活用能力等を育みます～	3
主な方策 成果と課題	・学習内容を工夫し、どの教科においてもタブレットを活用した表現力の向上に努めると同時に、自分の考えを「話す」「書く」、相手の意見を「しっかり聴く」ことを意識した授業づくりを行った。 ・ICT機器の活用系統表を活用し、系統立てて指導にあたることができた。また、教職員間でICT活用に関しての授業内での取り組みを積極的に交流し合い、効果的なICT活用に関して実践を重ねることができた。 ・ペアやグループでの交流は活発に行えるようになったが、相手の意見を聴くだけでなく、考えを深める取組の必要性を感じる。 ・他校とのオンライン交流会を行い、児童の視野を広げコミュニケーション能力を育てる取組を行った。 ・家庭学習の手引きを活用し、自主学習に取り組む意欲を育てる手立てを工夫した。児童の良いノート例を掲示し、お互いの学習方法の参考になるよう環境づくりを行った。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成　～自分のこころとからだの健康や安全を意識し、行動できる子どもを育みます～	3
主な方策 成果と課題	・図書館祭りや中庭図書館の環境整備など児童の意欲を高める取り組みを中心に、読書活動に全校で取り組むことができた。 ・学習規律や生活規律の定着に向けて、毎月の目標達成への手立てを各学年で話し合い、月末には振り返りを行った。掲示物の工夫をし、あいさつや廊下歩行、トイレのスリッパをきれいに並べるなど、委員会でもそれぞれで取り組みを行い、学校のルールを守ろうとする児童の意識を高めることができた。 ・全校で業間かけ足や業間なわとびに取り組み、体力向上につなげることができた。 ・しおはまっこという学校目標を児童会で何度も提案、声かけすることで、子どもたちの普段の生活の中での意識づけにつながった。 ・食育の授業を学級担任や栄養教諭が、学期に一回以上継続して取り組むことができた。	

重点目標３	よりよい未来社会を創造する力の育成　～自分を見つめ、塩浜地区の未来を担う子どもを育みます～	3
主な方策 成果と課題	・キッズ農園や図書館ボランティア、防災授業、塩浜てくてく、川合町ししまい、塩浜音頭愛好会、町探検など、地域や保護者の方の協力のもと、児童が多様な体験活動を行うことができた。塩浜地区の良さを見直し、再確認できた。 ・児童会を中心に集会の中で異学年の子と交流ができるような活動を企画し実践したり、月に1回以上縦割り班活動の時間を取ったりする等、児童同士の関わりの時間を積極的にとることができた。また、遠足や運動会等できょうだい学年を軸とした異学年での活動を行うことで、高学年のリーダー性を育むことができた。 ・地震や津波を意識して、中学校まで全校で逃げるという避難訓練を行い、「自分の命は自分で守る」「どの道を通ればより安全なのか」など、児童が危機意識を持って各訓練に取り組むことができた。 ・キャリア教育の一環として、様々な職業についている方から話を聞かせてもらい、自分の将来について児童が向き合う機会をつくることができた。（住職・建設業・市民センター職員・コンビナート企業・窯業者等）	

重点目標４	すべての子どもの成長をサポートする教育の実現　～一人ひとりの子どもの特性や能力に応じた、適切な指導・支援を行います～	3
主な方策 成果と課題	・SSW・SC、小中と連携することで、家庭との連携はもちろん、子どもの細かい変化や実態を把握し、児童理解につなげることができた。家庭への支援に対して、より具体的にアドバイスをもらい、指導につなげることができた。 ・職員間で常に情報交換を行い、児童の様子について多面的に把握できるよう心がけた。課題解決のため、職員が迅速に動ける体制づくりに努めた。 ・登校サポート委員会を定期的に開催し、全職員で情報共有し、一貫して指導することができた。 ・特別支援教育担当教員を中心に、教職員間で連携を図り、課題を共有して取り組みを進めることができた。 ・Q-U調査の結果を校内研修会で考察することで、児童理解やそれぞれの子どもたちへの接し方、日々の指導についての手立てなどを考え、教育の実践に生かすことができた。 ・支援の必要な児童に対して、発達検査を実施し、一人ひとりに合った支援を考えて、対応を行った。個々の課題や特性に応じて、関係機関と連携した対応を充実させていきたい。	

重点目標５	学校教育力の向上　～子どもたちの生きる力・共に生きる力を育むため、学校経営の充実を図ります～	3
主な方策 成果と課題	・通学路を見守ってくださっている地域の方々と連携し、登下校の歩き方や自転車の乗り方等について繰り返し指導を行った。学校だけでなく、地域の方とも連携し合いながら児童の交通安全に対する意識を高めることができた。 ・天候等心配される時は、登下校の児童の見守りや通学路の安全確認を必要に応じて行った。 ・HP更新や学校だよりの発行にて、児童の様子や学校の取り組みを地域や保護者の方に伝えられるよう、継続して発信を行ってきた。 ・学びの一体化の取り組み（来入児と1年生の交流会・人権フォーラム・塩浜中文化祭での合唱発表・英語スピーチや地域スピーチ鑑賞）を行うことができた。異校種間での児童・生徒理解につなげ、指導の手立てを考える上で参考にした。また、英語スピーチや地域スピーチを実際に聞くことで、子どもたちのより身近なモデルとなり、数年後の目標につなげることができた。 ・サポートルームを継続して活用し、支援が必要な子どものアプローチの仕方を全職員で考えることができた。 ・行事と授業の兼ね合いも見つつ、スムーズな学校運営ができるようにしていきたい。	

２　改善方針

・職員で学校の課題について現状を周知し、支援体制を組む等、職員間で迅速に動ける体制づくりを継続していく。
・お互いの授業を参観し合い、同僚性を発揮して授業づくりについて積極的に学ぶ体制づくりを進める。
・子どもたちにどのような資質・能力を育むべきを職員が共通理解し、どこに重点を置いて取り組むべきかについて常に意識できるよう、カリキュラム・マネジメントの研修を行うとともに、行事や会議なども精選し、教職員にも時間の余裕がうまれるよう取り組みを進めていく。
・特別支援教育担当教員を中心に、今後も教職員間で連携を図り、課題を共有していくことで、より一人ひとりの子どもに合った指導につなげていく。
・家庭学習について家庭訪問等で「家庭学習の手引き」を活用し、保護者と共通理解を図り、指導を進めていく。
・児童の運動能力を高めるため、年間計画に基づき、系統立てた体育活動の推進を行う。
・中学校との連携をより効果的に図っていくため、子どもにどのような力を付けたいのか、どの教科のどの時間であればより力がつくのか、中学校と共に考え、授業を組み立てていく。カリキュラムマネジメントの視点からうまく時間を捻出し、調整を図っていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　羽津小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力	3
主な方策 成果と課題	**【方策】** **1基礎・基本　①わかる楽しさが実感できる授業をする　②ICTを学習に活用できるスキルを習得させる　③効果的な少人数授業を行う** **２問題解決能力　①対話的・協働的に学び合い、一人ひとりの深い学びにつながる授業をする　②表現する場を設定する** 【成果】 １①めあて、まとめカードを活用し、児童に意識づけができた。①座学のみでなく、体験をともなった学習をした。 　②日常的にタブレットを使用し、様々なサイト等で基本的なスキルを身につけた。 　③少人数授業を行うことで、個別指導が充実した。 ２①ＩＣＴを使った協働学習を行い、発表物をつくることができた。 　　具体物かＩＣＴかを子どもに選択させて学習を進めることができた。 　② 学習してきたことをCanva等のＩＣＴを使いながらプレゼンテーションをすることができた。 【課題】 １①児童が興味を持ち、深い学びにつながるようなめあて・課題の設定が必要となってくる。 　②タブレットの不具合で、学習活動が中断されることが多い。 　③学年によって実施できていない。 ２① 学習において具体物を提示するかICT活用を選んでいくことで、協働的な学びになっていたのか今後も模索が必要。 協働的な学びとはどのような学びで、子どもたちがどのような姿になるとよいのか。今後も明らかにしていく必要がある。 　②ICTの活用において発表することのできない子へのフォローを考えていかねばならない。

重点目標２	こころとからだの健全な育成	4
主な方策 成果と課題	**【方策】** **１仲間づくり　①聞き合う集団をつくる　②仲間づくりを基盤とした人権・同和教育を実践する　③いじめを積極的に認知し、迅速かつ組織的に対応する** **２豊かな心　①「考え、議論する道徳」の授業を中心に道徳教育を展開する　②学校図書館の機能を活かした読書活動を展開する** **３健康づくり　①保健委員会等と連携して、健康づくりの取り組みを行う　②栄養教諭による計画的な食育を中心に、児童による校内放送を活用した食育を展開する** **４体力と運動能力　①運動好きの子どもを育む授業　②体育科授業や体育的行事、日々の遊び等を通して体力・運動能力の向上** 【成果】 １①研修を通じて、聴き合う集団について検討し合うことができた。 　②人権学習の実践をデータとして記録保存していくようにした。 ２①教材について議論して、子どもたちが取り組めるような機会をつくることができた。 　　担当者研修で学んだことを還流報告している。 　②学期に一度、読書週間を設定し、児童が図書室の本に親しむ機会としている。 　②司書や図書館ボランティアによる読み聞かせの環境を整えている。 ３　保健委員会、給食委員会といった、児童主体の取組を行うことができた。 ４　かけ足月間、なわとび週間といった行事や、体育科の授業などにより、運動能力の向上に関わる取組を行うことができた。 【課題】 １②人権教育カリキュラムに応じた人権課題の取り組みを確実に行う。そしてその実践をデータとして蓄積していく。 ２②日常的に図書室や電子図書館を利用する児童を増やす取り組みをさらに進める。

重点目標３	未来の創造	4
主な方策 成果と課題	**【方策】** **１キャリア教育　①集団活動を通して、力を合わせやり遂げる取り組みを行う　②羽津の郷土や萬古焼などの地域の特色を活かした学習活動を行う　③キャリア・パスポートの活用を通して、自己理解を深める** **２防災・安全教育　①避難訓練や体験的な防災学習、防犯教室等を実施する　②児童会等と連携して、生活に必要な安全意識を高める取り組みを行う** 【成果】 １① 行事等で協力し合える集団づくりを行うことができた。 　② 町づくり協議会に協力しもらい、地域の特色であるばんこ焼き、竹明かりなどの体験を行うことができた。 　③ キャリア・パスポートを３学期の教育相談に活用し、次年度につながる話を行うことができた。 ２避難訓練の内容を改善してよりよい形を模索することができた。児童会と連携し、安全の意識を高める取り組みができた。 【課題】 １③キャリアパスポートにまとめていく、内容について統一系統化していく。学校区でそろえられるように議論していく。	

重点目標４	学びを支える	4
主な方策 成果と課題	**【方策】** **1特別支援・登校サポート　①個に応じた学びを保障する　②必要に応じて専門機関・ＳＣ等と連携し、迅速かつ組織的に対応する** **２安全安心な学校づくり　①食物アレルギー対応を徹底する　②医療的ケアを安全に実施する　③校内環境・学習環境を整備し、安全性・機能性・快適性を高める** 【成果】 1 毎月定例の特別支援委員会・登校サポート委員会を軸に、日常から個に応じた支援を検討し実践できた。必要に応じて各種機関と連携できた。 ２　アレルギー対応や医療的ケア児への対応は、担当者を中心としながらも、情報共有を密に行い、全教職員で対応することができた。 【課題】 １　支援を必要とする子どもの増加・多様化に応えるために、人的配置や時間の確保が今後も必要である。	

重点目標５	学校教育力の向上	4
主な方策 成果と課題	**【方策】** **１学校経営の充実　①コミュニティスクール運営協議会とともに学校づくりビジョンの推進を図る　②専門スタッフと連携し、チーム学校を確立する　③職員の反省や提案を活かした業務改善を行う** **２職員のウェルビーイング　①総勤務時間を縮減する　②定時退校日を設定し徹底する　③支え合う職員集団をつくる** **３確かな教師力　①授業づくり、仲間づくりを中心とした校内研修を実施する　②すべての教師がルールを明確に示し徹底する　③コンプライアンス研修を定期的に実施する** **４開かれた学校づくり　①学校教育活動に関するアンケート（学校関係者評価）に基づく学校づくりを行う　②学校ホームページ等による情報発信を行う** **５地域・家庭との連携　①地域や保護者の学習支援ボランティア（読み聞かせ等）、ゲストティーチャーを活用する　②地域・家庭との連携し、登下校時の安全を確保する。** 【成果】 1③反省をもとに、運営委員会を設け、話し合って改善していった。 ３①全体研修では、自己研修の後にふりかえりを記入し、自分の授業に生かせるような仕組みを作った。 0JTで１ヶ月に１回ＩＣＴのミニ研修を行い、ＩＣＴスキルを高めることができた。 ②学校で統一されている生活のきまりがあり、それを踏まえて学年部でルールが徹底されるように声をかけあいながら指導をすることができている。 ③学期に１回以上定期的に取り組むことができている。コンプライアンス研修の種類に応じてじっくり話し合う機会を設けた。コンプライアンスの内容を限定しながら定期的に研修を重ね、教職員の意見交流などを通して深めることができた。 4教育活動に関するアンケートの結果から、学校運営協議会（ＣＳ）において意見をいただき学校運営に反映させることができた。 5①まざりぃずに読み聞かせの定期的な活動をしてもらった。地域の人材を活用して、授業内容を組んだ。本年度から大正琴クラブを新設し、ゲストティーチャ―による指導を受けられる機会を作ることができた。 　②学期に数回学校職員も登下校指導を行った。 【課題】 4②学校ホームページを充実してほしいという意見を受けて、見やすくわかりやすいホームページを作っていく。	

２　改善方針

・研修でタブレットの効果的な活用方法を考えていき、「書く」力をつける指導も取り入れていく。
・児童が興味をもち、深い学びにつながる「めあて・課題」の設定を研修で研究していく。また「協働的な学び」とはどういった姿なのか、具体的に明らかにしてその姿になるよう方策を考えていく。
・図書館の利用が広がるように、読書週間、図書館祭り、日常の図書指導など継続しながら、新たな取り組みも取り入れていく。
・人権カリキュラムに応じた人権課題を年度当初から計画的に取り組み、実践を確実に行う。実践したデーターは蓄積して今後に活かしていく。
・学びの一体化で「キャリアパスポート」活用について話し合い、学校区で取組をそろえていく。
・子どもの多様化への対応として、専門機関と連携をとる。情報共有したり研修を行ったりして教職員の特別支援教育の専門性をさらに高めていく。
・学校ホームページについて、学校活動についての関心のある内容を発信したりするなど、充実に努めたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　海蔵小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	毎日の授業の充実	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇授業を通じ、子どもたちが学ぶことの楽しさや大切さを感じ、確かな学力やより広く深く学ぼうとする意欲を高める。 〇体育の授業や体育的行事を、運動の楽しさを感じられるものにするとともに、運動機会をできるだけ多くして体力を高める。 【成果と課題】 〇教科担任制では、教員の専門性が活かされ、授業内容の充実につながった。少人数授業では、子どもたち1人ひとりに対してきめ細やかな指導を行うことができ、学習理解向上につながった。児童アンケートでは、「授業は、分かりやすいか94.4%」、保護者アンケートでは、「学校は分かりやすい授業を行っていると思うか94.9%」と高い数値を示した。 〇５分間走週間、なわとび週間、なかよし活動など児童の体力向上に向けた活動に取り組んだ。 〇ICT機器を授業に使用してきたが、さらに授業のねらいに対して効果的に活用できるよう工夫改善を行っていく。	

重点目標２	道徳的実践力と自尊感情の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇道徳的実践力を育てるとともに、自尊感情（自分のよさに気づき、自分をかけがえのない存在と感じる）を高める。 〇なかまづくり研修会の実施、四日市市人権・同和教育研究大会への参加 【成果と課題】 〇四日市市人権・同和教育研究大会には、常勤職員全員が参加し、様々な人権問題について学んだ。研修会参加後は、１人ひとりが学んできたことを共有するため、研修会を開き還流報告を行った。 〇定期的に研修（人権アップデート研修等）を実施し、最新の人権問題や子どもたちが安心して自分の思いが出せる仲間づくりの取り組みについて個々の学びを深め、教職員の人権意識、学級経営の向上を図った。 〇道徳授業を深めるために、各学年の実践や研修会での学びを交流する機会を設けるなどして、さらに「考える道徳」につながる指導改善を行っていく。	

重点目標３	誠実な態度　規律ある態度　勤勉な態度の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇自分からあいさつ・礼をする習慣の育成　　〇授業に真剣に取り組む態度の育成 〇きまりの順守（整った身なり、体育の服装、名札の着用、右側歩行） 〇そうじの取り組み（黙って、進んで、最後まで） 〇なかまづくり（相手の気持ちに寄り添った言葉づかい） 【成果・課題】 〇あいさつについて児童アンケートでは、「自分からあいさつができますか90.3%」と昨年度より2.3%増となり、習慣化されつつある。 〇そうじの取り組みについては、日常のそうじだけでなく、定期的にそうじがんばり週間を設けた。児童アンケートでは、「静かに最後まで掃除ができたか90%」と昨年度より3.6%増となり、日々一生懸命に取り組んできたと言える。 〇家庭学習については、家庭学習の手引きをもとに、家庭への協力と児童への指導を続けているが、なかなか定着しにくい現状がある。タブレット学習も含め、今後も、家庭との連携や啓発を続けていく。	

重点目標４	教職員の研鑽と協働	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇ICT機器の効果的な活用をめざした校内研修の充実 〇「自己目標設定シート」を作成し、能力、意欲、組織力の向上を図る。 〇生徒指導、特別支援委員会等による情報共有と組織的、効果的な対応 〇学年・全職員の共通理解による一致・連携した指導 〇教職員が連携し生き生きと効果的に働くことのできる環境づくり 【成果・課題】 〇ICT機器の効果的な使用について研修を行い、教職員のICT活用の意識が高まり、各学年で共有し、授業に活かすことができた。 〇研究授業では、事後研修会を大切にして、授業改善につなげた。効果的に活用できるよう工夫改善を行っていく。 〇生徒指導、登校サポート委員会、特別支援委員会等を通して、情報共有を行い、具体的な対応や外部機関との連携など組織的に行うことができた。	

重点目標５	家庭・地域との連携	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇コミュニティースクールの推進　〇学びの一体化の推進　〇学習環境整備の推進 〇学校からの情報発信・啓発　〇家庭学習習慣の定着 〇地域の人材、素材を活用し、地域に根差した学習活動の推進 【成果・課題】 〇地域の方々による着衣泳や地場産業である萬古焼体験、また、保護者による学習・図書支援ボランティアなど、地域や家庭の協力を得て、子どもたちの学びをより豊かなものとすることができた。 〇地域や家庭の協力を得て、運動会や海蔵っ子走ろう会等の学校行事を効果的に、また、安全に進めることができた。 〇登下校の安全や下校後の安全について更なる指導や見守りが必要な現状があるため、地域や家庭と連携して取り組みを進める。	

２　改善方針

・授業の課題を明確にして、自分で考え、仲間と考えを深め、伝え、伝え合い、学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを推進する。 ・教科担任制及び少人数授業、ティームティ―チングなど様々な学習形態を工夫し、基礎学力の定着や学習意欲の向上を図る。 ・委員会活動、クラブ活動、なかよし活動など子どもたちが主体的に活動、運営する機会を設け、子どもたちの自尊感情・自己肯定感の向上を図る。 ・研修やOJT教育を通して、人権教育、道徳教育の充実を図るとともに、子どもたち1人ひとりが安心して過ごせる仲間づくり（学級経営）を推進する。 ・ICT機器を用いての授業改善や学校、学級業務の効率化を図る。 ・地域、家庭と連携して、地域人材、地域教材の活用、発掘を行い、魅力ある生活科・総合的な学習の時間を推進する。 ・家庭学習の手引きを年度初めや、学期初めに確認する。また、学年通信等による家庭への啓発を続ける。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　富洲原小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①基礎・基本的な「知識」「技能」の定着②主体的に学習に取り組もうとする意欲と態度の育成③課題を解決するために必要な「思考力」「判断力」「表現力」の育成④リーダーシップ・チーム力の育成⑤ICTを活用した情報活用能力とプログラミング的思考の育成⑥読解力・表現力の育成⑦筋道を立てて説明できる論理的思考力の育成⑧英語コミュニケーション力の育成 【成果と課題】 ・児童アンケートにおいて、「考えをよく聴いていますか」「先生たちは考え合う、話し合う授業をしていますか」に肯定的な意見の児童が９０％以上で、概ね達成できてきたが、「授業中に自分の考えや分からないことを発表したり伝えたりしている」児童の割合は５９％にとどまっており、考えや思いを「伝えあう」ことがまだまだ十分にできていない現状が明らかになった。どんなことでも言い合えるなかま関係を日常から築いていく必要がある。 また、保護者アンケートで「お子さんは、授業が分かりやすいと言っていますか」の肯定的回答が７６％で低くなってしまった。「学び合い」を基盤とした授業づくりに取り組んではいるが、より一層授業改善を図る必要がある。 ・読書活動については、今年度から図書室出入り口を施錠せず、いつでも図書室を活用できるようにしたり廊下の一角に読書コーナーを設置したり読書環境の整備に努めた。その結果、休み時間に図書室や読書コーナーを活用している児童の姿がみられた。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①人権教育・道徳教育による自分自身を見つめる機会の充実②多様性の尊重と他者との協働③メディアリテラシーの養成④最後までやり遂げる粘り強さの育成⑤本好きの子どもの育成⑥生涯にわたって健康に生きるための体力・運動能力の育成⑦運動に親しむ気持ちや運動習慣の基礎づくり⑧健康教育・食育を通した心と体の健康のための基本的な生活習慣の定着 【成果と課題】 ・「安全に気をつけて行動している」が９６％、「命を大切にする、いじめをしないことに気をつけていますか」が９４％肯定的な回答であった。しかし少数の児童は肯定的でない回答をしており、保健指導や食育、道徳や学級活動のなかでも、自分や友だちの「いのちの大切さ」について考える機会を継続的に作っていかなければならない。	

重点目標３	よりよい未来社会を創出する力の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①　夢や志をもち、自分なりの人生を作っていく力の育成②生活習慣や学習習慣の習得と定着③豊かな人間関係を育むコミュニケーション能力の育成④ふるさと四日市市への理解・関心を深め、誇りと愛着心の育成⑤「持続可能な社会」を創るため、自ら行動を起こす力の育成⑥安全教育の推進による危険予測能力の向上⑦現代的諸課題に対して自分なりの考えをもち、発信できる力の育成 【成果と課題】 ・地域の消防団や自主防災隊と連携した防災・安全教育を実施することができた。大変貴重な体験であるとともに、地域の方と交流することができるよい機会となった。地域との連携を今後も大切にしていきたい。	

重点目標４	全ての子どもたちの能力を伸ばす教育の実現	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ① 一人ひとりの教育的ニーズを把握し誰もが安心して過ごせる教育の充実②日本語指導が必要な子どもへの指導の充実③誰一人取り残さない教育の実現(不登校等も含む)④早期発見、初期対応、支援の充実⑤家庭との連携による「学び」の基礎づくり⑥学校に関する情報の発信と学校評価の活用 【成果と課題】 ・一部教科担任制の導入や、少人数授業の工夫、教材研究など、指導体制の充実に努めた。また、特別支援教育の充実として、個々の教育的ニーズに応じた指導に取り組んだ。その結果、児童アンケートで「学校生活は楽しい」と肯定的に回答した児童の割合が９０％となった。 ・校内研修で取り組んでいる「誰一人取り残さない」を合言葉に、学習や人間関係に課題やしんどさを感じている児童に寄り添い、家庭とも連携しながら個々に応じた指導を継続していかなければならない。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ① 三錨コミュニティスクール、保幼小中の連携を核とした「地域とともに歩む学校」づくり②地域資源を活用した教育の推進と子どもたちが学んだことを地域への還元する機会の充実③教職員の資質・能力の向上(教育Adv.の活用、研修会への参加、講師招聘等) ④働きやすい職場環境の推進⑤「チーム富洲原」による学校活動の充実 【成果と課題】 ・今年度は、人権・同和教育を柱として校内研修に取り組んだ４年目である。全体研修会を実施するとともに、各学年部で教材研究や指導案検討会の機会をもって、人権学習の授業づくりや子ども理解について議論を深め、実践につなげることができた。 ・今年度、教育委員会の教育アドバイザーに定期的に来校していただき、若手教員を中心に、年間で複数回の指導を受けた。的確な助言を受け、授業改善につながった。	

２　改善方針

【確かな学力の定着】
基礎・基本的な「知識」「技能」の定着と、主体的に学習に取り組もうとする意欲と態度の育成を図る。また、考えや思いを伝えあう授業を効果的に行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。
【ＩＣＴを活用した授業づくり】
ＩＣＴに関わる研修を継続的に行い、教員のＩＣＴ機器活用スキルを高め、タブレット端末を活用した学習活動の充実を図る。児童の情報活用能力を育成する。
【チーム富洲原による学校活動の充実】
今年度は生活指導上の問題があった時などにケース会議を行い、管理職・各担当教員だけでなく、ＳＳＷやＳＣとも連携し問題の解決に当たることができた。来年度もさらに連携していくとともに、校務分掌担当を複数にしたり、チームで活動したりすることで、若手教員をサポートし、学校運営がスムーズに進むような体制を作る。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　富田小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	4
主な方策 成果と課題	(1)基礎学力を定着させる ・漢字習熟の取組では、学期末の漢字テストで90%以上の達成を図るために繰り返し練習させた。2学期は94%の児童が達成できた。計算習熟の取組では、学年重点計算問題を該当学年での内容を網羅しているか見直し、習熟の取り組みを進めているところである。 ・基礎学力の積み上げが着実にできるよう、職員間で児童の習熟度を共有した。確実に次年度へ引継ぎや必要な支援・指導方法を考えたり、習熟度別少人数授業へ活かしたり、きめ細やかに指導を行うことができた。 ・学調・みえスタの結果を分析し、弱みの分野を全体で共有し、重点的に取り上げ、継続的に繰り返し指導を行った。 ・校内読書週間を年3回設けた。読書イベントや家族読書を楽しむ姿が見られ、タブレットを使った電子図書館の利用者数も増加した。児童アンケート「読書が好きですか」は肯定的回答が72.6%だが、保護者アンケート「お子さんは読書が好きですか」は39.7%と差がある。さらに、読書を家庭にも啓発していく。 (2)家庭学習の習慣をつける ・「家庭学習の手引き」を毎学期配付し、宿題や自主学習を毎日確実に取り組むように意識させた。家庭学習習慣が定着しにくい家庭と連携を取りながら指導を続けていく。 (3)個に応じた指導を行う ・年度当初計画していた算数科における算数少人数教育が、人員配置上難しいことがあったが、単元ごとに児童の習熟に応じたクラス分けをしたり、内容に応じてT2を配置したりして指導を進めてきた。 ・タブレットを活用した学習を日常的に行った。今後も、教科の学びを深め教科の本質を深めることができるICT活用術について研修を続けていく。	

重点目標２	心の教育の充実	4
主な方策 成果と課題	（１）規律を守る心を育てる ・代表委員会を中心に挨拶運動の取り組みを行った。登校時、友達や先生に自分から挨拶をする児童や、地域の方へも気持ちの良い挨拶ができる児童が多く見られた。 ・廊下歩行については、児童アンケート「廊下は歩いていますか」は83.5%と課題が残る結果であった。安全委員会を中心に、児童が廊下を歩くよう声を掛け合っている。児童が自ら廊下歩行を心掛け生活できるよう、教師からも指導を続けていく。 （２）思いやりの心を育てる ・年３回の教育相談、年３回のいじめ調査、年２回のＱＵ調査を行い児童の実態を的確に把握できるようにした。児童が互いにありのままを受け止め支え合って生活できるよう「なかまづくり」の研修を通じて取組を進めた。 （３）よりよく生きる心を育てる ・道徳の授業について、全体で研修する機会を設け、教師の授業力向上に努めた。 ・６年生が主体となって「富田っ子集会」を開き、人権集会を行ったり、全校児童で歌を歌ったり、発表を聞き合ったりしてよりよい富田小学校にしようという気持ちを全校で共有できた。	

重点目標３	健康な心と体の育成	4
主な方策 成果と課題	（１）運動を楽しむ態度を育てる ・運動会をはじめ、体力テスト、かけ足や縄跳びの取組等を今年度も全校で取り組んだ。体力テストの調査対象の学年では、全国平均を上回る結果を残した。 ・児童アンケート「休み時間外で元気に遊んでいますか」は56.6%と低い。体育の授業や学校行事を工夫し、運動に親しむ態度を育てていくことが今後の課題である。 （２）基本的な生活習慣をつける ・栄養教諭・養護教諭を中心とし、保健室前の掲示物作成や給食・保健だより配付の取組を通じて、食の大切さや健康な過ごし方について啓発してきた。また、歯磨きや早寝早起き等について計画的に指導した。児童アンケート「けがや事故が起こらないように安全に気をつけていますか」は肯定的回答が93.9%と高い結果となった。 （３）安全意識の向上を図る ・今年度も計画的に、地震・火災の避難訓練を行った。今年度も、児童が主体的に自分で判断して避難する内容を取り入れ、より実際的な想定で取り組んだ。また今年度は地域の自主防災隊にも入っていただき防災学習の充実に取り組んだ。	

重点目標４	学校教育力の向上	4
主な方策 成果と課題	（１）新学習指導要領に対応できる力量を高める ・教職員一人ひとりの授業力向上を目指し、年度当初に個人で今年度の研修計画と重点教科を設定するとともに、学年でも目指す子どもの姿を明確にした上で学年研修テーマを設定した。そして、四日市市新教育プログラムの6つの柱を意識しながら、学年テーマに応じた取組や授業改善を進めた。授業改善の視点として、昨年度から引き継がれた「学年に応じた子どもの姿を目指すための手立て」について年間を通して考察する中で、その学年に応じた手立てや、学年の伸ばすべき力は何か検討することができた。また、重点教科・領域別のグループで熱心に教材研究をする教職員が増え、授業改善への意識が向上した。 ・今年度も指導主事や教育アドバイザーを招いての授業研究を多く実施した。また、中学校区教員に授業を公開し助言をいただく機会もあった。それらを記録したり指導案の再案を考えたりする中で、自分自身を振り返るとともに全教職員で学びを共有することができ、さらなる授業改善に生かすことができた。 （２）教職員の資質向上を図る ・年4回の人権・同和教育推進研修会を実施し、教職員の人権感覚を養う取組を行った。また、月1回若手研を実施し、OJT研修や指導主事による授業観察を実施する中で、若手に今必要な力や要望に応じた研修の機会を作ることができた。 （３）保・幼・中との連携を強化する ・学びの一体化による連携として、11月末に四日市市新教育プログラムに即した指導案を作成し各学年1クラスの公開授業を行い、保幼小中それぞれの立場で意見交流を行った。また、人権フォーラムや乗り入れ授業などを実施し連携を図ることができた。	

重点目標５	組織的な指導体制の構築	3
主な方策 成果と課題	(1)個に応じた指導を行う ・定期的に、特別支援委員会及び登校サポート委員会を行い、情報共有を行った。担任とともに、養護教諭や通級指導教室担当、SC等による専門的な助言を踏まえ、学校として対応方針を決定してきた。5・6年生において教科担任制を行うことで、教材研究や児童理解を深めることができた。 (2)子どもたちが安心して安全に過ごせるようにする ・週１回打合せ時に児童情報交換を行った。校内の児童の様子を共有し、学校として統一した指導ができるよう共通理解を図ることができた。また定期的に、特別支援委員会及び登校サポート委員会を行い、情報共有を行った。 (3)教職員が本来の任務に専念できる学校運営を行う ・業務アシスタントを適切に活用し、任務に専念できる学校運営を進めてきた。今年度も、従来の教育活動について教職員全員で見直し、効果的な指導の在り方に向け改善を図ることができた。 ・教職員が児童の様子を観察し、SCやSSW等と連携して取組を進めた。	

重点目標６	家庭・地域との連携	3
主な方策 成果と課題	(1)地域とつながる活動を推進する ・学年ごとに活動を計画し、地域の方を招いたり、地域に出て見学したりして学習を進めた。学んだことを掲示物にまとめ、地域とのつながりを学校全体へ広げ取組を進めた。 ・今年度は本校創立150周年記念の年であり、児童・教職員・保護者・地域が協働しながら式典を行った。相互に関係を築くことで活動が活性化し、家庭・地域とのつながりを強めることができた。 (2)積極的な情報発信・受信を行う ・全学年Google Classroomで予定を共有し、緊急時にはH&Sで情報発信を行った。学校の様子をより多くの方に知っていただくために「学校だより」「学年だより」「ホームページ」等を活用して情報を発信した。 (3)コミュニティスクールの取組を発展させる ・地域の伝統行事である鯨船の学習をはじめ、クラブ活動や読み聞かせ等の地域資源を活用した有意義な学習活動を行った。 ・社会の多様化に合わせ、家庭・地域と学校との連携をさらに進められるよう、PTA活動の在り方を工夫し取組の改善を図ってきた。	

２　改善方針

【確かな学力の定着に向けて】
・一人でも多くの児童が「授業が分かる、楽しい」と実感できることを目標に、学習規律の徹底、なかまづくり、学調・みえスタの活用、ICT活用等教員一人ひとりの授業力向上を目指す。
・年3回の校内読書週間をさらに充実させ、校内での読書活動の取組を保護者に発信するとともに、家族読書の啓発を一層進めていく。
【健康な心と体の育成に向けて】
・健康安全部を中心とした体力テストの系統的な取組、基本的な生活習慣をはじめとする健康教育と食育、体育の授業づくりや運動会等学校行事の工夫、休み時間の外遊びへの啓発等、さらに運動に親しめるよう指導や環境を充実させていく。
【学校教育力の向上に向けて】
・経験の浅い若手教員も増えたことから、若手教員育成という課題もある。そのために、経験豊富な教員から学ぶとともに、若手教員同士でも研修を重ねる若手教員研修を月１回行ってきた。来年度も継続していく。
【組織的な指導体制の構築に向けて】
・高学年における教科担任制の運用を工夫し、学校全体で効果的な指導体制を整えていく。
・ボランティア活動を募り、保護者・地域との連携を図り、教育活動を充実させていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　日永小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の育成 （主体的に粘り強く学習に取組み、心豊かに学ぶ子の育成）	3
主な方策 成果と課題	基礎学力の定着を目的に、毎日１０分間の朝学習時間を確保した。また、自ら学ぶ力をつけるため、共通の宿題に加え児童が自身で課題設定をして取り組む家庭学習（プラスワン）を実施した。プラスワンにおいては、グッドモデルを掲示等で紹介し、学習方法を児童同士が参考にできる場を作り、学習意欲の向上を図った。授業の中では、発表やグループ活動の時間など、お互いの意見を聞き合う機会を設けたことでコミュケーション能力の育成にも力を入れた。更に授業等の活動の中で、ICT機器を効果的に活用することで子どもたち一人一人の考えが共有しやすくなり、お互いに学び合う姿が増えた。また、学習に集中できる環境づくりの一環として、授業開始チャイム時の着席、学習用具の準備を徹底する取組を続けた。 国語科では読解力向上に向けた取り組みに重点を置き、授業づくりに取り組んだ。今後は国語科で学んだ読解力向上の力を他教科等でも発揮することができるように、更に研修を深めながら活用できる幅を広げることができる力の育成につなげたい。また、すべての教科でICTの良さを活かした子どもたちの確かな学力の育成に努めたい。	

重点目標２	豊かな人間性、健康な心と体の育成（いじめや差別を許さず多様性を尊重して共に育つ子・きまりを守り場に応じた行動ができる子・命と健康を大切にし運動を楽しむ子　の育成）	3
主な方策 成果と課題	各学年での情報共有をはじめ、週に一回の学校全体での情報共有や管理職との連絡・相談を行ったり、いつでも支援ができる体制を整えたりすることなどを通して、学校として組織的に対応する指導体制を構築している。 また、各学年における人権教育カリキュラムのもとに学校全体で系統性をもった人権教育を進めている。地域や家庭も含めて、連携しながら取り組みを進めていきたい。 体育の授業で体を動かす時間を多く確保したことで、体を動かす楽しさを知り、児童が主体となって外遊びする時間が多くなった。体育の専門的知識・実践力のある教職員を中心にOJT研修会を開き、児童が達成感を感じられる授業の進め方の検討を行った。 児童アンケートの「学校の決まりや約束を守っている」の項目が2ポイント減少しており、児童になぜきまりがあり、きまりを守る必要があるのか主体的に考えさせたり、取り組ませたりする場をつくっていく必要がある。	

重点目標３	よりよい未来をつくる力 （未来の姿や新たな目標・課題解決に向かって前向きに行動する子の育成）	3
主な方策 成果と課題	本校では、児童といろいろな人とのかかわりをもつことを大切にしている。そこで直接お話を聞く機会があることで、興味関心をもち問題を探り、解決していく問題解決型の学習を大切にしている。そこで、地域の自然や歴史を学習素材として取りあげると同時に地域の人々とかかわる機会を積極的に設け、児童が興味・関心を持てる探究活動を進めてきた。具体的には、総合的な学習で「日永つんつくおどり保存会」、「見守りボランティア」の方々からの聞き取り、近隣の高等学校主催の「ものづくり体験などを進めた。このほかにも、本校保護者らで組織された、読書支援サークルによる読み聞かせ、異学年との交流および児童が主体となって取り組む児童会行事を実施した。 成果として、どの学年でも年度初めにカリキュラムマネジメントに取り組み、六年間を見通した系統的計画的に学習を行うことができた。その一方、教員が例年通りの活動ありきとなっている姿が少なからずあり、「つけたい力」「学習のねらい」をしっかりといしきして取り組みを進化させていく必要がある。	

重点目標４	子どもの能力を伸ばす教育の育成	3
主な方策 成果と課題	指導体制では、高学年での教科担任制、単元によって単純分割、習熟度別と柔軟に取り組んでいる。外国人児童委員会を年間行事の中に定例化して、支援している児童の情報交換や指導内容等管理職を含めた対応を検討した。その結果、日本語指導が必要な外国人児童の進路学力保障から、レベルチェックによる取り出しに取り組んだ。 不登校児童が増える中、今後も支援委員会が中心となり，児童一人一人の実態を共通理解して方策を検討していく必要がある。個々に応じたステップで進めていけるように、全職員が同じスタンスで向き合っていけるようにしたい。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	生徒指導体制の充実を図るため、週1回の児童の情報交換に加え、特別支援委員会と登校サポート委員会を定例化し、情報共有し迅速につなげた。 研修主題の副題を「学び合う授業づくりを通して」として、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて取り組んだ。担任は１人１回の授業提案を行い、授業改善を推進するとともに、 業務改善については、定時退校日の設定や校務の電子化、業務アシスタントの活用を通して、業務時間の削減を行い、その分を子どもと向き合う時間や心のゆとりを確保に努めた。 コミュニティスクール運営協議会を年5回開催し、10名の委員の方に授業の様子を見てもらったり、学校運営や教育活動に対する意見を伺ったりして、今後の学校運営の改善点とした。 成果としては、今年度の学校評価アンケートにおいて、「日永小学校の教育について満足している。」の項目では、９７%の保護者の方が肯定的な評価となっていることである。	

２　改善方針

〇児童が「わかりやすさ」「楽しさ」「達成感」を感じられるように、実態を丁寧に把握したうえで、つけたい力を明確にした授業づくりに取り組む。研修を深め、ICT機器の活用を日常のあらゆる教科領域で活かした授業改善に努める。
〇児童が人権課題を身の回りの出来事とつなげ、自分事として考えられる人権学習を進めることで、人権を尊重する態度を伸ばす。子どもたちが主体的に、きまりを守り、場に応じた行動ができるよう様々な場で、児童が主体となる取り組みに努める。
〇家庭への啓発を進めるとともに、保健学習、食の学習を充実させ、児童が自らよりよい習慣とリズムで生活しようとする実践力を養っていく。
〇授業研修と教職員同士の授業実践交流を積極的に進め、ベテラン、中堅、若手が共に学び合うことで、教職員の資質、授業力の向上を図る。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　四郷小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着（研修・学習指導部）	3
主な方策 成果と課題	【子どもが自ら考え・学び・活躍できる場を育む】 ・問題解決的な授業、探究的な学習の場面において、タブレット端末を活用し、情報を収集したり、効果的な発表手段として活用する機会を設けることができた。児童アンケートにおいては、８７％の児童が授業でタブレット端末を学習時に使用することに肯定的な回答を示した。 ・朝の学習の時間などを活用し、読解力にかかわるプリント等に取り組んだ。また、「ミライシード」、「こにゅうどうくん学びの部屋」などの学習コンテンツを活用し、基礎的な知識・技能の定着を図ることができた。児童アンケートにおいては、９０％の児童が授業内容の理解について肯定的な回答を示した。 ・言語活動の充実に向けて、教科授業以外での活動も増やすために、朝の会や集会などでスピーチやプレゼンテーションの取り入れをすすめ、機会を増やすことができた。	

重点目標２	心と体の健全な育成（生活指導部、健康安全指導部、研修・学習指導部）	3
主な方策 成果と課題	【自他を大切にするとともに、心と体の健康を意識し実践できる子どもを育む】 ・自他の人権を守る実践的行動力の育成にむけた人権学習や道徳の授業をすすめたことより、仲間への意識の高まりがみられ、９８％の児童が自分や友だちのことを大切にすると肯定的な回答を示した。 ・規範意識の向上を目指し、「四郷っ子のやくそく」について、年度始めや長期休業前など定期的な指導をすすめた結果、約束を守る意識について、児童の９１％が肯定的な回答を示した。 ・「かけあし運動」や「なわとびチャレンジタイム」など体力づくりのための全校活動を位置づけ、８９％の児童が積極的に体を動かしているとアンケートで回答した。 ・読書活動の充実に向けて、図書室のイベントや読み聞かせの機会を設けることができた。PTAからの図書の寄贈、電子図書館の推奨など環境整備も進め、読書への取り組みについて、肯定的な回答が７５％と上昇した。 ・規則正しい生活の定着に向けて、ほけんだよりによる啓発や食育の授業を実施したが、生活リズムに対する児童の意識の高まりは８０％に留まり、さらなる家庭との連携の必要性が課題となった。	

重点目標３	よりよい未来社会を創造する力の育成（各指導部）	3
主な方策 成果と課題	【夢や志の実現に向け、学ぶ意欲・コミュニケーション能力を育む】 ・キャリアパスポートを活用し、年度初めの目標設定、定期的な振り返りの実施でもって系統的にキャリア教育に取り組むことができた。しかしながら児童アンケートの「将来の夢や目標も持っているか」について、肯定的に回答した児童は８６％にとどまっており、夢や志の実現への意欲の向上に課題があるところから、生活科や総合的な学習の時間において、さまざまな方との出会い学習を進める。 ・四郷郷土資料館や伝統芸能クラブという地域教材、地域財産を積極的に活用することができた。特に郷土資料館については、今後、さらに利用学年を増やしていきたい。 ・安全意識の向上について、交通安全ボランティアとの学習の場を設定したり、地域の防災訓練への参加をすすめ、児童がよりより地域づくりへの意識醸成への機会を持つことができた。	

重点目標４	特別支援教育の充実（特別支援教育推進委員会）	3
主な方策 成果と課題	【一人ひとりの子どもの特性や能力に応じた、適切な指導・支援を行う】 ・特別支援委員会を月１回定例で実施し、支援の必要なさまざまな児童の状況について共有を図り、日常の支援やサポートルームの活用などについての協議や、関係機関との連携をすすめることができた。 ・SC、SSWからの指導助言をもとに、日々の指導を構築することができた。引き続き、児童や保護者の思いをしっかりと受け止め、合意形成を図っていくことが必要である。 ・西日野にじ学園との交流では、互いの学校を訪問する学校間交流や小学校に訪問していただく居住地交流を実施することができた。取り組みの多くは対面で実施し、ダンスや運動で交流を図った。また、掲示物や動画などで交流を行うこともできた。今後、交流による相互理解がさらに深まるよう、目的や意図の共有をすすめる。 ・「相談支援ファイル」に関するOJT研修を行い、児童の実態や保護者の願いなどを把握し、系統的に支援をすすめる手立てであることへの理解を深めることができた。	

重点目標５	学校教育力の向上（教務部、ＰＴＡ、くろがねもち協議会）	3
主な方策 成果と課題	【学校・家庭・地域が連携・協働し、「地域とともにある学校」づくりを進める】 ・学校ホームページをほぼ毎日更新し、通信等もHome＆Schoolなどを活用して様子を伝えることができた。保護者アンケートの「学校は取り組みや子どもたちの様子が伝わっているか」という設問に対して、９３％の方が肯定的な回答を示した。 ・コミュニティースクール運営協議会からは、登下校の安全や読書量の向上など、学校の実態を踏まえた意見を出していただき、日々の教育活動に生かすことができている。 ・児童・保護者・教職員アンケートを実施し、アンケートの分析を行うことで、教育活動の継続的な改善を図ることができた。 ・交通安全、図書、クラブ、学習、環境整備など、様々なボランティアの方々に積極的に活動いただくことで、子どもたちの学習活動を支えていただくことができた。 ・ＰＴＡの組織構造改革や活動の精選を進めることができ、持続可能な組織として位置付けることができた。 ・ＩＣＴを活用して業務を改善したりして、現場レベルの働き方改革に取り組むことができた。教職員の時間外労働については、さらなる改善が必要である。	

重点目標６	教職員の資質・能力の向上（研修・学習指導部）	3
主な方策 成果と課題	【子どもたちの生きる力・共に生きる力を育むため、教師力の向上を図る】 ・全教員が提案授業を公開し、指導主事及び同僚等から指導・助言を受ける機会を設け、「主体的・対話的で深い学び」に向けた研修に取り組むことができた。 ・中学校区（学びの一体化）の児童生徒で「子ども人権フォーラム」に取り組み、人権課題に対する問題解決能力の育成の機会をともに持つことができた。 ・ICT活用や特別支援教育、若手教員の育成に向けた研修について、校内の教員が研修を担い、同僚性を生かした取り組みとすることができた。 ・市教育委員会の人権教育の推進にかかる研究指定を受け、県内外の先進校視察や研修会参加をすすめることができた。人権教育の実践を次年度の研究発表で成果としてを示していく。	

２　改善方針

・学校教育目標の実現に向けて、だれひとり取り残さない授業づくりに取り組む。その基盤として、日々の授業づくりにおいて、一斉型授業からの脱却（子どもの主体的な学び）、聴き合う文化の構築、学び合う環境づくり（一人・ペア・グループ）の３点を意識した実践に取り組む。
・ICT（タブレット端末）の活用について、系統的に能力を育成し、ICT活用が各教科等のねらいを達成する「手段」として用いる学習活動をさらに整えていく。
・教育活動全般を通じて、子どもの意見表明権を保障するため、児童自らが企画・運営する委員会活動をさらにすすめ、子どもが主体的に取り組む活動への改善をすすめる。
・「北勢地区人権・同和教育研究協議会研究発表」に向けて、自他の人権を守る実践的行動力の育成を目指した人権教育、人権学習の構築をすすめる。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　高花平小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力	3
主な方策 成果と課題	＜主な方策＞ ○ 四日市モデルを活用した問題解決能力の育成 ○ 児童が論理的に対話し、解決する課題提示とＩＣＴ等を活用した協働的な学び ○ 自ら学ぶ姿勢をもとにした個別最適な学び～基礎的な知識・技能の定着～ ＜成果と課題＞ ・問題解決能力の育成を目指し、四日市モデルを意識した研修を行い、授業作りに取り組むことができた。 ・タブレット端末を活用し、個別最適な学びや協働的な学びを推進することができた。 ・朝の帯時間を「朝の読書・朝の学習」として活用し、基礎学力の定着を図ることができた。 ・高学年の算数において少人数指導を導入し、より丁寧な授業を実現した。 ・小規模校であるため、教員の年休や出張時に少人数指導やTT（チームティーチング）が困難になる。	

重点目標２	健全なこころとからだ	3
主な方策 成果と課題	＜主な方策＞ ○ 児童一人ひとりが“ＨＥＲＯ”　となりお互いに認められる学級づくり ※Help（助ける）Empathy（共感）Respect(尊重）Open-mind（広い心） ～「BE A HEROプロジェクト」より～ ○ 道徳・人権教育の充実と実践力の向上 ○ 運動の日常化の推進（体育科授業の充実） ○ 読書環境の充実と読書活動の推進 ＜成果と課題＞ ・いじめの早期発見と早期解決に向け、全職員による情報交換の場を設け、見守り体制を整えた結果、重大事態に発展することなく、適切に対応することができた。 ・図書館司書が学習に関連した書籍を紹介・準備してくれたことで、読書活動が一層充実した。 ・20分休みに教師が率先して外遊びを促すことで、多くの子どもたちが積極的に外遊びに参加した。 ・食育に関しては、小山田小の学校栄養職員と本校の担当教員が連携し、計画的に実施した。 ・保健指導に関しては、子どもたちの発達や状況に応じて、計画的に必要な指導を実施した。 ・保健室前の掲示物を定期的に更新することで、子どもたちの保健意識の向上に繋がった。	

重点目標３	未来社会を創造する力	3
主な方策 成果と課題	＜主な方策＞ ○ 社会で活躍する姿を意識したキャリア教育推進 （地域人材・教材、ゲストティーチャーの活用） ○ 地域や社会的課題に問題意識をもつ教育の推進 ○ 『正しいことはカッコいい』規範意識向上～「あいさつ」「整理整頓」「役割・当番」～ ＜成果と課題＞ ・今年度も引き続き、地域人材の発掘に注力し、3年生の学習活動には6名の地域講師にご協力いただいた。さらに、2年生の学習活動では、地域の商店街を訪問し、自治会長をはじめとする方々から多様な話を伺うことができた。 ・地域との地区合同防災学習に向けて地域の方々と協議を進めるなど、地域との連携を強化し、充実した学習活動を展開することができた。 ・家庭学習習慣の定着に向けては、学年に応じた取り組みを進めており、徐々に定着している様子が見られる。今年度から自主学習を「プラス１学習」と名付け、自発的な学習を促したが、今後も一層の向上を目指し、取り組む必要がある。	

重点目標４	全ての子どもの能力の伸長	4
主な方策 成果と課題	＜主な方策＞ ○ 個に応じた指導・きめ細かな指導体制（習熟度別・ティームティーチング） ○ 特別支援教育の充実（教職員の専門性の向上と支援体制の充実） ○ 「わかる授業」「人間関係づくり」「居場所づくり」の充実 ＜成果と課題＞ ・高学年の算数を少人数指導にすることで、きめ細かな指導を行うことができた。 ・専科教員を低学年および中学年の副担任として位置づけることで、複数で見守る体制を整え、複数の視点から児童を見ることができた。 ・特別支援・登校サポート委員会を月１回設定し、サポートルームや登校サポートセンターのよりよい活用に向けた議論を行い、支援の必要な児童のスキルアップを図ることができた。	

重点目標５	学校教育力の向上	4
主な方策 成果と課題	＜主な方策＞ ○ いじめ・不登校等の未然防止・早期対応のための家庭・地域・関係機関・専門スタッフと連携した組織的な教育支援 ○ 四日市版コミュニティスクールを活かした教育活動の充実 ○ 多様な指導技術・深い児童理解につながる校内研修・自己研修の充実 ＜成果と課題＞ ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとも情報共有を密にし、個々の児童の対応について助言を受けて対応することができた。 ・避難訓練を学期ごとに1回実施し、さまざまな事案を想定した訓練を行って、防災意識の向上を図ることができた。 （1学期：地震、2学期：地震・火災、3学期：地域と連携した避難訓練） ・コミュニティスクールを年間4回開催し、授業や子どもの様子を参観した上での意見を基に教育活動の改善に活用した。	

２　改善方針

＜確かな学力＞
・児童の実態に応じて、少人数授業の導入やタブレット端末を用いた授業などを工夫し、より一層「個に応じた指導」の実現を目指す。
＜健全なこころとからだ＞
・児童の日常の様子に細かく目を配り、困り事や悩み事に耳を傾け、その解決に向けて努めていく。
・5分間運動や主運動、休み時間などに、学校全体で底上げを図る取り組みを行い、児童が運動に親しむ環境を整えていく。
＜未来社会を創造する力＞
・家庭学習での児童への指導内容や保護者への働きかけについて、職員間で情報を共有してより一層の定着を図る。
＜全ての子どもの能力の伸長＞
・職員研修を深め、特別支援教育の視点を大切にした授業づくり、環境づくりに取り組む。
＜学校教育力の向上＞
・職員間はもちろん、地域や関係機関との情報共有が徹底できる環境を整備するとともに、会議や委員会の内容を精選し、効率的な運営を目指す。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　常磐小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	【主体的・対話的で深い学び】児童アンケート「学校では聞きあいながら学習に参加」に関しては、ABあわせて94.5%となっており、子どもたち同士の対話を大切にする本校の研修での取り組みが成果となって表れている。 【言語活動の充実による読解力・表現力の育成】児童アンケート「読書活動の実」に関しては、AB合わせて73.6%となった。図書ボランティアの活動や、担任による読み聞かせ、司書や図書委員会企画のイベントなどいろいろ充実しているが、「受動的」であるため子どもたちが「進んで読書をする」にはつながっていないと考えられる。図書委員会企画や、図書ボランティアと連携する中で、自分から図書室に行き本を借りたり、クラスの本を進んで読んだりできるようにしていく。 【学びに向かう意欲をを高める学習環境づくり】児童アンケート「家庭学習の充実」では、ABあわせて81%となった。低学年であればあるほどAの割合は高く、「学年×１０分」であると高学年は時間を確保しにくいことがわかる。宿題に取り組むことが難しい児童もいるため、まずは宿題を毎日ていねいに取り組むことを定着させ、その上で自主学習に取り組めるよう声掛けを続けていく。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	【人権教育・道徳教育】道徳教育推進事業の指定校2年目となり、教員間での授業の捉え方に変化があった。事前検討会でも発問の仕方や授業の流し方を検討するのではなく、この教材で学べることは何かといった本質の部分での検討ができた。児童アンケート「聴き合いながら授業に」の項目でも肯定的な意見が94.5%であることから、子どもたちにも聴き合う大切さが浸透してきたと言える。今後は聴き合う関係を大切にする中で、子どもたちの他者を意識した聴き方・伝え方を高めていく。 【運動好きの子の育成】「休み時間に進んで運動していますか」の質問に対し、肯定的な認識が70.9%→72.6%になった。２０分休みには担任が子どもたちとともに運動場で体を動かす姿も見られ、外で遊ぶことの促進につながったのではないかと思う。３学期も縄跳びチャレンジなどの取り組みを通して外で遊ぶように啓発していきたい。 【健康教育・食育の推進】歯みがきの推進について、歯磨きチャレンジ週間に意欲的に取り組んでいる児童が多かった。その事も一因となってか、児童アンケートでは、１学期（A・B評価が89.8%）から２学期（92.2%）になった。学校の取り組みとして続けていくことで、より身についていくと思う。給食を食べる量の個人差が大きく、低学年からあまり量が変わらない高学年児童がいる実態がある。成長とともに量が必要になることを日々声掛けや食育を通して児童に啓発していきたい。	

重点目標３	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	【キャリア教育の充実】挨拶については高学年になるにつれて自覚をもって取り組むことができている。児童会が主体となって取り組みをさらに広げていく。相手の気持ちを考えた話し方や行動についても88.2%が意識をしている。その反面、基準が個人によるものなので、自分ではできていると思っていても周囲から見るとそうでない場合もあることから、道徳や総合、人権学習の中で基準となるものをつくっていくのも必要だと考える。 【地域との連携】むかし遊び体験（1年生）さつまいもづくり（2年生）米作りの話、防災教室（5年生）歌唱指導（6年生）など各学年で活動ができた。本校では地域の方々が熱心に活動の支援をしてくださっている。学校としても貴重な人材バンクとして連携を継続させたい。	

重点目標４	全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現	3
主な方策 成果と課題	【指導体制の充実】６年生、５年生では、国語・算数・理科・音楽・社会・体育・家庭・図工・書写・英語について、それぞれ担当する教師（専科や担任）がおり、一部教科担任制を行ってきた。「学年の子どもたちは、学年の先生で見ていく」という共通理解が進み、日々の情報交換を大切に進めてきた。学習面だけでなく、生活面等の情報交換も行い、子どもたちの学習面での課題や問題行動等に対して学年で取り組むことができるようになった。 【特別支援教育の充実・支援の推進】特支CoやSC等が中心となり、校内のカウンセリングの充実を図ることができた。職員間での情報共有を定期的に行い、問題の早期発見・早期対応に役立てることができた。継続的に支援や見守りを必要とする児童が年々増加しているので、学級の児童支援を充実させていく。関わった職員や外部機関の対応記録を次なる問題の未然防止に役立てていく。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	【教職員の資質・能力の向上】研究主題　考え議論する子どもの育成 ～対話によって広がり深まる授業づくり～ ・個人目標を設定し、公開週間（6月11月）も含めて年間３回以上の提案授業を行った。 若手教員が多いので、主に授業づくりのリクエスト研修を行った。担当者以外の職員も講師になるなどして、主体的に研修に取り組むことができた。 道徳の授業公開研に向けて、年度初めから計画的に道徳の授業を公開し、外部講師からの助言もいただき個々の力量を高め合う場を設定した。当日は、外部講師の方やたくさん参観者の方から「考え、議論する道徳」について学ぶことができた。その成果としてほかの教科でも議論できる学級が増えてきた。 聴き合う関係や挑戦したくなる課題とはどういったものなのかを、全体でイメージが共有できるよう、今後も取り組みを進めていく必要がある。 【地域との協働】コミニティースクール会議において、保護者アンケートの実施・結果の分析を行い、多くの意見を得られることができた。そして、それらの意見をその後の教育活動に取り入れることができた。	

２　改善方針

【重点目標１　確かな学力の定着】
①独自の取り組みCRT検査や「みえスタディチェック」等の分析結果をもとにして、学習意欲を高める環境整備や授業改善に取り組み、課題の克服に向けた学習の充実を図る。
②家庭との連携を進め、主体的な家庭学習の取り組みの習慣化や、充実した読書活動による読書力の向上を目指す。
【重点目標２　こころとからだの健全な育成】
①人権教育・道徳教育の充実を図るとともに、深い児童理解に基づいた「なかまづくり」を推進していく。
②体力向上につなげるため、体育科の授業改善による質の向上、休み時間を活用した運動量の確保に取り組む。
③健康教育・食育の推進をしていく。
【重点目標３　よりよい未来社会を創造する力の育成】
①社会性を身に付け、正しい判断力・責任感を育てる。
②自分からすすんであいさつができる子、「さしすせそ清掃」を意識し働き続けられる子を育てる。また個々のよさが発揮できる場づくりと子どもが認め合える場づくりを進める。
③安全意識の向上を目指し、必要性を理解し自ら行動できるよう、日常的な指導を継続するとともに、教職員の危機管理意識を高めるための研修に取り組む。
【重点目標４　全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現】
①学びを支える指導体制の充実を図る。
②特別支援教育の充実を図る。
③「チーム学校」による支援の推進
【重点目標５　学校教育力の向上】
①自身の授業公開や同僚の授業参観を積極的に行い、自らの授業実践に取り入れる。
②研修会に参加し、学んだことを還流報告する。
③学校運営協議会（コミニティスクール）を要として、学校と保護者・地域をつなぐ方策を検討していく。また、保護者や地域との連携を深め、学習内容をはじめとする教育活動全般の充実をはかる。
④学校行事、教育活動の見直しを行う。配付物の精選とデータ化を行う。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　内部小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	○研修テーマを「自ら学ぶ力を習得し，互いに高め合える子の育成」とし、授業のＵＤ化の観点から焦点化・共有化・視覚化を意識した授業改善を行った。教科の本質を理解し、学んだ学び方を活用し自ら学ぶ子の育成を目指して、日々の授業づくりをするとともに、年間３回の全体授業公開研修と学年部での授業公開を行い、すべての教員が１回は授業公開をすることで、研修テーマに基づいて授業力向上をすることができた。成果として、児童の主体性を引き出す授業展開について考えることができたといえる。課題としては、自己選択型の学習を進めていく中での教師の出方についてさらに研修を深める必要がある。 ○各教科の授業や家庭学習、行事などの取り組みにおいてICTの活用場面を増やすことができた。成果として、学力の定着につながっている。 ○家庭学習に関する取り組みでは、低学年は教師が宿題を出すことで家庭学習の定着を図っている。３年生では宿題に加え、児童が自主的に課題を設定して行う自主学習の取り組みを初め、４年生以上では家庭学習計画表の作成など、PDCAサイクルに基づく自主学習の取り組みをスタートさせるなど、自分で課題に合わせた学習の機会を設け、基礎的な学力の定着を目指している。成果としては、個に応じた学習内容の選択ができたことが挙げられる。課題として、すべての児童に家庭学習が定着したとはいえない。 ○確かな学力を定着させるために、単元によっては少人数(習熟度別)での学習形態をとりたい。	

重点目標２	こころの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	○「内部っ子のきまり」を用いて、基本的な生活習慣や学習規律の定着を図ってきた。学校アンケートの「学校生活のルールを守っていますか」の項目において、児童の回答が前年度と比べて４％数値を落としていることは課題である。 ○お話ビンゴや読書マラソンの取り組みや、月毎に学級児童の読んだ本の合計の掲示と学期末の表彰によって、図書室への来室が増えた。読書週間ではお話ｍａｍ（地域の読み聞かせボランティア）や教師、図書委員による読み聞かせなどを朝読の時間に取り入れたり、教師や児童のおすすめの一冊を掲示したりしたことで、読書の楽しみを共有できた。しかし、学校アンケートの「本を読むのは好きですか」の項目において、肯定的な回答が７割を下回っている。 ○教育相談を行い、子どもたち一人一人の思いを知り、困ったことに対し解決するための手立てを講じていくことができた。	

重点目標３	からだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	○高学年では教科担任制による体育専科を導入した。個人の目標に向かって楽しんで取り組む姿が見られるよう授業改善を行った。児童のアンケート結果によると、運動する楽しさを実感している子が多くいた。 ○５分間運動などを授業に取り入れることで、運動することの楽しさを実感させることができた。 ○大縄チャレンジなど全学年で取り組む活動ができなかったので、今後取り入れていくことを検討している。	

重点目標４	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	〇学校の危機管理体制を見直し、学校防犯に関わる訓練を二度実施したことで、緊急時の動きを学校全体で学ぶことができ、防犯意識を高められた。不審者訓練も始め、今後、様々な想定で取り組む必要がある。一方、校舎出入口の戸締りについては、児童に定着していない部分もあるため、引き続き指導が必要である。 〇すべての学年で、地域の方にお世話になって学ぶ場があり、地域との連携が充実している。２月には感謝の気持ちを伝える集会を行い、児童にとっても地域とのつながりを意識できる機会としている。	

重点目標５	全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現	3
主な方策 成果と課題	〇不登校・不登校傾向の児童に対して、関係機関との連携を含め、校内で支援体制をより整備し、学校生活や仲間との生活を楽しめる態度を養えるようにに働きかけを行った。引き続き、SCやSSWとの連携を取っていくことが必要である。 〇いじめを許さない心の育成を目標に指導を続けてきたことで、学校アンケートの「いじめは絶対にいけないと思いますか。」の項目において、児童の回答が前年度比で４％向上した。教育相談を複数回行い、児童の変化にいち早く対応することができたためだと考えられる。 〇クールダウンルームを設置し、不登校傾向の児童が安心して登校できる場を作った。安定して登校し、教室に入ることができる時間も増えてきている。今後、運営の仕方については検討が必要である。 〇不登校の児童について、情報共有を行い、対策を協議しているが、「個別の指導計画」の作成には至っていない。登校をめざして長期・短期目標を立て、保護者・本人・関係機関等と定期的に連絡をいつごろどんなアプローチをしていくか等、不登校対策委員会で今後検討したい。 〇ICT機器も活用し個に応じた学びを提供できた	

重点目標６	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	〇学校ＨＰにおいて情報発信することができた。 〇クラブ活動において、地域のゲストティーチャーを活用することができた。 〇内部中学校区の学びの一体化研修会や、人権研修会において、指導の連続性、一貫性を担保し、児童生徒の情報交換や人権課題の共有をすることができた。	

２　改善方針

〇校内研修において、自己選択型の授業ができるよう、低学年のうちから系統的な学習を行っていく。
〇ルールを順守する気持ちを育てるため、学校のきまりを児童と振り返る機会を、年度初めだけではなく複数回設けることで、定期的な意識付けを行う。
〇デジタル図書館も活用しながら、児童が本に親しむ機会を増やす。家庭読書週間の設定など、家庭との連携も図っていく。
〇学校の危機管理意識を児童にもさらに持たせられるよう、定期的な呼びかけや訓練を行う。
〇家庭での学習習慣がつくよう、家庭での学習に寄り添うことの必要性を、根気よく保護者に働きかけていく。
〇不審者対応訓練は、今年度とは違った想定での訓練を実施する。
〇校内研修などによる体育の授業改善を図る。休み時間に鬼ごっこや大縄を全学年で行い、運動好きな子を育てる。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　小山田小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力（資質・能力）の定着	3
主な方策 成果と課題	・問題解決能力の向上のための主体的・対話的で深い学びとなる授業づくり ・ＩＣＴを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを往還する学習の充実 ・すべての教育活動での言語能力・情報活用能力の育成 ・　家庭学習の習慣化 【成果】 ・めあてを子どもたちに提示することで、学びに向かう姿勢がついた。 ・情報教育年間計画にICTサポーターに入ってもらう月を学年ごとに設定したことにより、計画的にICTサポーターを活用することができたことで、子どもたちの情報活用能力も高まったと感じる。 【課題】 ・宿題を家庭で毎日行う習慣は身についているが、確かな学力をつけるためには家庭学	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	・想像力・探求心を伸長する読書習慣の定着 ・「考え、議論する道徳」の時間の充実 ・運動好きな子どもの育成 ・すこやかなこころとからだを育む食育・健康教育の推進 ・防災・安全教育の推進 【成果】 ・毎朝の朝読の時間が確保されていることで、読書の習慣は身についている。どの子も静かに集中して読むことができている。学校の図書だけでなく、電子図書館も活用していることで、たくさんの本に触れることができている。 ・「なわとび」の取り組みでは、長なわとびで、学校全体の目標を決め、クラスでその回数を目指して取り組んだ。、短なわとびでは、「なわとびカード」を作成し、低学年から高学年まで技の系統性を持たせ練習することで、達成できる目標を明確に示し、達成感を味わえるようにした。 ・給食の献立に関する情報や給食室の中の話（調理員の仕事や調理員さんの名前など）を動画で紹介した。 ・夏に職員全員で防犯訓練について学校の立地や侵入経路などを踏まえながら考え、２学期に実際に取り組んだ。保護者、児童、教師と三者から肯定的な意見が出た。 【課題】 ・今年度、人権の授業として各学年部で絵本を題材にした授業づくりを行ったことはとても良かったと感じている。今後は、子供たちが考え、議論する道徳をめざし、取り組んで	

重点目標３	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	・特別活動を要としたキャリア教育の推進 ・互いの違いやよさを認めあう人権教育の充実 ・自己指導能力の育成 【成果】 ・キャリア教育の推進において、「つながるカード」等をつくって学校全体で取り組むことができ、子どもたちは、「どんな自分になりたいか」を考え、振り返りを繰り返す中で、自ら学ぶ意欲が育っており、人前で積極的に発表する場面が増えた。 【課題】 ・特別活動を要としたキャリア教育の推進について、それぞれの活動が、よりよい未来社会を創造する力につながっているのかを、次年度も意識して取り組みたい。	

重点目標４	地域人材・地域関係団体との協働	3
主な方策 成果と課題	・保護者・地域・関係機関との連携の充実・特別支援教育の充実 ・地域の特色を生かした教育活動の推進 ・学びの一体化の推進 ・学びを支える指導体制の充実・特別支援教育の充実 ・学校公開，たより，HPで学校教育を発信 ・校務の効率化と健全な勤務環境づくり 【成果】 ・様々な行事や活動において、保護者・地域の方と協力して行うことができた。 ・子どもたちは、様々な行事や活動を地域の方と一緒に活動することで、主体的に学ぶことができ、また、地域の大人との関りから、自尊感情が育った。 【課題】 ・特別支援教育の充実に向けて、教員の研修の場を設けることや学級全体の基礎的な力を育成するための計画を設ける場をつくるようにしたい。	

２　改善方針

【重点目標１】
・確かな学力の定着にむけて、家庭学習にも引き続き取り組むが、学校での基礎学力定着のための時間を設けていく。
・朝学の時間に週１回国語の文章読解や言葉に関するプリント学習や、算数時間の始め５分を計算問題に取り組む時間として、全校で統一して取り組みたい。

【重点目標２】
・「考え、議論する道徳」を学ぶための研修会を夏季休業中に行い、今後の授業での「考え、議論する道徳」の時間の充実をはかりたい。
・今年度行った防犯訓練で出た課題をもとに、来年度も防犯訓練を行っていきたい。
・第一回町別児童会で地区総括に挨拶してもらう場所を設けたい。子どもたちとの関わりを以前よりも深めてもらい、登下校で起きたトラブルについては学校だけでなく地域の人や保護者とも連携するようにしていきたい。

【重点目標４】
・特別支援教育やサポートルームでの内容を全体の研修会やミニ研修会で職員全体で共有する機会を設けたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　河原田小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇主体的・対話的で深い学びの実現 〇ICT 機器活用による情報活用能力の育成 〇言語活動の充実による読解力・表現力の育成 〇学びに向かう力の育成 【成果と課題】 ・図書館祭りでは、ＢＯＯＫ　ＢＩＮＧＯや夕読などの取り組みを実施できたり、貸し出し冊数増える券や賞状など景品も工夫したりできた。また、地域の図書ボランティアとも連携を取り、月１回の読み聞かせや、図書館祭りの際のイベントなど積極的に開催していただいた。 ・児童それぞれが考えた学習に取り組む、「家庭学習チャレンジウィーク」という取り組みができた。 ・「考えるための技法（思考スキル）に関する校内研修の実施ができなかった。 ・ＩＣＴ機器の活用について、教員のスキルにばらつきがあるため統一した指導はなかなかできなかった。また、体育の授業での活用ができなかった。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇人権教育・道徳教育の充実 〇体力・運動能力の向上 〇健康教育・食教育の推進 【成果と課題】 ・学年でのQ-U研修の実施、なかまづくり研修会の内容の見直しを行う事で、日々の実践によりつながる研修会ができた。また、道徳に関する全体での授業研究も実施できた。 ・担任と養護・栄養教諭が連携する事で、より充実した健康教育・食教育の指導ができた。 ・健康教育の推進については、長期休暇の宿題で「生活リズムチャレンジ」を行い、規則正しい生活につながる保健指導ができた。併せて家庭でのメディア時間について保護者への啓発も行うこともできた。さらに保護者も参加したすくすくの会では、保健委員が主体となり動画やスライドを作成し、全校や保護者にも睡眠の大切さについての発表を実施することができた。 ・新５分間運動の活用に向けてミニ研は実施を進めていく。	

重点目標３	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇キャリア教育の充実 ・日頃の授業実践や、キャリアパスポートの活用を通して、進路選択の基盤を養う。 ・あいさつ運動や委員会活動等を通して、社会形成力や課題対応力を育成する。 ・清掃活動（黙掃）の推進を図る。 【成果と課題】 ・キャリアパスポートを活用して毎学期の振り返りをさせ、自己の長所や今後の生活の改善策等について客観視させることができた。 ・あいさつ運動に標語を活用したり、委員会活動で「廊下歩行週間の取組」「黙掃週間の取組」等の工夫をしたりすることで、明るくて安全な学校になるよう指導できた。しかし、廊下歩行や黙掃が達成できたわけではなく、今後も職員が一丸となって粘り強く指導を継続する必要がある。	

重点目標４	子どもの個性・能力を伸ばす教育の実現	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇特別支援教育の充実 ・サポートルームでの指導の充実を図り、個性に合った支援が行えるようにする。 〇「チーム河原田」での支援の推進 ・SC、SSWと連携した相談したり、関係機関や専門家と連携が図れるような体制を構築する。 【成果と課題】 ・毎月の特別支援委員会にSCとSSWも参加できる体制にしたことで、より専門的な意見をきくことができ、支援方法や対応策など考えることができた。 ・どの児童もサポートルームの授業に意欲的に取り組む姿があり、体幹を鍛えたり集中力をつけたりするのに成果が見られた。サポートルーム担当とクラス担任との連携をもっと図ることができるとなお良かった。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ・教職員の資質・能力の向上・校内研修の充実。 ・外部講師、教育アドバイザーの活用。 ・OJT による教員の資質向上 【成果と課題】 ・指導課の指導主事や算数教育アドバイザーに校内研修にも参加いただき、助言・指導からの教示で、より深い子どもたちの意欲・主体性を育むための授業研究を実施することができた。 ・ICTや特別支援教育など各担当が必要であると考えたOJTを実施することができた。 ・「考えるための技法（思考スキル）」や「考え議論する道徳」についての校内研修等を実施できないものもあった。	

２　改善方針

【重点目標１】
・ＩＣＴ機器の活用について、今後もミニ研などを開催して使い方を職員に広めていく。
・来年度以降も子どもたちが自分で考えた学習を積極的に行えるように引き続き取り組みを続けていく。
【重点目標２】
・道徳教育をより充実させるため「考え議論する道徳教育の指導」に関する校内研修を計画的に実施する。
・全職員が新５分間運動授業を活用できるよう学習指導部を中心に組織的に取り組みを継続する。
【重点目標３】
・安全・安心な学校生活を目指し、廊下歩行と黙掃の取組は、全職員の共通理解のもと指導を継続する。
【重点目標４】
・サポートルーム担当とクラス担任との好連携により、児童の意欲や体幹、集中力等の更なる向上を図る。
【重点目標５】
・「考えるための技法（思考スキル）」や「考え議論する道徳」についての校内研修等を実施し、学校教育力の向上を進める。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　川島小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①主体的・対話的な学びの実現 ②学習効果を高めるためのＩＣＴ活用 ③「考える楽しさ」「できる喜び」を感じられる授業づくり 【成果と課題】 〇各学年で話し合いながら教材研究を行い「主体的に学ぶための手立て」「学びの場の工夫」を意識して取り組むことができた。 〇ICTを活用した教育活動を行うことができた。児童は、ICTをツールとして、学習や表現、コミュニケーションなど、さまざまな場面で用いることができるようになってきた。 ●研修主題にある「主体的」や「表現できる子」について共通認識に弱さが見られた。	

重点目標２	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①各学年ごとに人権課題を設定し、年間を通して取り組む。 ②基本的な生活態度を定着させる。 ②いじめ調査・ＱＵ調査・教育相談を年間計画に意図的に配置する。 ③図書ボランティア、図書館司書と連携強化を図る。 【成果と課題】 〇各学年で重点的に取り組む人権課題等を設定し、発達段階に応じた到達目標を立て、取り組むことができた。各人権課題に即したゲストティーチャーを招聘し、直接話を聞いたり、活動に参加したりすることで、その課題が身近なものとしてとらえることが出来た。 〇昨年度作成した川島小ガイドブックを見直し、より現状に即したものに加筆修正するとともに、冊子にすることで児童への指導や保護者からの質問への応答に即時対応することができた。冊子にして視覚化することで、生活のきまりをより意識させることができた。 〇図書ボランティア（ブックママ）の読み聞かせ活動を通し、児童にとって普段触れることのない本の読み聞かせがあり、本に触れあう機会を増やすことができた。 〇学期ごとの読書活動において、図書館司書と相談し、児童の読書への意欲向上を目指す新しい取り組みを取り入れることができた。 ●よっかいち電子図書館の取り組みもあり、子どもたちの読書方法は、多様化している。図書館指導担当・図書館司書を中心に職員間で連携し、図書室へ足を運ぶきっかけづくりになるような手立てを取り入れていく必要がある。	

重点目標３	健やかな体の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①新５分間運動スタートブックを活用する。 ②防災及び安全教育に取り組む。 ③健康教育の充実 ④食育の推進 【成果と課題】 〇各学年ごとに交通安全教室を行い、交通安全への関心を高めることができた。また、防災ノートを活用することで、系統的に防災学習に取り組むことができた。 〇保健指導や保健だより、保健室前掲示等を通じて児童の意識向上や生活習慣の改善に努めることができた。また、学校保健委員会を実施することで生活習慣についての啓発活動を行うことができた。 〇Googleフォームを用いて生活習慣についてのアンケートを全校児童に取り、児童の実態を把握したうえで指導に活かすことができた。 ●体育の授業前に５分間運動に取り組んでいる学級は多くあるが、スタートブックを活用している学級は少ない。 ●不審者対応訓練では、警察等の関係機関と都合が合わなかったため、専門的な助言を得ることができなかった。	

重点目標４	全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①個々の教育的ニーズに応じた支援の工夫を行う。 ②関係機関や保・幼・中との連携を図り・教育相談を充実する。 ③相談支援ファイルを活用し、情報の共有を図る。 ④教育支援課との連携と登校サポート委員会の開催 【成果と課題】 〇登校サポート委員会を定期的に開き、各学級児童の現状であったり、登校を支援するための手立てであったりを検討し合うことができた。また、会での議論を通し、不登校児童に対し、どのような手立てを施すべきかを悩む教職員にSCやSSWとの連携の取り方、またその必要性も助言しながら、関連機関に積極的に働きかけることができた。 ●登校サポート委員会での議論を基に当該児童への働きかけを試みてはいるが、児童によっては毎月同様の手立てのみとなっていることも少なくない。どの児童も勿論だが、特に不登校リスク群に挙がる児童が不登校に陥らないような手立てをもち、迅速且つ具体的な方向性を示していく必要性があるように感じる。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①全職員が研修主題を意識した提案授業を１回は行う。 ②問題行動の早期発見、未然防止 ③コミュニティスクールとしての充実を図る。 【成果と課題】 〇主研修において、教科のしばりをなくしたことにより、多様な方面で学びを深めることができた。 〇どの学年でも、問題行動が起きた際には、管理職をはじめ職員間で連携し、早期に対応する体制ができていた。 〇定例の職員打合せや校内いじめ防止対策委員会において、各学級の児童の状況を共有し合うことで、どの職員でも同等の対応ができるような環境づくりを行った。 ●いじめの定義や問題行動への早期発見、未然防止の手立てを、全ての教職員の共通認識を図るなどの生徒指導上の諸問題に関する校内研修を行うことが計画できていなかった。教職員の異動等によって、いじめをはじめとする問題行動への教職員間での共通認識が形骸化してしまわないためにも、校内研修を実施していく必要がある。	

２　改善方針

【具体的な子どもの姿の明確化】
　「主体的」や「表現できる子」についての職員の共通認識に弱さが見られた。次年度は「主体的な学び」「対話的な学び」それぞれの学びが実現できた具体的な子どもの姿を想定し、その姿に結びつく手立てを検討し実践していきたい。

【運動能力向上の取り組み】
　体力テストの結果より、「持久力」や「柔軟」に苦手さのある児童が多いことが分かった。新５分間運動スタートブックを活用することで、継続的に運動能力を高められるようにする。

【関係機関との連携】
　不審者対応訓練や事故時発生対応訓練を行う際は、関係機関と連携を取ることで専門的な助言を受けることができるようにする。

【特別支援教育の充実】
　個別の指導計画・教育支援計画の作成については、児童の実態やニーズを把握し、早い段階で指導方法や支援方法について計画する。また、課題が解決されたときや新たなニーズが生まれたときなどは、随時評価したり追記したりしていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　神前小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	今年度も「聴き合い、伝え合う」ことができる授業を目指してきた。少しずつ、小グループでの学び合いを増やしてきた。しかし、まだまだ自分の意見や気持ちを話すことに抵抗感のある児童もいるため、ICTを活用した授業の取組を推進してきた。また、グーグルクラスルームを使って授業実践を交流することに取り組んだ。 【保護者・児童アンケート該当項目（4段階評価平均）】 〇お子さんは、授業が分かりやすいと言っていますか。（3.1） 〇あなたは、友だちと考え合ったり話し合ったりする授業は好きですか。（3.4） 〇あなたは、授業中に友だちの考えをよく聴いていますか。（3.5） 【成果】ICTの活用や、グループや少人数での話し合いに一定の成果があった。 【課題】「聴き合い伝え合う」という姿の子ども像や授業像の共通認識を、更に教員間で深めていきたい。	

重点目標２	こころの健全な育成	4
主な方策 成果と課題	同和教育は、本校の人権教育の基幹と位置づけている。人権総合学習・生活科やなかまづくりに取り組むことで，差別をなくすための行動ができる子どもたちの育成をめざした。２月には「人権集会」を行い、取り組みを伝え合った。また、QU調査等を活用して、子どもたちの現状を把握し、教職員自らも研修等を通して自らの課題と向き合い、互いに高め合うことができた。 【児童アンケートの主な該当項目】（4段階評価の平均） 〇あなたは、自分や友だちを大切にすること、命を大切にすること、いじめをしない（ゆるさない）ことに、気をつけていますか。（3.6） 〇あなたは、学校生活（授業・休み時間など）が楽しいですか。（3.5） 【成果】相手のことを考えて行動や発言をする児童が増えてきた。 【課題】自尊感情の低い児童も多く、自分を好きになる取り組みを進めたい。	

重点目標３	からだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	また、生活リズムチェック週間を年間３回実施し、意識して規則正しい生活を送るように指導した。家庭で行う自主学習の取組を掲示し、意欲づけを行った。 【保護者アンケート該当項目（４段階評価平均）】 〇学校は、保健指導や食育等を通して、お子さんの健康に関する意識を高めていますか。（3.6） 〇お子さんは、社会のルールやきまりを守る大切さを理解して行動していますか。（3.6） 【成果】各学期はじめに生活リズムチェックを行うことで、規則正しい生活を促すことができた。 【課題】保護者と相談し協力を求めてきたものの生活習慣・学習習慣を改善できずに、望ましい習慣が定着していない児童もいる。特に、家庭での読書の時間の確保が難しいが、タブレットやゲームの使い方について、さらに保護者と相談をしていく必要性を感じている。	

重点目標４	未来社会を創造する力の育成	4
主な方策 成果と課題	子どもは学校・家庭も含めた地域の中で育っていくものであり，学校は「地域立」とも言える。地域にある教育力や子育て力，人と人との結びつきを通し，「この神前が大好き！」と言える人に育つように取組を進めてきた。あいさつ運動に取り組み一定の成果があると地域から評価を得た。また、里山を守る会など、地域に根差した活動をされている方のお話を聞き、地域を知る活動を行った。 【保護者アンケート該当項目（４段階評価平均）】 〇お子さんは、家庭や地域などで進んであいさつをしていますか。（3.3） 【児童アンケート該当項目（４段階評価平均）】 〇あなたは、進んであいさつをしていますか。（3.4） 〇あなたは，地域の人から学ぶ学習活動はすきですか。（3.3） 【成果】登校中に出会う方やや来校者に元気にあいさつをする姿があった。また、積極的に地域行事に参加する児童も多い。 【課題】携わっていただく人が固定化している面があり、更に広げていきたい。	

重点目標５	個の理解と能力を伸ばす教育の推進	3
主な方策 成果と課題	支援が必要な児童を学びから遠ざけない支援体制等について，校内支援委員会で検討し生指・特支の面から全校体制で進めてきた。保護者との連携、QUなどを通した教育相談の時間を大切にし、個別に話す時間をとって、支援をしてきた。 【成果】上記の教育相談のほかにも、子どものつぶやきや綴ったものから子どもの心の奥にある思いをつかむこと、家庭訪問等保護者とのかかわりを深めながら背景をつかむことを大切にしてきた。それにより、学ぶ意欲が高まったり、学校に来やすくなったりした子どもの姿がある。 【課題】支援員さんや介助員さんと子どもの姿の見取りや支援の方法など交流できる手段や機会が十分に取れなかった。	

重点目標６	学校教育力の向上（チームかんざき）	4
主な方策 成果と課題	「人と出会い、地域の人から学ぶ」人権学習をテーマに、人と人とのつながりに学ぶ学校を目指してきた。コミュニティーかんざき運営委員会の方を窓口とし、地域の様々な団体（同推協・仙寿会など）に、児童の学びの場となる学校の環境整備や教育活動にご助力いただいた。 【保護者アンケート該当項目（４段階評価平均）】 〇学校は、地域や地域の人材を活かした活動や取組を進めていますか。(3.7) 〇学校は、授業参観やたよりホームページなどを通じて、情報を発信していますか。(3.8) 【成果】米作り，もちつき，もち米販売など多くの体験型学習を、コミュニティかんざきの皆様のご協力のもと，実施することができた。また、授業参観や行事の公開で、学校の様子を多くの保護者に届けることができた。 【課題】教育活動に関わっていただく人の輪を、さらに広げていきたい。	

２　改善方針

６つの重点項目を掲げて「地域に学ぶ」ことを本校の強みと位置付け、学校教育ビジョン実現を目指してきた。昨年度・本年度と多くの地域行事が再開される中で、学校も全ての教育活動について「児童の成長に必要なこと」「地域との関係が深まること」を精選しながら、地域や保護者の力を借りて全職員で取り組みを進めてきた。そのため、地域とのつながりがある教育活動が推進でき、地域で活動する子どもたちの姿も多く見られた。

一方、家庭学習や家庭での読書、余暇時間の使い方（ゲームやユーチューブ視聴）など、子どもの生活について更に家庭との連携をとっていく必要がある。生活リズムチェックの結果を知らせる際や、学校だよりなどでも呼びかけていきたい。

今後さらに多面的に人権・同和教育を基軸に据えた「学ぶことが楽しい学校」の実現・継続について取り組んでいく。また、学校だよりやホームページを通して、より多くの姿を伝えることで、保護者・地域の協力をより得ることができ、保護者・地域も含めた地域とともにある学校になっていくと考える。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　桜小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	【ICTを活用した授業づくり】 〇デジタル教科書、発表ノート、クラスルームの活用をたくさん行った。 〇GoogleスライドやGoogleドキュメントを積極的に使用した。 〇カメラ機能、教科書QRコード、発表ノートについても、発達の段階に応じて活用した。 【主体的・対話的で深い学びの表現】 〇コの字型の座席、ペア・グループの話し合いなどを活用し、聞き合うことを目指して取り組んできた。 〈児童〉「授業ではみんなで考えたり、話し合ったりして学習していますか」（94%） 【情報活用能力の育成】 〇児童に与えたい情報を選んで、クラスルームに張り付けて活用させた。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	【人権教育・道徳教育の推進】 〇道徳の時間にとどまらず、日常の出来事においても、児童に課題を投げかけて考えさせる時間を多くとった。 〈保護者〉「お子さんは、自分や友達のことを大切にしようとする心や態度が育っていますか」（99%） △道徳や人権の授業の中では、「わかった」と思っていても、実践・行動に結びついていかない。 【進んで身体を動かす～体力の向上～】 〇運動会・水泳指導・5分間走・長縄チャレンジなど、行事として充実した取り組みができた。そのことにより児童の体力向上につなげることができた。毎週水曜日の全校外遊びデーを定着させることもできた。 △熱中症警戒アラートによる運動制限が増え、加えた。今後、気候的に厳しくなる中、体力向上に向けて、児童だけでなく保護者への啓発も重要となる。 【命を大切にする教育の充実】 〇地元の助産師さんによる「いのちの学習」を２・４年生に実施しており、命の大切さを学べた児童が多くいた。また栄養教諭を中心とした食育に毎学期、計画的に取り組んだり養護教諭を中心に体のことを見直したりしながら、自分の命を様々な角度から見つめさせることができた。	

重点目標３	未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	【キャリア教育の推進】 〇委員会活動の中で、自分の役割を自覚し、役割を果たすことを通して、児童の責任感を育てることができた。 【非認知能力の育成】 〇きょうだい学年の活動として、遠足やふれあいまつり、トイレの清掃活動等に取り組んだ。それぞれの活動を通して、上の学年の子が下の学年の子のことを考え、活動を工夫する姿が見られた。 【地域資源を活用した教育活動の創造】 〇「町たんけん」「工場見学」「福祉体験」等、地域の方と連携した取り組みを進めることができた。さらに、活動の範囲を広め様々な体験に取り組ませていきたい。 【防災・安全教育の推進】 〇防災ノートを活用し、様々な場面を想定した避難訓練を実施し、命の大切さを見つめ直すことができた。今後は、保護者への更なる啓発を進めるため、様々な場面で発信していく必要がある。 △登校は、基本的には自由登校の形式であるが、一斉下校の必要があることを考え、地区別緊急下校訓練を４月に１回行った。しかし、児童が地区別の活動に慣れるためには、回数を増やすことも考えていく必要がある。	

重点目標４	きめ細かな教育の推進	4
主な方策 成果と課題	【個に応じたきめ細かな教育の推進】 〇ほっとルーム・言葉の教室の先生や支援学級の先生からヒントをもらって、課題を持つ子どもの支援に使う教材などを活用し個に応じた学習を進めることができた。 〇特別支援委員会では、支援の必要な児童についてしっかりと協議し、どのように支援していくのかを、具体的に検討することができた。 〈教職員〉「教育相談体制がシステム化され、機能している」（96%） 【特別支援教育の充実】 〇2年生、3年生のMIMのアセスメント&特殊音節の指導と隙間時間を使った少人数指導（MIM第2ステージ）は、一定の成果が見られた。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	【コミュニティスクールの推進】 〇年に5回実施する中、児童の様子を参観する機会をほとんどの場において設定した。そのため、児童の現状をもとにした話し合いや提案等が出され、教育活動の推進になった。 【15年間の育ちを見据えた学びの一体化の推進】 〇中学校区内のこども園・小学校・中学校が児童を中心に据えた情報共有や指導方針について話し合う場を計画的に設定し、進めることができた。 【教職員の資質・能力の向上】 〇OJT研修や還流会が大変勉強になり、教職員の能力向上に役立った。 〈教職員〉「教職員としての技量を高め、実践に生かす研修を計画的に行っている」（100%） 【校務効率化・業務デジタル化推進】 〇業務支援アシスタントやSSSに多くの業務を支援してもらえたため、児童の指導に関する内容に効率的に取り組むことができた。 【働き方改革の推進】 〇行事や学年の業務などで遅くなる時以外は、できるだけ早く退校するように努めた。 〇「定時退校日」等を中心に、全校で働き方改革に取り組むことで職員の意識改革を進めることができた。	

２　改善方針

【学習指導部】
・インターネット上の情報を正しく理解し、判断する力が問われているため、学年を越えて学習したことを伝える機会を作っていくことが必要である。
・学習の用具がタブレットへ移行していく中で、児童が力をつけていくために、最も良い用具は何か、その都度検証していく必要がある。
【健康安全指導部】
・体力向上に向けて、日常の体育指導の見直しや休み時間の活用に加え、食育や姿勢の保持等についても全教職員が共通理解をして取り組む必要がある。
・自由登校や保護者の車による送迎の現状に鑑み、「交通安全教室」をしっかりと位置付け、安全に対する児童の意識向上を図る必要がある。
・〈児童〉「進んで体を動かしたり運動したりして健康や安全に気をつけて過ごしていますか」（低72%・高63%）の項目の数値を８０%を目指す。（安全に過ごしているという文言が低くなった要因であると分析している。）
【生活指導部】
・委員会活動で自発的な活動を促すために、教師側から何らかの仕掛けを設定することが大切である。（児童を「自分たちからやった」という気にさせる。）
・きょうだい学年としての活動には取り組んだが、全学年を含めた縦割りの活動ができると、縦のつながりがより深まる。
【研修委員会】
・「自ら学び、思いや考えを伝え合うことのできる児童の育成」を目指して、具体的な児童の姿を共通理解できるような研修の機会を設定していく。
・人権教育については、保護者も巻き込んで共に学ぶ場も必要である。保護者と繋がる機会を増やすことで学校との連携を深め、児童に力をつけていきたい。
【特別支援委員会】
・MIMの指導は、継続の方向で検討する。
・特別な支援の必要な児童についての情報は、関係職員全員に共有する。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　県小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	・聴き合う関係やペア・グループでの活動を取り入れ、子ども自らが問いを持ち仲間とともに主体的に探究する授業づくりに取り組んだ。わからないという思いを出し合い、ジャンプの課題に挑戦させることにより、児童が主体的に学びに向かう姿が見られた。 ・真正の学びを追求し、聴き合う関係に深まりが見られた。ペアやグループの中心に教科の本質を置き、その本質でつながる聴き合う関係の深まりをめざしたい。 ・各教科でＩＣＴ機器を活用した学習を取り入れ、個人で情報を収集して自分の思いを話したり、自分の考えを裏付ける資料を示しながら話したりする活動を進めている。 ・今後も、ＩＣＴ機器の効果的な活用や個に応じた指導により、一人ひとりの学力の定着を図っていきたい。また、情報を精選する力、自分で情報の真意を判断する力、個人情報や人権に留意した情報発信の手法についてもさらに学習を深める必要がある。 ・週に２回タブレットを活用した宿題を出すようにしているが、タブレットの宿題の出し方については工夫が必要である。	

重点目標２	豊かな心とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	・学校全体でなかまづくりに取り組み、児童がありのままでいることができるクラスづくりを行うことができた。 ・図書館まつりの期間中は２冊貸し出したり、クイズやおみくじ読書を取り入れたりして図書館への興味を持たせる取り組みを行った。また、委員会で作成したおすすめ本の紹介を図書室前や図書室内に掲示したりすることで、読書の楽しさを伝える活動ができた。電子図書の活用により、より多くの本と出合う機会を増やせたが、図書室の貸し出し冊数が減ってきているので、さらなる活動が必要である。 ・ボランティアさんと協力し、全学年でビブリオバトルを行い、友だちのおすすめ本について聴きあう活動を通して、豊かな表現力や思考力を身につけさせた。 ・遠足や「あがたっ子集会」等のきょうだい学年での交流を通して異学年集団の仲間づくりを図った。特に上級生にとっては、自分達の役割を意識しながら下級生を思いやるよい機会となった。	

重点目標３	健康安全教育の推進	3
主な方策 成果と課題	・外部委託による水泳指導、運動会、業間なわとび等、全校児童の体力向上に向けて計画的に進めることができた。また、休み時間に全校児童が一斉に外に出て遊ぶ時間を設け、遊び方が広がる取り組みを行うことができた。 ・避難訓練、交通安全教室、防犯教室等を計画通り進めることができ、それぞれの学年に応じた安全教育を行うことができた。常に安全に気をつける意識を持って生活を送っていくことが大切であるため、指導を継続していく。 ・食育、歯科保健指導、薬物乱用防止教室等を養護教諭、栄養教諭、学校三師が各担任と連携して効果的に行うことができた。 ・保健の授業と関連させ、外部講師を招いて第二次性徴についての授業を行うことができた。 ・毎週末、地区担当と班長児童が通学の様子について話す時間を設けたことで、子どもたちの様子を把握することができた。	

重点目標４	生徒指導・ 特別支援教育の充実	3
主な方策 成果と課題	・児童一人ひとりが毎日入力する「心の天気」や各学期に行う「いじめアンケート」を活用し、教育相談を行うことでより丁寧に児童把握を行うことができた。 ・委員会の取り組みを毎月実施し、クラスで取り組みの反省を行うことで規範意識を高めることができた。 ・スクールカウンセラーによる児童の観察、保護者との面談、生特委員会での情報交換等、専門的な観点から助言をもらい、指導に生かすことができた。 ・スクールソーシャルワーカーと連携し、児童に関する情報を様々な機関から収集したことを児童の支援や指導に行かすことができた。 ・デイジー教科書を活用し、読みが苦手な児童に対しての個別最適な支援を行うことができた。 ・ＩＣＴ機器を今後も使うことで、児童の主体的に取り組み理解できる授業づくりを進め、インクルーシブな教育を行うことがさらに必要である。 ・教員間で児童の情報共有を行い、児童の特性や困り感に寄り添いながら、児童が主体的に取り組み理解できる授業や、誰もがともに学ぶインクルーシブ教育を行いたい。	

重点目標５	学校教育力 教師力 ・ 職場 環境 の向上	3
主な方策 成果と課題	・全体研修会での提案授業や公開週間で互いの授業を見合うこと、教育アドバイザーの活用などを通し、授業力の向上や指導方法の改善を図ることができた。 ・授業を見合ったり、「ジャンプの課題」を検討したりして、指導力の向上に努めた。 ・ＩＣＴについては、各学級によって大きく指導に差が出ることのないよう、校内研修等を通じて共通理解を図ることがこれからも大切である。加えて、教師自身が技術の習得をする必要がある。 ・Ｈ＆Ｓの導入により、朝の児童の欠席理由の確認や放課後の保護者への連絡などが短い時間で行うことができるようになったので、別の業務に取り組む時間を確保できるようになった。 ・今後もより一層、行事の精選や業務改善を通し、ゆとりある誰もが働きやすい職場の環境作りを進める必要がある。	

重点目標６	家庭・地域と協働する学校	3
主な方策 成果と課題	・ホームページを毎日更新することで、子どもたちの学習の様子をタイムリーに保護者や地域の方に伝えることができた。 ・コミュニティースクールとの連携や学習支援ボランティアの活用、地域資源の人材活用等、地域と連携した取り組みを行うことができた。 ・図書ボランティア「かぐやひめ」さんと協力して朝の読み聞かせをしていただいたり、図書館まつりの際は、ビブリオバトルをしていただいたりして、子どもたちの読書活動への意欲を共に高めている。 ・登下校では、地域のボランティアや県四日市西警察署県駐在所の署員と連携して、子どもたちの見守りができた。	

２　改善方針

学校づくりビジョンを職員が日常的に意識して指導が進めることができるように、教育活動の反省を各学期末に実施し、職員が改善の意見を出す機会を確保した。保護者アンケート「学校の教育活動に満足していますか」では９３．８%から肯定的な回答をいただいた。また、児童アンケート「学校が楽しいですか。」の項目に「そう思う」「まあそう思う」と回答した割合が９１．１%と多くの児童が肯定的に捉えていた。

地域とともに行う「地域連携花壇定植」や生活科・総合的な学習の時間の地域とつながりの深い取り組みを通して、子どもたちの探究心が高まったので今後も大切にしていきたい。

行事・会議の精選などを行い、教職員の働き方改革を進めているがまだまだ不十分である。学校づくりジョンの達成につながる取り組みを重点的に行い、保護者、地域と連携を図りながら、児童一人ひとりの思いを大切にして、お互いに認め合える学校づくりを進めたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　三重小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	・ICTを活用した学びの充実については、ミライシードや発表ノートGoogleClassroomなど効果的に使用することができた。今後は学年に応じたスキルアップの目標を設定していく。 ・問題解決能力向上プロセスを基本にした授業づくりでは、「仲間とともに主体的に学び合う子どもの育成」を研修主題とした授業実践を展開してきた。タブレット端末を授業で活用し友達の考えを確認できたり、自分の考えを全体に伝えたりすることができた。 ・言語活動の充実について「聞く・話す・書く・読む」力の定着を継続して図りたい。話す力の向上については、毎日の授業をはじめ全校スピーチの機会を設けるなど、学校全体で取り組みを進めることができた。論理的な表現が苦手な児童が多いことから、自分で考えて書く力、語彙力の向上を図っていきたい。 ・少人数授業及び教科担任制による効果的な指導の充実では、高学年で算数の少人数授業を行った。１クラスの人数が減り、個の課題に応じた学習指導が進められた。教科担任制では、学年の全児童に対し同じ学習指導ができ、クラスによっての指導の差が見られなくなった。教員各々にとっても全クラスの学習指導を行うことで、それぞれのクラスの児童の学力・理解力の把握ができ、指導に活かすことができた。今後に向け、教員が教科の専門性をもっと高めていかなければならないと考える。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	・「考え、議論する道徳の充実」では、道徳の授業だけでなく他教科の授業においても必ず自分の考えを持ち、それぞれの意見が出せるような授業展開になるように努めた。 ・子ども一人ひとりが認め合うなかまづくりの推進では、友達とのトラブルを見逃さず、その場ですぐに対話をし、トラブル解消の場が心の成長の場になるように指導できた。 ・生涯を通じて健康に生きるための体力の育成については、全校で体力テストを実施し、共通の運動経験を積むことができた。また、体育館を開放し、ボール投げや幅跳びなど運動できる場づくりを行ったことで、より体力の育成につながった。さらに、アスリートを招致し、運動への興味を高めることができた。 ・読書環境の充実と読書活動の推進では、低学年は毎朝の１０分間読書の時間を設けた。また図書委員会や教師、図書ボランティアによる読み聞かせも学期に1度以上は実施するなど読書活動の充実に努めた。毎月、家庭での読書を推奨する「読書デー」を設定し、年間を通じて読書カードを利用して子どもが記録することで意識を高めることができた。さらに、図書館便りの発行を多くしたり、青空図書館、本の総選挙、本のおみくじ等、図書を手に取るきっかけ作りをしたりするなど、新たな取組を多く行い、児童の読書への関心を高めるように努めた。 ・「三つの約束（掃除・時間・あいさつ）」を中心に捉えた規範意識の向上では、時間と掃除への意識ができてきた。あいさつについても自発的にできる児童が増えつつある。 ・食育指導では、栄養教諭が給食時間に各教室を回って教諭と共に指導したり、献立に関連したパワーポイントの資料を作成し、それを児童に見せたりすることで、食育の充実化を計ることができた。保健指導では、学校保健委員会を通して、全校で睡眠の大切さについて学習することができた。	

重点目標３	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	・特別活動の充実では、委員会活動の充実を図ることができた。代表委員会による挨拶運動、整美委員会による黙働清掃の徹底、給食委員会のワゴンチェック、保健委員会を中心とした学校保健委員会等、それぞれの目標に向かって取り組めるように全校に呼びかけて、取り組むことができた。 ・地域資源や外部人材を活用した教育の推進については、地域の郵便局や交番、市民センター、消防団、地域防災リーダー、図書館ボランティアなど、多くの地域の方に協力いただけた。また、コミュニティスクールのメンバーとともに、より良い学校生活を送るために話し合う機会がたくさんあった。地域と一体となって教育の推進を図ることができた。 ・危険予測能力の向上では、とみまつ隊による交通安全教室を行い、自転車を乗る上での危険性や予測される危険を学ぶことができた。また、配給訓練や防火教室、防犯教室などの安全教育・防災教育の充実につなげることができた。 ・キャリア教育の推進に関しては、キャリアパスポートを活用したことで、児童が自分自身の成長を振り返るきっかけとなった。長期休みに入る前に家庭に持ち帰って保護者が一言コメントを書くようにし、家庭とも協力して取り組むことができた。また、出前授業でゲストティーチャーを招聘し、様々な職業の人と出会う機会を設けることで、児童が将来の展望を広げることができた。	

重点目標４	全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現	3
主な方策 成果と課題	・校内サポートルームの活用と校内支援体制の充実に関しては、サポートルームを大いに活用し、困り感のある児童の把握・支援方法を考えることができた。また、校内支援体制としては、特別支援委員会を充実させ、支援の必要な児童を年間を通じて継続的に情報共有をし、支援方法についての協議を深め、全職員で共通理解したうえで、対応することができた。通常の学級での支援をより充実させるために、学級でできる合理的配慮やユニバーサルデザインなどを共有したり、校内研修では発達検査の数値から支援に生かす手立てを学んだ。実際に支援準備を担任だけに任せないよう学校全体で特別支援教育の実質的な推進を図っていく必要がある。 ・関係機関と連携したチームによる教育課程への対応に関しては、教育委員会における関係部署や地域コーディネーター、通級教室、通常学級との密な情報共有を進めることで、迅速な対応や効果的な取り組みができ、一定の成果を得ることができた。教育アドバイザーに、特別支援学級での授業だけではなく、他の学級での授業の様子を見てもらい、適宜指導助言を受ける機会をとった。また、不登校児童への対応については対策委員会を開き、不登校児童のオンライン授業参加を促すことができた。さらにスクールソーシャルワーカーにも入ってもらい情報共有を行い、家庭へのアプローチ方法を検討することができた。 ・子どもと向き合う時間を確保するために、全担任の空き時間を作り、児童と関わる時間が確保できるようにした。また、教科担任制の導入や、専科の授業やTT等により、複数の目で子どもを見守り指導できるようにした。	

重点目標５	学校教育力の向上	4
主な方策 成果と課題	・生徒指導の充実（チームで取り組む０次対応）については、各担当が声をあげ、管理職を交えた先を見据えた指導を行えるようにしてきた。対応が、一部の教諭にのみに留まることがないようにデータで残し、どの教諭も確認できるようにしてきた。 ・家庭・地域と連携した安全・安心な学校づくりについては、家庭からの困り感に寄り添い、関係性を深めることに努めた。また、保護者から学習ボランティアを募り、学習の支援や地域の交通安全に協力してもらうことができた。 ・教職員の資質・能力の向上（ＰＤＣＡサイクルによる効果的な研修）については、各教諭が自己目標を年度当初に立て、学期ごとに振り返りを行い、自己研鑽に取り組んだ。積極的に研修会に参加したり、アドバイザーに授業の助言を受けたりする教員が多くみられた。 ・学校における働き方改革の推進（自律的な業務効率化）については、定時退校日の設定、弾力的な勤務時間の実施、働きやすい環境づくりに努めた。また会議を精選し、業務効率化に取り組んだ。	

２　改善方針

・あいさつ運動の成果もあり、あいさつを自発的に行う児童は増加傾向になった。しかし、昨年度と比べると黙働の徹底が不十分で、掃除中の私語が見られた。チャイム席は今年度も継続してできているが、予鈴後にすぐ動いているわけではなく、なんとか本鈴に間に合わせる、という様子も見られるため、時間を守ることを徹底していく。
・運動できる場（体育館の開放や昇降口に握力向上につながる資料や物を置いた）を設けたり、アスリート事業の活用をしたりすることで、体力テストの結果における体力の向上がみられた。来年度はさらに高められるように、今年度同様5分間運動や主運動、休み時間において、子どもたちがさらに運動に親しむ環境を作っていく。また、年間指導計画を見直し、学校全体で体育の授業への関心を高めていく。
・登校サポート委員会を定期的に開催し、不登校児童へのサポート方法の検討を行ったことで、登校に向けた成果が上がった。さらに委員会で、アプローチの方法を細かく検討していきたい。
・定時退校日を設定したがなかなか全員が行うことは難しい。今後も、業務アシスタントやSSSを活用し事務仕事の軽減を行ったり教科担任制の導入や教材資料のデータ化を行ったりすることで教材研究の時間の確保に努め、残業時間の軽減につなげていく。
・放課後の会議の削減やデータでの情報共有を行うことで、昨年度以上の業務の効率化を図ることができた。しかし、まだ十分とは言えず、今後も子どもたちに何が必要であるのかを精査し、行事等の精選をしていく必要がある。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立 大矢知興譲小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	・今年度の研修では、対話を通して多面的に考察し考えや思いを表現する子どもの育成をめざし、四日市モデル「第4プロセス」に重点を置いて取り組んだ。めざす子どもの姿や授業イメージ、ねらいを達成するための具体的方策について、教職員で共通理解をしたことで、研修を深めることができた。 ・授業のねらいに応じて、学習者用タブレット端末やＩＣＴ機器を活用してきたことで、子どもたちが自分で学習ツールを選択しながら問題解決につなげようと試行錯誤する姿が見られるようになった。 ・ビジョンの重点項目として、「漢字学習」と「読書」を設定し、ビジョンの達成状況をはかる指針の一つとした。ともに十分な成果を得ることができ、教育活動の充実を図ることができた。 ・高学年の学習状況を図る指針として、全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの結果を活用し、全教職員での分析を全ての学年の教科指導で活かせるようにした。	

重点目標２	豊かな人間性の育成	4
主な方策 成果と課題	・人権、同和教育、道徳教育の充実については、子どもが主体となる人権学習の充実に努めた。また、安心して過ごせる学級づくり、仲間づくりの推進に係る人権学習では、各学年で重点課題を設定し、系統立てた学習を進めた。特に、仲間づくりについては、「授業で仲間づくりを」をキーワードに、日ごろから安心して過ごすことができる環境を作ることで、よりよい学級運営につなげることができた。 ・児童アンケートでは「いじめや仲間はずれをせずに、友だちと仲良くしているか」「困っていることや悩んでいることを相談できる人はいるか」という項目で、肯定的回答が昨年度と同様の高水準であったことは成果である。 ・いじめ調査やＱＵ調査などを活用した教育相談の充実を行い、学年や管理職などと連携して、安心して過ごせる学級・学校づくりの推進に努めてきた。 ・自尊感情の高まりや将来の夢や目標については、アンケート結果から若干の高まりは見られたものの、依然として高い数値ではないため、引き続き次年度も注力して取り組みたい。	

重点目標３	健康・体力の向上	3
主な方策 成果と課題	・体力・運動能力の向上については、継続的に「５分間運動」を取り入れたことで、基礎体力の向上につながったととらえている。 ・体育の授業においても、学習内容とつけたい力を明確にしながら取り組むことで、主体的に運動に向かう姿をめざした。児童アンケート「体育の授業を含めて、運動に進んで取り組んでいるか」では、昨年度と同様に高水準となり、成果を得ることができた。今後も教師間での実践交流を進め、日々の指導に活かしていきたい。 ・健康・安全意識の向上については、今年度も保健指導・食育指導を全クラスで実施し、安全教育の推進、自己管理能力の育成に努めることができた。児童アンケート「健康や食生活に気をつけて生活を送っているか」では、肯定的回答が90%近くとなった。さらによりよい生活を送ることができるよう取り組みを継続する必要がある。 ・一方で、交通安全に関しては、登下校の姿に保護者や地域の方から心配の声をたくさんいただいているのが現状である。交通安全意識をさらに高めていく必要がある。	

重点目標４	学校教育力の向上	4
主な方策 成果と課題	・校内研修は、各学年で提案授業を計画・実践し、その都度研修会で検証することで、教職員の資質向上を図ってきた。また、各教職員が、県外研修で学んできたことや専門分野、得意分野を発揮しながらミニ研修会を開催し、個人の力量を高める機会を増やしてきた。学年間への還元を進めることで、さらに学校全体としての教育力を高めていきたい。 ・夏季研修では、特別支援教育や外国人児童教育、仲間づくり研修など、教職員のニーズに合った研修を取り入れることで、1学期の取り組みを振り返るとともに2学期以降の取り組みについて、見通しを持つことができた。 ・業務アシスタントの活躍は大きく、確実に教職員の子どもたちに向き合う時間の確保につながっている。心身ともに健康な状態で子どもと向き合うためにも、継続して職務の効率化を話し合い、働き方改革のさらなる推進のため、教職員の意識向上に努める。	

重点目標５	保護者・地域との協働	4
主な方策 成果と課題	・コミュニティースクールとして、「興譲協議会（学校運営協議会）」の充実を図ってきた。毎回、教育課題となっている協議テーマを設定し、各委員より意見をいただくことで、学校運営の改善につなげている。協議会で示された意見や方向性は必ず職員会議で共有し、全職員で改善の意識化を図ってきた。 ・「家庭学習の手引き」を年度当初に配付することで、家庭学習の習慣化に向けた取り組みを推進してきた。どの学年・担任でも統一感を持った家庭学習が進められるよう全職員で方針を確認し、保護者にも理解・協力を得ることができた。 ・学校や児童の様子を積極的に発信するために、H&SやHP、学年、学級通信において情報発信に努めてきた。保護者アンケートの情報発信に関する項目では、昨年度と同様の水準であったが、さらに効果的な情報発信のあり方について検討が必要である。 ・今年度も地域人材を生かした学習支援ボランティアの積極的な活用により、効果的な授業支援につなげることができた。また、昨年度並みに平日・土曜日に学校公開を行い、保護者や地域の方に教育活動を公開する機会を設けた。	

２　改善方針

【重点項目１】
・授業づくりにおいて、日ごろの授業や学校教育活動全般において、対話や表現する場面を意識して設定することで、対話を通して多面的に考察し、自分の考えや思いを表現できる子どもの育成をめざす。
・読書活動の推進については、ここ数年重点項目として取り組んではきているものの、家庭での「読書量」を増やすには時間に制限があることから限界を感じている。来年度も継続して読書活動を推進していくが、読書活動に関する目標設定について、家庭での「読書量」ではなく、「児童の意識化」に焦点を当てた内容にシフトしていく必要があると考える。
【重点項目２】
・道徳や人権教育、特別活動の時間などにおいて自分自身を見つめる取り組みや自発的・自治的な活動を行うなど、自己肯定感の涵養を図る取り組みを進める。また、日常の授業における仲間づくりを全ての学級で推進する。
・継続したいじめアンケートの実施とそれに伴う教育相談を確実に行い、安心して過ごせる環境づくりに努めていく。登校サポート委員会のさらなる充実を図っていく。
【重点項目３】
・本校における児童の体力面・健康安全面の課題を整理し、体力向上・健康意識の増進を高める取組を推進していく。
【重点項目４】
・教職員の資質向上に向けて、検証軸をしっかりと設定した職員全体の研修を確実に推進する。また、教職員のニーズに合わせた個別研修の充実を図るため、ミニ研修会開催など積極的なOJT推進に向けた体制を整えていく。
【重点項目５】
・「興譲協議会」のさらなる充実を図るための体制づくりと保護者・地域への情報発信の方法を工夫していく必要がある。保護者や地域の方との学校支援ボランティアの活用について、学校教育活動充実をめざして、さらなる活用を図る。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　八郷小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を図る。 ②言語（読む・書く・話す・聴く）活動を充実させ、読解力・表現力の育成を図る。 ③ICTを効果的に活用した教育活動、コミュニケーションを大切にした英語教育の充実に取り組む。 ④T.Tや少人数指導・教科担任制等を行い、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ⑤家庭学習の定着・習慣化に取り組む。 【成果と課題】 ・「学び合う活動をよく行っている」の項目が約93.4%と高い値となっている。ICTを効果的に活用し、友だちと自分の考えを見合う授業の取り組みの成果もあると思われる。 ・言語活動の「話す」では、相手が納得できるように自分の意見を話す工夫をするよう指導してきた。話す型を教えたり、話す機会を多く設けたりすることで話すことに慣れ、聞き取りやすい声の大きさで話せるようになってきた子もいる。 ・家庭学習に進んで取り組むが約77.4%と低い値となっている。大多数の児童が家庭学習に毎日取り組んでいるが、『進んで』は取り組んでいないという意識が強いようだ。 ・T.Tや少人数指導で、個に応じた細やかな指導ができた。英語教育もペアやグループでの活動を多く取り入れ、コミュニケーションを充実させた活動ができた。	

重点目標２	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①人権教育・道徳教育の充実により、多様な人権を尊重し差別やいじめを許さない子どもの育成を図る。 ②いじめ調査・QU調査等の実施により誰もが安心して過ごせる学校・学級作りに取り組む。 ③自尊感情を高め、互いに支える仲間づくりに取り組む。 ④スクールカウンセラーや関係機関との連携のもと教育相談の充実を図る。 ⑤創意工夫による読書活動の拡充、読書環境の充実により、本に親しむ子を育てる。 【成果と課題】 ・本年度ピンクシャツ運動やいじめ防止標語の作成に取り組み、いじめ防止に努めた。また、代表委員を中心に「言葉遣いに気を付ける」「いじめをなくそう」という目標を掲げ、各クラスで取り組みを考え、実施した。その結果、児童アンケートで「いじめは絶対にいけない」の割合が96%と、ほとんどのすべての児童がいじめはいけないものであるという思いを持っている。しかし、まだすべての児童が「いじめを許さない」という思いを持てておらず、いじめ事案も発生している。そのため、継続していじめ防止の取り組みを行っていく必要がある。 ・図書の貸し出し冊数は増えている。「本に親しむように取り組む」では、保護者88.6%と	

重点目標３	健康な心とたくましい体の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①子どもが意欲的に運動に取り組むための、授業づくりや環境整備に取り組む。 ②「早ね・早起き・朝ごはん」を合言葉に、規則正しい生活リズムの定着を図る。 ③学校保健委員会や学校三師等との連携などを通して、心と体の健康教育推進に取り組む。 ④栄養教諭や関係機関と連携し、給食指導なども含め、食に関する指導の充実を図る。 ⑤危険予測能力の向上をめざし、様々な体験活動を生かした安全教育の充実を図る。 【成果と課題】 ・保護者アンケート「学校は子どもたちに意欲的に運動するための取組を積極的に行っている」の項目では、78.3%→81.6%と増加した。今年度も外遊びを推奨してきたことや5分間運動の実施・運動量を確保するための工夫・５分間走の取り組みの成果が少しでてきた。今後も継続することで，更に子どもの意識改革を進めていきたい。 ・児童アンケート「早寝・早起きに気をつけていますか」では，78%→78.8%と若干増加した。「早めのおやすみ・ぐっすり睡眠チャレンジ２週間」の取組の成果が出てきているので、来年も取り組んでいきたい。	

重点目標４	家庭・地域ともにある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①学校運営協議会を核として、保護者・地域と協働する学校づくりを進める。 ②学校支援ボランティアの参画（図書・クラブ・安全・授業等）による教育活動の充実を図る。 ③地域と協働し、地域の資源（自然・歴史・施設・人）を活かした授業に取り組む。 ④学校教育活動や、子ども達の様子の積極的な発信（学校だより・ＨＰ等）に努める。 ⑤実施したアンケートをもとに学校評価をいただき、学校経営の改善に努める。 【成果と課題】 ・学校運営協議会を中心とした地域・保護者との連携により、子どもの安全見守り・学習支援・体験活動・学校環境整備などを行うことができ、安心・安全な学校づくりができた。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①各自の目標を達成できるように協働し、教職員の力量・資質向上をめざす。 ②外部講師の招聘や先進校視察を通して、授業改善・工夫した授業づくりに積極的に取り組む。 ③特別支援委員会、関係機関との連携を行うなかで、個々の教育的ニーズに応じた支援の充実に努める。 ④いじめ・不登校等の未然防止・生徒指導に対して、早期対応ができるよう体制の充実に努める。 ⑤働きやすい環境を整え、子どもと向き合う時間の確保に努める。 【成果と課題】 ・特別支援委員会やケース会議等で支援の方法を話し合うことで、個に応じた支援につながった。 ・いじめ・不登校などの未然防止、早期対応のため、校内での報連相や情報交換を密にし、毎週の児童情報交換・毎月末の特別支援委員会・登校サポート委員会、関係機関との連携等を丁寧に行ってきた。不登校の児童が登校しやすい環境づくりに努めていく必要がある。	

２　改善方針

・学校では、ICTの効果的な活用や子ども同士が学びあう活動を視野に入れた授業改善を図っていきたい。そのために言語活動（特に話す・聴く）を充実させていく必要がある。家庭に向けては、毎学期のはじめに、家庭学習週間を設け、家庭学習と読書の啓発を行ってきた。保護者に家庭での学習や読書の大切さが少しずつ浸透してきているが、進んで取り組むという点では児童約77, 4%、保護者約77.3%と低い値となっている。引き続き啓発の取り組みを続け、保護者の協力を得ていきたい。
・すべての児童が「いじめを許さない」という思いをもてるように、「なかまづくり」研修やＱＵ調査、いじめアンケート等を通して、全職員が児童一人ひとりを見守り、些細なトラブルも看過せず、きめ細やかな対応を行っていきたい。また、引き続き代表委員を中心に言葉遣いや子ども同士の関わりについて各クラスで考え、取り組みを実施していきたい。
・SNSトラブルによるいじめが低年齢化しているにも関わらず、情報モラルについての教育、保護者への啓発がまだまだ不十分であるため、出前授業等を活用しながら系統立てた指導を行うように取り組んでいく。
・朝のあいさつ運動の様子を校内放送で発表したり、「ありがとう」の気持ちを相手に伝えることを月別目標として設定したりすることで、思いやりのある子を育て、学校を安心できる場所にしていきたい。
・不登校の児童においては、放課後登校やオンライン、別室登校など児童、保護者と丁寧に相談しながら登校支援や学習機会の保障を行っていきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　下野小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ・四日市モデルによる主体的・対話的で深い学びの実現 ・基礎的・基本的学力の定着 ・ＩＣＴを効果的に活用した学びの充実 ・家庭学習の定着・習慣化 ・高学年教科担任制の推進 ＜成果＞ ・「四日市モデル」を意識した授業づくりから、深い学びに繋げられている。 ・タブレット活用力の向上により学習したことの表現方法の選択が可能になった。 ・教科担任制の推進により授業内容の充実や学年で児童を見守っていくことができた。 ＜課題＞ ・ＩＣＴ機器の利便性だけでなく、安全に活用するためのリスクやマナーについてもさらに指導を重ねていく必要がある。 ・基礎的・基本的学力充実のためにより効果的な指導や内容の充実、精選をしてい	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ・いじめや差別を許さない「なかまづくり」の推進 ・読書活動の推進 ・体育指導の充実による体力づくりの推進 ・健康・命を大切にする教育の推進 ＜成果＞ ・年３回の「なかまづくり」研修を行い、日々の指導やアンケートから「いじめを許さない」意識で取り組みを進めることができた。 ・命を大切にする教育（食育・保健指導・薬物乱用防止等）を年間通じて行うことができた。 ・全学年の体力テストの実施、縄跳び週間、５分間走等、体力向上に向けての取り組みを全校で推進することができた。 ＜課題＞ ・今年度の体力テストの結果から下野小学校の課題を明らかにし、体力向上に向けた課題克服のための指導内容の充実を図る。 ・読書への意欲の減少がみられたため、読書時間の確保や意欲向上に向けた取り組みの見直しが必要である。	

重点目標３	よりよい未来社会を創造する力の育成	4
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ・キャリア教育の充実 ・地域連携授業の推進 ・SDGｓの視点を取り入れたESD教育の推進 ・防災・安全教育の推進 ＜成果＞ ・地域連携授業の全学年実施により人や地域から体験的な学びの積み重ねができている。 ・登校指導や学級指導、児童会のあいさつ運動によって、あいさつの習慣が身についてきた。 ・防災・防犯訓練では、児童が自ら考えて行動する防災・防犯教育の推進により、児童の防災・防犯意識が高まった。 ＜課題＞ ・児童会を中心とした空き缶回収を全学年で行うことができたが、各学年で、SDGsに関連した学習内容を系統的に実施し計画的なESD教育の推進に取り組む必要がある。	

重点目標４	全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ・個に応じた、きめ細やかな支援の追及 ・サポートルーム（校内通級）の充実 ・日本語指導が必要な児童への指導（やまびこ）の充実 ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携体制の強化 ＜成果＞ ・特別支援コーディネーターによる要支援児童の共通理解や支援体制を、学校として取り組むことができた。 ・支援員やカウンセラーとの連携ができ、個に応じた対応や支援ができた。 ＜課題＞ ・個に応じた指導体制を整えていく必要がある。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ・校内外研修を通じた教職員の資質・能力の向上 ・保護者・地域と協働した教育活動の推進とそのための情報発信 ・西朝明中学校区「学びの一体化」、幼保こ小中の連携強化 ・働きやすい職場環境の整備と総勤務時間の縮減に向けた取組 ＜成果＞ ・四日市モデルの研修が６年目となり全職員で深い学びを意識した研修や授業が推進できた。 ・問題行動や地域からの安全に関する情報等を職員も共有し、保護者、地域に情報発信しながら組織的な対応で安全指導を行うことができた。 ・業務の効率化のため、文書のデジタル化や定時退校日、教職員研修日の４限授業等を実施することで総勤務時間の縮減に向けた取り組みができた。 ＜課題＞ ・さらなる総勤務時間数の縮減に向けて、業務の効率化や意識改革、定時退校日の実施に取り組んでいく。	

２　改善方針

・児童アンケート「学校は楽しいですか」では、昨年度92.5%から93.2%と向上していて、児童が学校が楽しいと感じていることが分かった。学校が安心・安全で楽しく学ぶことができる場となるように、保護者、地域と連携しながら明るく活力のある学校の姿をめざす。

・「下野子どもまつり」や「６年生を送る会」等、子どもたちが主体となり、自らの力を伸ばしていける学習活動を企画し、実施していく。

・ICT機器活用の効果的・系統的な指導や活用を目指して、具体的な計画や系統図等を作成し、指導に活かす。

・全学年の体力テスト実施から、本校の児童の体力面での課題を明らかにし、児童の体力向上や系統的で効果的な指導ができるように、年間計画の見直し等の取り組みを進める。

・一人ひとりの子どもに対して細かく丁寧に対応したり、少人数指導の充実を図ったりするために、教育課程の見直しを行っていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　水沢小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の伸長	3
主な方策 成果と課題	〇個に応じた「わかる授業づくり」に取り組む。 〇ICT機器等を効果的に用い、筋道を立てて説明できる論理的思考力の育成 〇家庭と連携した読書等家庭学習習慣の定着 ＜成果＞ ・一斉学習のあと、個々の進度に合わせてタブレット（ミライシード）で復習することでより理解を深めることができた。 ・ICTサポーターの支援で、より高度なプログラミングやタイピングの学習に楽しく取り組むことができた。 ・一人一冊ずつ図書館に入れる本を選ぶ活動と読書の楽しさについての講演会を実施し、家庭での読書推進に向けて啓発することができた。 ＜課題＞ ・職員同士が日々の授業を見合い、研鑽する時間をとることができなかった。	

重点目標２	水沢と共に育つ子どもの育成	4
主な方策 成果と課題	〇水沢の自然、文化、歴史、産業等を活用した学習 〇学びを深めるための体験活動とキャリア教育の推進 〇水沢の課題を自分事として捉え、それを解決しようとする持続可能な取り組み ＜成果＞ ・全学年が地域の人から学ぶ学習（ゲストティーチャー、社会見学、校区探検等）を取り入れ、地域の産業や自然を学ぶ機会を多く設定することができた。 ・運動会で、地域の方や卒業生と一緒に「水沢音頭」を踊ったり、「玉入れ」を楽しむことができた。 ・11月の授業参観は、全学年が地域ふれあい授業を実施し、保護者も共に参加することができた。 ＜課題＞ ・以前から実施している行事をそのまま継続するだけでなく、より子どもたち主体で考え工夫できるような内容に変えていくことも必要だと感じた。	

重点目標３	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	4
主な方策 成果と課題	〇ちがいを認め合い、自他を大切にする心を育む。 〇ルールを尊重し、なかまとともに高め合う心を育む。 〇家庭と連携して子どもの心の健康と安定を支える。 〇円滑な接続のための中学校区「学びの一体化」の推進 ＜成果＞ ・週に１回以上全職員で児童の情報共有の時間をとり、担任任せにすることなく、児童の個々の課題に寄り添うことができた。 ・指導困難な事例に対応するために、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーといった専門職や教育委員会から助言をいただき、ケース会議を持つことで早期解決に向けて取り組むことができた。 ・全学年が、他校とのオンラインや対面での交流学習を実施することができ、コミュニケーションの場を増やすことができた。	

重点目標４	地域と連携した安全・健康・体力の向上	4
主な方策 成果と課題	〇子どもがめあてを持った日常的な体力づくりの推進 〇学校と家庭・地域が連携・協働して実現する体力向上に向けた教育活動と生活習慣づくりの推進 〇家庭・地域と連携して子どもが実践的・主体的に取り組む ＜成果＞ ・年間通して「防火・防災教育」に取り組むことができた。職員の「防犯教育」に取り組み、児童を守ることを優先にどのように行動すべきか共通理解することができた。 ・すこやか部による「児童の体力向上のための５分間運動」の提案を受けて、各学年が取り組むことができた。 ・地域マネージャーと連携し、４年生は「防災倉庫」３年生は「市民センター」を見学し、地域防災について学ぶことができた。 ・４月に全保護者、８月にPTA地区委員による「通学路点検」を実施し、児童の安全を見守る機会を持つことができた。	

２　改善方針

・日常の業務や突発的な事象への対応に追われ、職員同士が日々の授業を見合い、研鑽する時間を十分にとることができなかった。職員の自主性だけに頼らず、研修体制と時間の設定を年度初めに決めておくようにしたい。
・以前から実施している行事をそのまま継続するだけでなく、より子どもたち主体で考え工夫できるような内容に変えていくことも必要だと感じた。小規模特認校として特色ある学校行事を継続することはもちろんのこと、学校アンケート等で寄せられた保護者の考えも考慮して行事を開催していきたい。
・来年度も、小規模校対策事業の学校だけでなく、必要に応じた相手校と早期に連絡を取り合い、より充実した交流授業を実施していきたい。
・台風や大雨、大雪等の場合、早い段階から中学校区各校、近隣校、学校運営協議会、PTA、市民センター各所と連絡を取り合い、通学路の安全を調査し、下校時刻の変更や休校等の判断をしていきたい。
・地域関係者と打ち合わせを密にし、各学年に応じた地域ふれあい授業を積極的に実施したい。また、地域教材を新しく見つけ、よいものは次年度に引き継げるようにしたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　保々小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	主体的・協働的に学ぶ授業づくり	3
主な方策 成果と課題	（主な方策） ・なかまとともに、自ら課題解決しようとする授業づくり。 ・なかまの思いをきき取り、自分の思いを話すことができる子どもの育成。 ・本時の学びを振り返る活動を大切にした授業づくり。 ・授業をはじめ、様々な活動で「書くこと」を大切にする。 ・運動好きの子どもを育てる授業づくり。 ・ICT機器を活用し、他者と協働的に課題を追求する活動。 （成果と課題） ・教員が「書くこと」を意識して、子どもの思いや考えを捉えることができた。 ・子どもの中でも思いを表現することができる子には焦点が当たるが、思いを表現することがなかなかできない子への取組が弱いため、より子どもの問いや課題から出発した授業づくりが必要である。 ・体育の授業における授業はじめの５分間運動の実施は定着してきている。しかし、ＩＣＴの活用は、まだ不十分である。	

重点目標２	支え合うなかまづくり	3
主な方策 成果と課題	（主な方策） ・なかまの考えや思いをきき合い、語り合うことを通して、自尊感情を育む。 ・人権問題に気づき、差別をなくそうとする子の育成。 ・多様性を認め合う、互いの生き方に学び合う人権総合学習・生活科への取組。 ・お互いを認め合う学級づくり、安心できる居場所づくり。 ・委員会や係活動などの自主的な活動や掃除への取組。 ・ルールやマナーの順守など道徳心の修得。 （成果と課題） ・人権総合学習・生活科を中心としたなかまづくりを行うことができた。「きき合い・語り合う」ところまでは到達しなかった。 ・各委員会で主体的にプロジェクトを企画し進める姿が見られた。各学級でも係活動などで主体的な取組がなされていた。また、クラブ活動も有意義な時間となっていた。 ・ルールやマナーにおいては、「ろうかの右側歩行」「靴やトイレのスリッパをきれいにそろえる」「時間を守る」に関して、守られていない場面があった。	

重点目標３	組織的かつ計画的な支援体制づくり	3
主な方策 成果と課題	（主な方策） ・基礎学力充実タイムによる基礎学力の定着。 ・こども園小中高が連携した支援体制づくり。 ・図書館の整備。朝の読書を通した読書好きな子の育成。 ・場に合わせた挨拶ができる子の育成。 ・特別支援教育の充実。 ・家庭と連携した生活習慣（早寝早起き朝ごはん）定着、自主的な読書習慣、家庭学習定着の取組。 （成果と課題） ・全学年で自主学習の取組を掲示したことによって、少しずつ学習習慣がついてきている。 ・あいさつができていないことが課題である。 ・図書の持ち帰りに取り組んでいるが、読書習慣を定着させることができていないことが課題である。特に高学年では、図書館を有効活用することができていない。 ・安定した生活習慣については、生活習慣チェックシートを生かして、家庭とも連携をとって取り組みを進めることができてきている。	

重点目標４	地域に学び・人がつながる学校づくり	3
主な方策 成果と課題	（主な方策） ・学校運営協議会として、地域の方に学ぶ・人がつながる活動への取組。 ・人権総合学習・生活科の活動に地域の方に学ぶ・人とつながる活動の積極的な取り入れ。 ・授業参観、懇談会、講演会、保々のつどい、クラブ活動、ボランティア活動など、保護者・地域住民の参画の更なる推進。 （成果と課題） ・地域の方が協力的で、人権総合学習を通して地域人材の活用が積極的になされている。 ・地域人材を活用して、栽培活動や食育が進められているところが本校の強みである。 ・開かれた学校づくりの取組が多く、保護者や地域の方々に参加してもらい、学校の様子を知ってもらう機会とすることができた。	

重点目標５	安全・安心な学校づくり	3
主な方策 成果と課題	（主な方策） ・スクールカウンセラーと共に、子ども・保護者の心のサポートへの取組。 ・いじめ、なかまはずしのない学校を、子どもたちと保護者・地域と共に創出。 ・学校・学年・学級だより、ホームページを通して、教育活動のねらいや子どもたちの姿、学校の様子を積極的に発信。 ・安全への理解を深め、的確な判断のもとに行動できる子の育成。 （成果と課題） ・それぞれの学年が、教員や保護者、ＳＣ等と連携を取りながら児童の課題に寄り添い丁寧な対応に努めてることができた。 ・「いじめ防止対策委員会」や「生徒指導・特別支援委員会」を活用して組織的な対応を図ることができた。いじめアンケートでは出てこなかったいじめを教員が認知し、解消に向けて対応することができた。 ・子どもの様子を複数の目で見守るとともに、けがなどの情報等について担任や養護教諭等と共有し、日々の指導に生かすことができた。	

２　改善方針

・思いを表現することが難しいと思っている子が、表現できたときの周りの反応を大切にし、成功体験を積み重ねていく。たくさん教師が人権課題や学級の課題に関することを仕組んでいく。
・体育の授業におけるＩＣＴの活用について、効果的な実践を紹介していく。一部の単元においてはＩＣＴの活用を義務付ける提案などもしていきたい。
・低学年から“きく”姿勢を養っていく必要がある。“きくこと”の良さを感じさせる。聞くから聴くへ高めていく必要がある。そこから受け止めてくれた良さを感じさせ、伝えたい、語りたいへ繋げていく。“きく”の表現方法（相づち、思いを返す等）を子どもたちに定着させる。
・各クラスで行われている主体的な取り組みが全校に広がり共有されるようにする。ルールやマナーに関しては、学年によって守れていたり守れていなかったりしたので、学校全体、教職員全体で改善に取り組む。
・あいさつを重点目標の最重要項目とし、年度初めに教員だけでなく、児童、学校全体で「あいさつ」を目標に掲げ、定期的に各クラスや集会などで振り返りながら改善していく。
・進んで読書する子を育てるために、興味が持てる本（電子図書館を含めて）を子どもたちの身近に用意できるようにしていく。図書館の利用が時間的に難しいため、高学年から順に学級文庫の充実を図っていく。また、水曜日の読書デーの取組を子どもたちに定着させられるようにしていく。
・今後も、地域の方の協力のもと、食育をともなった栽培活動を進めていきたい。また、各学年における栽培活動に関しての引き継ぎや畑の管理を今後徹底していけるようにする。
・子どもたちがいじめを見つけたとき、大人に伝えたり、いじめアンケートで知らせたり、いじめを止める行動がとれるような指導をしていく。今年度は４月にいじめに関する研修を学年部で統一して行っているが十分とは言えないので、学期に１回程度できるようにしていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　泊山小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の向上	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇効果的なICT活用、情報モラル教育の充実 〇指導方法、指導体制の工夫 【成果】 ・計算練習や漢字や文法の学習などのプリントやタブレット学習を進めることで、基礎学力の定着や既習事項の学び直しにつながる学習とすることができた。 ・習熟度別のクラス編成の際には、レディネステストと児童本人の意向を合わせてコースを選択した。児童の実態に合った学習を進め、学習意欲を高めることができた。児童の実態に応じて、算数が苦手な児童のコースをより少人数にしたり、学年を３コースに分けたりすることで、さらにきめ細やかな指導を行うことができた。 ・朝学習でタイピングに取り組んだり授業でICTを活用したりすることで、児童の学習意欲が高まっている。 【課題】 ・授業を理解している児童の意欲や学力をさらに高めるための手立てが不十分である。 ・ICTを効果的に活用するための教材やツール、指導法を確立する必要がある。	

重点目標２	豊かな心と健やかな体の育成	4
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇自他を大切にする人権教育、心の教育の充実 〇運動好きの子どもを育てる授業・環境づくり 【成果】 ・全校集会や学校保健委員会で生活習慣の改善に、子どもたち主体で取り組んだ。 ・子どもたちが「楽しい」と思える授業づくりや休み時間などに運動に親しむ環境づくりに努めた結果、運動が好きな児童の割合が多い。 ・一人ひとりを大切にする学級づくりについて研修を進め、自尊感情が少しずつ高まりつつある。 【課題】 ・「安心して生活できる」学校づくりに関して、さらに研修や活動が必要である。子どもの心の声や生い立ち、家庭背景をつかむことをより大切にしたい。 ・考え議論する道徳を通して様々な意見を受け入れられる子どもを育てる。	

重点目標３	未来を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇主体的に取り組む清掃、当番・係・委員会活動等特別活動の推進 〇地域の人材と資源を生かした生活科・総合的な学習等の充実 【成果】 ・児童会や委員会活動では、今年度も子どものアイデアを取り入れたり、子ども自身が自主的に動けるような取り組みを進めることができた。 ・梅ちぎり、日永の追分調べ、梅林史、防災教室など地域の人材と資源を生かした学習に取り組ませることができた。 ・キャリアパスポートの活用については、中学校区で取り組み方をそろえた。中学校での活用の方法を知ることで、進学してからも子どもたちが困らないように取り組めた。 【課題】 ・各活動にSDGｓの意識を取り入れ、年間を通した活動の見通しについて具体的に計画していきたい。	

重点目標４	個の理解と伸長	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇関係機関、福祉施設との連携・協働 〇登校や学習に苦戦する子どもの指導の工夫 【成果】 ・特別支援教育と生徒指導の両方の視点を持ち、子ども一人ひとりの課題を多角的に捉える取り組みを進めることができた。 ・サポートルームの活用や通級指導教室につなげることで、個別の課題をもつ児童への支援を充実することができた。 ・登校に課題をもつ児童に対して、ＳＣやＳＳＷの意見を取り入れながら保護者と連携し、支援をおこなうことができた。 【課題】 ・登校に課題をもつ児童の受け入れ態勢を整えるための教職員が不足している。 ・特別支援教育や生徒指導に関わる研修の充実は今後の課題である。	

重点目標５	地域との協働	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇コミュニティスクール運営協議会等を活用した教育活動の推進及び、学校教育活動におけるアンケートの実施 〇ワークライフバランスの充実 【成果】 ・教育活動アンケートで保護者から概ね肯定的な評価を得られ、泊山小学校の教育活動に対してご理解・ご協力していただいていることがわかる。 ・ホームページでは、毎日の子どもたちの様子を伝えると共に、行事予定やPTA活動についての記事も随時更新することができた。 ・持続可能なものに再考しながら、学校行事を行うことができた。 【課題】 ・学校のニーズに応えた活動を進めていただくために、保護者だけでなく地域と学校がつながる教育活動ができるように教育活動を再考していく。	

２　改善方針

【重点目標１】
・基礎学習の定着を図り、習熟度別の少人数教育におけるそれぞれのクラスの特性を理解したうえで、指導方法や指導体制を工夫し、児童が主体的・対話的に課題に取り組めるよう授業改善を推進する。
【重点目標２】
・体を動かすことの心地よさや心身の健康の大切さを感じ、自ら工夫しながら成長していく自分を肯定的に捉えられるような活動を展開する。
・考え議論する道徳の充実を図る。
【重点目標３】
・学級　学年　学校のために主体的に活動できるように、各活動にSDGｓの意識を取り入れていく。そして、年間を通して見通しを持って具体的に計画していきたい。
【重点目標４】
・登校や学習に苦戦する子どもの居場所づくりを工夫し、ひとり一人が安心して登校し学校生活が送れるように、生徒指導体制や相談体制、そして特別支援教育の充実を図る。
【重点目標５】
・コミュニティスクール運営協議会を中心としたボランティア活動を基盤として、保護者や地域と連携をし準備を進める。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　常磐西小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	１　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・「問題解決的な授業づくりのための５つのプロセス」を意識した授業づくりに取り組んだ。プロセス４「解決方法の共有」に重点を置き、子どもたちの学びが深まったといえるのはどんな姿か、またそのためにはどのような手立てが有効かを全職員で考え共有し、各プロセスの組み立てを行った。 ２　ICTを活用した教育活動の充実 ・発表ノートを活用して、情報共有や思考を深めることができた。 ・ドリルパークを家庭学習や振り返りに用いることができた。まだプリント学習で進めている場面も多いため、今後も積極的に活用していきたい。 ３　学校教育活動全体における言語活動（読む・話す・聴く・書く）の充実 ・自分の考えを文章で書く、聞き手に伝わるように話す、ペアやグループで友だちの意見を聴いて話し合う等の言語活動を、すべての教育活動において大切にしてきた。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	4
主な方策 成果と課題	１　人権教育・道徳教育の充実 ・各学年の発達段階に応じた人権教育を行うことができた。 ・年間１回以上、各学級において人権教育の授業公開を保護者に向けて行うことで、啓発活動とすることができた。 ・各学年１本の人権教育の授業研究を行うとともに、全体研修会を行うことで、全職員で本校の人権課題について考え、意見交換・情報共有を行うことができた。 ・道徳の授業で、役割演技を積極的に取り入れ、児童一人ひとりが考えを広げたり、深めたりする機会を増やすことができた。 ２　読書活動の充実 ・図書ボランティア、図書委員、教師等による読み聞かせの機会を多く設定した。 ・図書館祭りを行うことで、本に親しむ機会を設け、図書室を積極的に利用することができた。 ３　体力・運動能力の向上 ・全学年が体力調査を実施し、本校児童の体力の把握に努めた。また、体育で全体研修を実施することで、子どもたちの体力向上につながる場づくりや課題について全職員で協議した。 ・主運動につながる効果的な５分間運動が、全学級で実施されていないのが現状である。 ４　健康教育・食育の充実 ・月に一度「メディアチェックデー」を設定し、メディアの使用頻度を減らす啓発活動を行い、使い方を見直す機会となった。 ・養護教諭と連携し、全学級で歯磨き指導や保健指導を実施した。 ・全学年において教科の学習や給食献立と関連した食育授業を実施し、継続した指導を意識したことで食への関心を高めることができた。	

重点目標３	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	１　吉田山をはじめとする地域の特色を活かした学習・体験活動の推進 ・吉田山の環境を地域の方とともに整備した。 ・生活科・理科の学習や総合的な学習での森林教育・環境教育など、豊かな自然を活用した学びを行うことができた。 ２　キャリア教育の充実 ・保護者の賃金労働の聞き取りを行い、働くことの価値・願い・苦労・喜び等を知ることができた。それにより、自分の未来について考える機会をつくることができた。 ・Future　Linkの記入後、保護者に確認してもらうことで、保護者と教師が子どもたちの成長をともに見守り、応援しているというメッセージを送ることができた。 ３　防災・安全教育の充実 ・防災教育を各学年で行い、防災ノートや防災みえから配信されている動画を活用して、授業時間外での避難の仕方について確認することができた。 ・子どもたちに予告なしの避難訓練を２回実施した。不測の事態に対応できる力を子どもたちだけでなく職員も含めて身につけていきたい。	

重点目標４	全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現	4
主な方策 成果と課題	１　学びを支える効果的な指導体制の充実 ・支援が必要な児童に支援員がつくことができるように、特別支援委員会で検討し学習環境を整えることができた。 ・高学年では、教科担任制による指導を通して、学年全体で子どもたちの実態を把握し指導を進めることができた。さらによりよい在り方を検討・検証していきたい。 ２　特別支援教育・教育相談の充実 ・月１回の特別支援委員会で、支援の方向性や校内の支援体制を検討した。 ・特別支援委員会や登校サポート委員会にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが入ることで、連携して教育相談を行うことができた。 ・学期に１回いじめアンケートを実施し、校内いじめ防止対策委員会で情報共有を図り、早期発見に向けて組織的な対応をとることができた。 ３　安心して学べる学校生活の充実 ・心の天気を活用し、一人ひとりの児童の思いを汲み取るよう努めてきた。	

重点目標５	学校教育力の向上	4
主な方策 成果と課題	１　子ども一人ひとりの成長を支える支援の充実 ・基礎的基本的な学力の定着を図るため、ぐんぐんタイムの学習内容を学年内で検討し、見直しをしながら継続した取組を行った。 ・少人数やTTの指導により、個別の支援をしながら学力向上に努めることができた。 ２　地域と協働した学校づくり ・各学年でゲストティーチャー等を招いての教育活動に取り組むことができた。吉田山を活用した森林教育・防災教育・昔遊び等で地域の方に協力いただき、活動を進めることができた。 ３　ともに学び合う教師集団の確立 ・学年部を中心に教材研究を深めたり、指導方法を協議したりして、研究主題を意識しながら研修を進めることができた。また、全職員が年間１回は学習指導案を作成し、授業公開・事後研修会を持ち、教師力の向上に努めることができた。 ・日常的に授業を見合い、他の職員の授業を見て互いに学び合うことに努めた。	

２　改善方針

・児童が取り組みたくなるような課題設定や学習形態の工夫など、学年部を中心として研修を続けていく。また、課題を設定する際、身近な生活場面と結び付けたり、既習事項とつなげたりすることで、理解を深められるようにする。
・ICTを効果的に活用する授業づくりについてさらに研修を進めていく。ICTの活用だけでなく、課題解決の場面に応じて、「書く・話す・聴く」等の言語活動についても引き続き力を入れて指導していく。
・教師の人権感覚を高め、様々な人権課題を抱える子どもたちの様子を日々見逃すことなく把握するとともに、人権感覚を養う指導をしていく。
・全職員で共通理解を図りながら、一人ひとりの子どもを大切にした特別支援教育を進めていく。きめ細かく保護者に子どもの様子を伝え、指導の方向性などの共通理解を進めていく。また、どの子も認められる共生教育としても各学年で位置付けていく。
・働き方改革の観点から、週日課の見直しや会議の持ち方等、勤務時間短縮の意識を高める具体的な取り組みを継続して行っていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　三重西小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力を育てる	4
主な方策 成果と課題	①今年度は、５・６年生において習熟度別少人数授業（算数）を行った。習熟度別少人数授業では、単元ごとに児童自らが授業のコースを選択している。児童の実態に応じて、課題の与え方や、学習の進め方を工夫したことで、安心して授業を受けることができた。また、１・２年生の算数においてＴＴ授業を行い、理解に時間がかかる児童に対してていねいな指導を行うことができた。 ②「主体的・対話的に学びに向かう子どもの育成」をテーマに研修を取り組んできた。学校児童アンケート「授業は分かりやすい」の項目に係る肯定的な回答をしている児童の割合は９３％であり、昨年度とほぼ同等の数値である。これからは「教師がわかりやすく教える授業」から「自ら考え学びを深める授業」に授業観をかえていく必要があり、本年度、研修を通して授業観のアップデートをはかった。 ③学力の定着に課題がみられる。②の授業観のアップデートと並行しながら、改めて、児童の状況等を正しく把握し、定着のための手立てを検討し、指導につなげていく必要がある。	

重点目標２	こころとからだを育てる	4
主な方策 成果と課題	①昨年度から取組をすすめているあいさつについては、学校児童アンケート「友だちや大人の人に進んであいさつをしている」の項目で、肯定的な回答をしている児童の割合が９２％になり、昨年度と比べ、さらに３％向上した。「あいさつの励行」については、地域の保護者にも協力を呼びかけるとともに児童会活動ともリンクさせながら啓発活動に努めた。今回の取り組みの成果を一過性のもので終わらせることなく取り組みを継続させたい。 ②児童アンケート「どんな理由があっても、いじめはいけないと思う」では、肯定的な意見が昨年度同様９８％となった。１１月には「いじめ防止月間」として、各学級で考え、いじめ防止標語を作成し、それを発表する学校集会も行った。また、本校の課題でもある外国人差別を中心に様々な差別についての学習も進めている。あわせて、日々の教育活動の中で、他人事を自分事として捉え、学級のみんなで考え、行動にうつすように取り組んでいる。 ③昨年度、体力向上にかかわるアンケート結果が大きく向上し、今年度はその結果をキープすることができた。体育専科の授業からみんなで研修する機会をつくり、全学年、その研修で学んだことを授業でいかすことができた。また、生活リズムについて、この数年、肯定的な意見が多くなっている。健やかな身体的な成長となるよう、「早ね、早起き、朝ごはん」を家庭や地域に広げていきたい。	

重点目標３	夢と志を育てる	3
主な方策 成果と課題	①キャリアパスポートを活用し、行事や学期をふりかえり、児童自らの成長を自分自身で確認することができた。また、委員会や係活動を通して、主体的に工夫しながら自治活動をすすめることができた。 ②生涯、自分の身体を大切にすることを目的に、市内の主体会病院・理学療法士を招聘し、ケガの予防、ストレッチ運動の重要性などをテーマに講演・実技をしていただいた。また、中学年を対象に、同じく主体会病院の理学療法士の方から、姿勢について考える機会を設けることができた。 ③自らの将来を豊かにするため、コミュニケーション力の向上も取り組んだ。日々の授業で言語活動を意識することで、自分の思いや考えを主張することができるようになりつつある。また、道徳の授業を中心にしながらソーシャルスキルトレーニングにも取り組んだ。すぐに成果が上がるものではないが、地道に取り組みを継続させたい。 ④行事等を通して、地域の方とのふれあいにより、児童の心がよりあたたかく、地域とのつながりを感じながら育っていることを実感することができた。引き続き、地域とのつながりを大切にするとともに、体験学習を通して、非認知能力を伸ばしていきたい。	

重点目標４	すべての子どもの力を伸ばす学校づくり	3
主な方策 成果と課題	①「GIGAスクール構想」に係るＩＣＴ活用の授業づくりにも積極的に取り組むことができた。取り組みを通して、「個別最適な学び」「協働的な学び」にかかわり授業改善をすることができた。 ②今年度も、「教科担任制」も有効に活用することができた。専門性の高い教員が自ら得意とする教科の担当をしたり、担当する教科を深く集中的に研究・準備をしたりすることで、より質の高い授業が提供できると考えている。さらには、小学校の段階から多くの教員が授業に関わることで、「中1ギャップ」解消に向けても一助となる。	

重点目標５	学校教育力の向上	4
主な方策 成果と課題	①地域のなかで育まれ、地域のなかで共に成長することで、自らの将来に夢と志をもってほしいと願っている。ＣＳ委員を中心に、地域と学校が連携する行事等を展開してきた。『三重西地区里山を愛する会・しろやま倶楽部』の支援により３年生は「昔の遊び・昔のくらし」を、５年生は「里山保全活動」について学ぶことができた。１・２年生は『いきいきサロン』の支援を受け、花植えを行った。また、『図書ボランティア・どんぐりの会』の方々による読み聞かせの会も実施することができた。	

２　改善方針

①「主体的・対話的に学びに向かう子どもの育成」をテーマに研修を取り組んできた。授業改善はすすんでできるものの、学力の定着に課題がみられるため、再度、基本的な指導方法の確認を行うとともに児童たちがより主体的に学びに向かうような取組や研修を進めていきたい。
②児童の体力向上に向けて、体育科の授業改善を引き続き行うとともに、児童会による企画の推進を行うことで、児童の主体性を育みたい。
③自らをみつめ、心のあたたかさの感じられるよう、地域とのつながりを大切にしていきたい。また、体験学習を通して、非認知能力の育成につとめていきたい。
④勤務時間の削減が急務であり、効果的な教育活動や学校全体としての各計画の見直し等を検討し、効率的な業務の精選を行いたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　大谷台小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	〇タブレットを用いての交流、顔を見合わせてのグループ交流など、その時々で使い分けて学び合いをさせることができた。 〇表現力の向上に取り組み、自分の考えを伝えようとする姿が多くなった。 〇子どもたちが主体的に取り組める単元の流れを設定することで、話す・書くなどの表現力を少しずつ身につけさせることができた。 〇校内の掲示板に、児童の書いた新聞や自主学習ノートを掲示することで、児童の意欲を向上させることができた。 △タブレット学習が一人ひとりの学力向上につながっているのか、検証することができなかった。 △児童一人ひとりへの個別の指導をする時間をもっと充実させていく必要がある。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	〇見つめる子どもを設定し、学年部で話し合いの機会を定期的に持つことで、実態に即したなかまづくり進めることができた。 〇子どもの実態に応じて教材を選んだり、道徳の内容を生活や国語等と関連付けて進めることができた。 〇養護教諭による保健指導、栄養教諭による食育を充実させ、子どもたちに保健や栄養についての意識を高めることができた。 △休み時間に運動場に出る児童が少ない。体育用具や教室配当の運動用具を充実させて、休み時間にたくさんの子が外で遊べるようにしたい。 △トイレスリッパの整頓、廊下歩行など、守るべきルールが守られていないことがあった。全職員で意識統一し、同じ指導を行っていく必要がある。	

重点目標３	よりよい未来を作る力の育成	3
主な方策 成果と課題	〇児童集会、あいさつ運動など代表委員による活動が充実していた。 △担当者の負担を考えると、児童集会の内容・持ち方について、検討する必要がある。 〇見守り隊の方に、毎日の登下校時に見守りを行っていただいている。児童と地域の方との交流の場となっている。 〇防災学習や獅子舞、万古焼、かぶせ茶の学習などで、地域の人材に助けていただき、社会科を中心として体験的な学びを充実させることができた。 〇△地区の敬老祭と人権の集いに児童が参加し、歌とダンスを披露した。地域の行事への参加の仕方についてよりよい方法を考えていく必要がある。 △キャリアパスポートを毎学期書かせているが、うまく活用することができていない。	

重点目標４	すべての子どもの成長をサポートする教育の充実	3
主な方策 成果と課題	〇特別支援教育として、１年生児童にたんぽぽの学級紹介を行った。早い段階で知るよい機会となった。 〇△たんぽぽの担任が低学年に向けて出前授業を行った。低学年のうちから取り組むことの大切さを実感した。いろいろな人と出会う学習を低学年から組んでいくとよい。 〇△算数における少人数授業を高学年にしかできなかった。つまづきが多くなる中学年から、習熟度別少人数授業を取り入れたい。 〇△高学年で教科担任制を導入して、子どもたちを学年で見ていくことのよさを感じた。中学年でも教科担任制を導入したい。 △人手が足りないため、支援の必要な児童への手立てが組めない。 〇△登校サポート委員会の中で、不登校児童についての手立てを考え、対応することができた。しかし、問題が多岐にわたっており、すぐに成果が出ることがなかった。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	〇研修の提案に沿って授業の計画を立てることができた。 〇大学の教授に来ていただき、指導助言をいただくことで、研修の内容を共通理解し、整理して研修を進めることができた。 〇学校全体で支援体制について話し合うことで、落ち着いて学習する児童が増えた。職員間の共通意識がよかった。 〇小学校と中学校の教員が定期的に児童生徒の様子について話し合うことができた。 △すぐに使えるスキルが身に付くミニ研、お悩み相談会などを開催し、教職員の学びの機会を増やしていく。	

２　改善方針

・働き方改革を進める。そのためにまず、行事の精選を進める。授業時間数の削減や、会議の時間削減、レポートの削減など、減らせるところは減らしていく。
・すぐに使えるスキルが身に付くミニ研や小ネタ紹介、お悩み座談会など、職員のスキルアップにつながる研修を実施し、高め合える教師集団を作っていく。
・分からないときに互いに聞き合える風通しの良い職場にする。
・児童の読書への意識を高めるため、まず教員の意識を高めるような取り組みを行う。また、教員自ら本の紹介したり、児童の実態に合わせ、高学年でも低学年図書室で借りられるようにしたりするなど、工夫した取組を進める。
・自己肯定感を高める取り組みをさらに進める。今後も仲間を大切にする取組をすすめ、人権意識を高める。
・毎週の児童の情報交換において、どのような観点で情報交換を行うのかを明確にする。打ち合わせや委員会等で決まったことは全職員が必ず取り組み、指導の一貫性を持たせる。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　桜台小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 自ら考え　行動できる・ＩＣＴ機器を自分の学びのために正しく使う ・文章を正確に理解し、相手に適切に伝えることができる ・筋道立てて考え、説明することができる 【成果と課題】 ◎算数科を窓口にして1年を通して研修を行ってきた。学年の取り組みをプレゼンなどで全体交流した。 ◎ＩＣＴ機器の活用に際して、学年の実態に合わせて目標や約束を設定し授業で使用できた。 ◎社会科、総合学習、自主学習（本校での名称「プラスワン」）等調べ学習での活用ができた。 △自ら情報を選択する力の育成を図っていきたい。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇自分の体に関心を持つ ・規則正しい生活リズムを身につけ病気の予防に努める・運動遊びに親しみ、体力づくりに努める 〇命を大切にする心の育成〇差別やいじめを絶対許さない 〇読書習慣を身につける 【成果と課題】 ◎感染状況や気候に合わせた健康管理や指導が実施できた。 ◎体育科の授業の充実を図り体力作りに取り組めた。更に休み時間には教師とともに体を動かせる遊びに取り組めた。児童体育委員会を中心に体力強化月間を設定し、全校外遊びに取り組んだ。 ◎｛心の天気」に取り組み、毎日、児童理解の充実を図った。 ◎図書館祭りでは、児童委員会と司書・図書館支援員と連携を図り読書推進にとりくめた（読み聞かせ・掲示・読書カードなど） ◎電子図書を大いに活用した。 △運動の楽しさを味わわせることはできたが、運動能力を向上させようとする主体性を育むまでには至っていない △（児童アンケート結果から）自ら病気やけがの予防に努め、安全な生活を送る態度を育てる継続した指導が必要である。	

重点目標３	未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇桜台っ子「学校生活１０のやくそく」を守り、あたりまえのことを気持ちよくできるようになる 〇家庭学習の習慣の確立→プラスワン等〇地域に誇りと愛着をもつ 〇事故や災害から自分の身を守る 【成果と課題】 ◎プラスワン（自主学習）の掲示を定期的に行い、全校児童の意欲向上を図った。学年により、低学年の週１階の取り組みから、高学年の毎日への取り組みへとレベルができてきた △児童によっては、取り組むことが難しいこともあった	

重点目標４	教職員の資質向上	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇授業改善を図る→未来につながる問題解決能力の育成 ・授業の中での「振り返り」を大切にする　・授業を開く、見合う 〇発達支持的生徒指導の充実〇心身にゆとりをもって子どもと向きあうための働き方改革〇子どもの人権を大切に　⇒　教職員自らの人権感覚の向上 【成果と課題】 ◎課題づくり研修は「授業づくり」の学びにつながり、担当以外の学年の様子もよく理解できた。 ◎「振り返り」を大切にすることで、教師の１時間の授業計画の明確化として意識づけできた。 ◎四同研の提案を通して、児童の多面的な見方や、自分の差別意識に向かい合うことができた。 ◎授業内容の改善し、授業時数の精選をしたことで教師にゆとりを生み出すことができた。	

重点目標５	保護者・地域との連携	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇学校HP・H&S・学校、学年、保健通信等による情報発信〇四日市版コミュニティースクール運営協議会の充実〇１５年間の育ちを見据えた学びの一体化の推進 〇PTA・地域ボランティアとの連携 ・学校環境整備、読み聞かせ活動、登下校の見守り・学習支援、体験的活動支援等 【成果と課題】 △桜地区学びの一体化で四校園が集まる時間が取れず、相談・集約等難しかった。	

２　改善方針

・学校ビジョンに沿った、たくさんの指導・行事がある。その中で教育効果の高さ、効率を考え・精選していくことが働き方改革を進めていくことにつながるため、より一層推進する。
・学びの一体化では、年間を見通して各校園の公開保育・授業を計画する。また、長期休業中にじっくりと話し合いが進められる時間確保に努める。
・図書、園芸、緑の会、安全見守り会などの地域の支援団体（ボランティア）との連絡・連携を密にした活動を進める。そのことで、豊かな心の育成・未来社会を創造し、地域に愛着を持つ子の育成に努める。
・体育科でＩＣＴ活用ができるよう、年間計画の把握、効果的な単元の研修を実施する。
・児童の体力強化、運動を楽しく思える素地の育成のため、教材（単元）の指導方法や系統的な指導のあり方について研修する機会を持つ。
・全職員が、共通認識をもって生徒指導ができるよう、研究会を設定していく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　八郷西小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	成果：主体的・対話的で深い学びの授業作りについて、思考スキルを活用し授業でのねらいや付けたい力を明確にすることができた。ICTの発表ノートを使って授業の記録をまとめることができたり、タブレットを活用して視覚支援を有効に提示することができたりした。 課題：思考スキルの活用について活用の仕方の精度を高める。また、タブレットなどICT機器の活用について充電が切れやすくなっており、ハード面で体制を整えることが必要である。また、授業外でのタブレットの使用方法を整えることも課題である。	

重点目標２	豊かな心の育成	3
主な方策 成果と課題	成果:縦割り班での掃除に取り組み、異学年との交流ができた。縦割り班で児童集会を持ち、異学年で交流しながら活動するという新しい方法をすることができた。読書活動について図書館まつりや「お話の会」などの企画を実施し、読書に親しむ機会を多く設けることができた。 課題:縦割り班での掃除について仕事の分担や掃除の仕方などについて、より良い掃除の仕方を模索する必要がある。読書活動では学年によって図書館まつりへの取り組み方に差があったので、全学年が興味をもって取り組めるように見直しが必要である。	

重点目標３	健康・体力の向上	4
主な方策 成果と課題	成果:全校でのかけ足やなわとびの取り組みに積極的に取り組んだ。主たる運動につながる５分間運動を行うことで、十分な運動量を確保することができた。 課題:子どもたちの様子を表情や行動で把握するだけでなく、「心の天気」も活用して定期的に子どもたちに声をかけ、悩みを早期発見する。体育の活動内容について運動領域と実施時期を学校で系統的にそろえることで、準備の手間を省き、運動時間をさらに確保することができるように見直す。	

重点目標４	よりよい未来社会を創造する力の育成	4
主な方策 成果と課題	成果：防災探検隊を通して、地域の安全についてしっかりと考える機会を持たせることができた。三重北小と八郷小との交流を行い、学校林の活用を積極的にした。たけのこ堀りを地域と連携して取り組んだり、企業連携を利用した環境教育を行った。 課題：社会科だけでなく、総合的な学習の時間や理科の学習などとつながりをもたせることで、教科横断的なSDGｓの取り組みを目指す。子どもたちに多様な経験を積ませていくこと大切にし、体験の中で得た知識や思いを普段の自分の行動とつなげることを大事にしていく。	

重点目標５	学びを支える指導体制の充実	3
主な方策 成果と課題	成果:不登校児童について、校内で連携し対応できた。保護者を交えて月に1度ケース会議を行った。登校サポート委員会を毎月持ち、子ども達の課題について職員が見通しを持つことができた。情報共有シートを活用した。毎月の児童理解の共有を行い、必要に応じて打ち合わせでも共有した。 課題:登校サポート委員会でのメンバーの対応について、他の職員へよりよくつなげていく工夫が必要である。情報共有の仕方の確認する。今後も情報共有シートを活用し、周知・引継ぎを学校全体で行えるように心がける。	

重点目標６	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	成果：中学３年生の一クラス、幼稚園の子たちが小学校へ来てくれて、音楽集会を開いた。近隣校の八郷小学校との交流を通して、コミュニケーションの大切さを学ぶことができた。児童集会・学びの一体化などを通して異学年や近隣校と交流ができた。登校指導、下校指導を適宜行った。あかつき交通安全隊に協力してもらい、登下校、まち探検、防災マップ作り等の協力を得た。 課題：近隣校との交流は大事にしていくが、交流の仕方については子どもたちのことを第一に考えて、常々見直し検討していくことが大切である。登校・下校は保護者に責任があるが、今後も、定期的に登下校指導を行う。引き続き地域や保護者と連携していく。	

２　改善方針

・教員の研修を継続し、組織としての指導力の向上を図る。
・いじめや不登校の課題に対して、児童や保護者の心情に配慮するとともに専門機関と連携した丁寧な対応を続ける。
・体力づくりに取り組むとともに心の健康についても心の天気・教育相談・スクールカウンセラー等を活用し児童の心のケアに努める。
・防災教育・キャリア教育を地域と繋がりながら、よりよい社会の作り手となるよう学習を進めていく。
・特別な支援を必要とする児童に対して、児童理解を進めながら、組織で対応できるように心がける。
・地域や近隣校との取り組みを大切にし、児童の学びを第一に考えた行事の精選と改善を進める。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　三重北小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	○「聴き合う関係」を大切にした学びをします。 成果：学びの環境づくり・ルールの習慣化・つけたい力などを意識した授業づくりを一人ひとりの職員が工夫して授業で取り組んだ。 課題：特に低学年での聴く態度、中・高学年ではよりよい聴き方の指導が必要である。 ○「めあて・課題・振り返り」 の流れをすべての授業で大切にします。 成果：教職員がどの授業でもこの流れを意識して取り組めた。 課題：各教科のつけたい力・その系統性を意識し、より明確にする必要性がある。 ○少人数を活用した授業づくりをします。 成果：きめ細やかな指導・支援をすることができ、子どもたちの力の積み上げや、安心できる環境づくりにつなげられた。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	○あいさつできる子、コミュニケーション力のある子を育てます。 【成果】児童会や各学年で、あいさつの大切さについて実感する取組を進めた。 【課題】あいさつができる児童数は増えたが、あいさつのよさが実感できる取組をすすめる必要がある。 ○「三重北遊びデイ」による運動の日常化に取り組み、体力を向上します。 【成果】毎週火曜日に定期的に遊びデイを実行することができた。また、体育委員会の児童が企画をする日も設け、みんなで楽しめる環境づくりに取り組んだ。 【課題】誰もが参加しやすい遊びの選択肢を増やせるよう工夫する必要性がある。 ○立腰による姿勢改善、歯みがきチャレンジやデジタルデトックス等の取組をすすめ、健康教育に力を入れます。 【成果】立腰タイムの放送を聴くと、自ら立腰の姿勢を作る姿が多く見られた。 【課題】立腰タイム以外の活動でも、姿勢改善につながる声掛けを継続して行うようにしていきたい。 ○考え、議論する道徳・人権教育をします。 【成果】なかまづくりについては、全職員が同じ視点で学級や児童を捉え、実践に移すことができた。また、四同研や学びの一体化の全体研修会、出前授業など、教師・子どもともに人権課題と真摯に向き合う機会(学ぶ機会)をもつことができた。 【課題】取り組み内容や方法について、より人権での学びの系統性を大切にしたい。 ○系統的なメディアリテラシー教育を行います。 【成果】自分たちで人権を守っていこうとする意識が芽生えた。 【課題】SNSの使い方やきまりは浸透したが、実践力につながる取組を工夫したい。	

重点目標３	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	○「三重北の地域学習」を活用して、地域学習に取り組みます。 【成果】豊富な地域人材を活用し、各学年の実態に応じた地域学習を進めることができた。また、体験的な活動を多く取り入れていただいたことで、経験値の積み上げや記憶に残る活動となった。 【課題】「各教科の学習」と「地域学習」に連動性が持てるとさらによい。「地域学習」が行事のような印象をもたれることもあるので、教科横断的な視点でカリキュラムマネジメントをし、計画・実施をしていく必要がある。 ○保護者、地域とともに「防災教育」に取り組みます。 【成果】本年度も４・５年生を対象に四日市大学の鬼頭教授に来ていただき、自助や共助について学習を深めた。また児童だけでなく、学校・保護者・地域でともに防災意識を向上させることができた。また、４年生は地域の方々と共に防災訓練や避難所設営体験を行ったり、３年生では消防署の防火教室を行ったりと、学年に応じた取組を行うことができた。 【課題】対象学年以外でも防災学習を深める機会をもうけていきたい。	

重点目標４	すべての子どもの能力を伸ばす教育の実現	3
主な方策 成果と課題	〇特別支援教育の充実を推進します。 成果：子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、保護者と面談、相談を重ね、個に応じた対応を考え、支援を行うことができた。 課題：全ての教職員の特別支援教育にかかる専門性や指導力を向上させる場が少なかった。学校として一貫した特別支援教育を推進するために、校内研修会等で共有を図る場をつくる必要がある。 〇校内支援体制を充実します。 成果：月１回生特登サポ委員会・毎週の職員打合せでの児童情報共有を実施し、課題のある児童・保護者に対しての支援や指導計画を全職員で継続して考えることができた。情報共有を行うことで、組織的な対応を考えることができ、関係機関とも連携をとり学校全体でできることを検討することができた。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	〇日常的な研修を大切に、教職員の資質能力向上を図ります。 成果：全職員が学級を互いに公開し、授業を見合うことができた。また、教職員自らミニ研を行うなど主体的に研修する文化ができており、資質向上につなげることができた。 課題：普段から授業や研修などについて、話し合うことができるような環境がより一層できるとよい。 〇積極的な外部人材の活用を行います。 成果：性と生命に関する学習では助産師の林さん、選書活動ではメリーゴーランドの増田さん等、他教科にわたり、年間通じて多くの人生の先輩に出会い、専門性だけでなくキャリア教育の視点からも人として学ぶ機会を多くもつことができた。 課題：日常的に取り組むことや様々な学年の実態に合わせた活動をさらに取り入れていきたい。	

２　改善方針

・小規模校で少数の職員での校務分掌に追われがちであるため、放課後のOJTの時間を確保するためにも、会議等を精選したい。
・研修をさらに深化させるためにも、来年度の「だれもがわかるたのしい授業づくり」につながる研修のもち方、方向性を今年度中に焦点化しておきたい。また、特別支援教育や人権教育等についても、指導主事等を招聘するなど、積極的に専門的な立場から学ぶ研修の機会を設定したい。
・外部人材の活用については、各学年の教育課程の中に効果的に位置づけられるようカリキュラムマネジメントをしていく。特に三重北小の特色でもある地域学習については、『三重北の地域学習』をたたき台とし、よりよい改善案を各担任・担当が次年度に申し送るようにする。年間指導計画の見直しを今年度内に丁寧に行い、来年度へ引継ぎをしたい。
・あいさつ・生活リズム・運動についての児童アンケート結果は昨年度より向上していることから、生徒指導全般にわたり全職員が同じ方向性をもって継続的に指導を続けるようにしたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　羽津北小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	自ら学び、確かな学力を獲得する授業の構築	3
主な方策 成果と課題	【成果】 ・子どもが主体的に学ぶ授業の工夫では、児童が意欲的に取り組む「めあて」を工夫できた。また、タブレットを使うことで、個に応じたペースで学習に取り組ませることができた。さらに、児童が思考する場面を取り入れたことで、自己解決能力を伸ばすことができた。 ・基礎・基本の定着を図る授業の工夫では、「読解力を育む２０の観点」やkahoot等、隙間時間を使った反復練習を行うことで基礎学力の定着を図ることができた。また、タブレットのアプリを使用することで学力の定着を図ることができた。 ・思考力・判断力・表現力を育むための指導法・授業の工夫では、児童の思考に基づいた授業展開やペア・グループ学習の工夫ができた。また、ICT活用を充実させ共同編集や相互参照を行うことで、主体的な学びや協働的な学びを行うことができた。 【課題】 ・全ての児童に、個に応じた支援を十分できたとは言えない。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	【成果】 ・心豊かな集団づくりでは、クラス全員の小さな目標を設定し、成功体験を共有できた。また、ＱＵやいじめアンケート、こころの天気をもとに、定期的に教育相談を行うことができた。 ・規範意識の向上では、道徳でモラルについての授業を行うことができた。また、全職員で指導するべきことの共通理解を図って取り組むことができた。 ・健やかな体力づくりでは、新５分運動を進めたり運動量の確保を意識して児童の体力向上を図ることができた。また、特支学級では個別の実態に合わせて体力づくりに取り組めた。 ・命を大切にする環境づくりでは、外部講師を招聘したり学年に応じた取り組みを行ったりすることができた。 【課題】 ・取り組んだ運動領域に軽重がある学年があった。	

重点目標３	よりよい未来を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	【成果】 ・キャリア教育の充実では、保・幼園との交流を通して充実を図ることができた。また、女子ラグビーチームとの交流を通して、児童の小さな目標の達成が自己実現に繋がることを実感させられた。 ・地域との連携では、様々な公園などを訪れ、地域を知る学習を行ったり地域に貢献する活動を地域の方々と共に取り組んだり、保幼との交流会を開き、公・私立の地元の園児と触れ合ったりすることができた。また陶芸体験を通して、地場産業や人、地域等について学ぶことができた。さらには、地域の資源を生かした教育の推進では、ＣＳ委員をはじめ地域の方々に協力いただき、竹あかりの制作をしたりプール清掃に取り組んだりすることで、児童の満足感に繋がった。 ・防災・安全教育の推進では、栄養教諭と協働して、食育と防災教育とを連携して取り組むことができた。また、地域マネージャー等の地域人材を活用し、地域の防災について学習させることができた。	

重点目標４	学びの保証	4
主な方策 成果と課題	【成果】 ・指導体制の充実では、学年間で交換授業を取り入れ、全ての学年児童の様子を把握することができた。また、ＴＴを行うことで、個に合わせた指導を行うことができた。 ・特別支援教育の充実では、児童の気持ちに寄り添って支援や指導ができた。また、ＩＣＴを活用し、合理的配慮を行うことができた。 ・不登校児童への支援では、放課後対応やオンライン授業、ＳＣやＳＳＷとの連携を行い、継続的な学びができるようにできた。また、保護者のおもいを綿密な対話を通して行ったことで、児童が安心して登校できるようになった。 【課題】 ・支援を必要とする児童一人一人に合わせた支援や不登校児童への対応する時間の確保など、個に応じた支援体制を見直していく必要がある。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	【成果】 ・働き方改革の推進では、学年で退勤時間を決めたり互いに仕事を確認したりすることで時間外の勤務時間を減少することができた。また、学年で役割分担をすることで、効率化を図ることができた。 ・生徒指導では、全教職員が共通認識のもと指導に当たることができた。また、問題発生した際には、学年や生徒指導担当や管理職と情報共有して取り組むことができた。 ・目標を共有した地域との協働では、ＣＳ委員会で協議しながら様々な取り組みを行うことができた。 ・教職員の資質能力の向上では、定期的に学年会を行うことで様々な取り組み方法を交流できた。 【課題】 ・ＤＸ化を推進し授業で活用するため、教職員が技能習得の時間確保が必要である。	

２　改善方針

・児童の学力を底上げするため、基礎・基本の学習や児童が独りで解決できる学習に取り組ませ、児童に自信を持たせる。
・熱中症等のリスクを考えた体育科の年間カリキュラムを組み直し、運動の軽重が起こらないようにする。
・校内研修を充実させ、普通学級に在籍する特別支援が必要な児童の対応など、教職員の行う支援等の研修を行う。
・不登校児童との繋がりを継続するため、保護者や関係機関等との連携を密にし、チーム学校として対応に当たり、ＰＤＣＡに則り取り組みを進める。
・働き方改革推進のため、懇談会の日程を増やしたり日課の変更をしたりして、放課後等の時間を確保する。そのことで、学年での教材研究や情報共有などを行う。
・学年内では、先に行った教材は必ず共有し、教職員の授業力を高める。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　内部東小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	安全・安心で保護者や地域に信頼される学校	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①安全で安心な学習・生活環境の充実 ②人材育成の推進 ③地域・外部人材の活用推進 ④子どもと向き合う時間の確保 【成果と課題】 ・ＰＴＡやボランティア団体と連携し学習の森、トンボ池の整備に努めた。安全安心な学習環境が守られたおかげで、各学年が自然から学ぶ学習活動を進めることができた。 ・生活科や総合的な学習の時間において、「内部っ子はげまし隊」や「ホタルの里を守る会」、「トンボの会」など地域人材を積極的に活用し、地域から学ぶ学習活動を進めることができた。 ・保護者や地域の方に「図書ボランティア」として年６回の読み聞かせや図書室の掲示物の作成をしてもらい、読書環境の充実を図るとともに、児童が本に親しみを持つ活動に取り組むことができた。 ・学校アンケートを実施して、保護者の意見から教育活動を見直し、改善につなげることができた。 ・学校だより、学年通信、学級通信、ホームページ等で、学校からの発信について約９割の保護者から賛同を得た。今後もさらに授業参観や懇談会等、学校と保護者が交流できるような機会を充実させていくことが大切である。	

重点目標２	一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を行う学校	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①確かな学力の育成（知） ②豊かな心の育成（徳） ③健やかな体の育成（体） ④個に応じたきめ細やかな支援 【成果と課題】 ・５、６年生において教科担任制を実施したことで、学年団で教材研究を深めることができ、クラスの枠をこえて児童の様子を共有しながら指導をすることができた。 ・３、５、６年生の算数科で、少人数教育やＴ．Ｔを実施したことで、算数に苦手意識を持っていた児童の学習意欲を高めるとともに、個別の課題についてきめ細やかな指導を行うことができた。 ・特別な支援が必要な児童について、児童対応委員会を中心として、教育相談、カウンセリング等で支援の方法について話し合うことができ、適切な指導・支援につなげることができた。 ・職員会議、児童対応委員会、時系列の記録、経営会議を通じて、児童の情報を全職員が共有した上で指導する体制が構築されている。 ・保健委員会の児童が中心となって、学校保健委員会の発表を行った。今年度も学校三師参加のもと体育館で対面式で行うことによって健康に対する意識を高めることができた。また、ほけんだよりで学校保健委員会の様子を保護者にも伝えたり、生活リズムチェックの取り組みを行うことで、学校と家庭で連携しながら取り組みを行うことができた。	

重点目標３	自ら学びに向かう子の育成を目指して研修を進める学校	4
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①自ら学びに向かい論理的思考力を育む授業の創造 ②生徒指導・人権の視点に立った学級づくり ③よりよい未来を創造する力の育成 【成果と課題】 ・論理的思考力を育成するために、思考スキル・思考ツールについての研修を深め、子どもたち自身で思考スキルや思考ツールを選択できるように学年に応じて段階的に指導をすることができた。 ・年間４回の全体提案授業、３回の学年部提案授業を行うことで、指導力の向上につなげることができ、授業改善にいかすことができた。 ・夏季校内研修会やミニ研修会、授業公開週間などの取り組みを通じて、自分たちで研修を進めたり、自分の実践につなげようと意識したりすることができた。	

２　改善方針

【重点目標１】
・地域やボランティア団体との連携を継続し、「トンボ・ホタルの池」の管理や「学習の森」での取り組み、読書活動など、児童と共に活動ができるものがないかという視点で活動の充実、拡がりを図る。
・保護者への啓発を更に進めるとともに、協力を得るようにしていく。

【重点目標２】
・学力調査やみえスタディ・チェックの分析結果をもとにして授業改善を行い、学習意欲が高まるような課題を設定する。
・支援を必要とする児童については、今後も児童対応委員会、職員会議、時系列の記録等で教職員の共通理解を図り、保護者、関係機関と連携を取りながら支援体制づくりに努める。

【重点目標３】
・思考スキルや思考ツールについての研修をさらに深め、各学年で系統立てて、児童自身が思考スキルを意識して問題解決が進められるような力をつける。
・児童の課題を見極め、共有しながら、教師の力量を高める校内研修の充実を図る。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　中央小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力を育てる ①論理的思考力を高める授業づくり ②「読む・話す・伝える」思考力、判断力、表現力の育成 ③「ＩＣＴ教育の充実」 ④自主性と創造性の芽を育む多彩な体験型学習の充実 ⑤基礎的・基本的な力を育むきめ細やかな指導	4
主な方策 成果と課題	①②なかまと学び合うこと（協働的な学び）や主体的に活動していける児童が育っていくよう、グループやペアでの活動を軸とした授業づくりを校内研修に位置付けてきた。教職員の授業改善が進み、低学年から順序立てて話すことを意識させたり、表現する場を意図的に増やしてきたりした研修の成果は出てきていると考えたい。 ③GoogleクラスルームやGoogleフォームなどの効果的な活用ができた。具体的に児童委員会からの発信でイベントの告知や取り組みのふりかえりができたり、全校クラスルームを立ち上げたりすることができた。また、各授業でのICTの活用を、スカイメニューに加えてGoogle系にも広げていくことができた。 ⑤児童数の多い学年において、習熟度別の少人数指導を行うことができた。	

重点目標２	こころとからだを育てる ①学びに向かう力 ②進んで運動に親しみ体力向上を図る活動の推進 ③基本的生活態度の育成、基本的生活習慣の定着	4
主な方策 成果と課題	①スマイル班や清掃など、異学年グループでの活動から、関わりを広がることができた。また、高学年は、高学年としての自覚を高めることができた。 ①児童体育委員会発信の「みんなで体を動かそう」会を開催することができ、普段よりたくさんの人数が運動することができた。 ②運動会の種目を増やし、楽しく簡単に体を動かせる表現運動や団体競技に取り組んだ。 ②体力テスト前に講師を招聘して教師が研修をした。その研修を生かし、記録を伸ばすためのポイントを伝えたり掲示したりすることで、児童の記録の伸びにつながった。 ②なわとびチャレンジの取り組みで、寒い季節でも体力向上に向けた運動の取組ができた。 ③「生活のきまり」や生徒指導上の申し合わせ事項を軸として、基本的生活態度と生活習慣の定着を図ることができた。しかし、書かれていないことに関して確認不足なところがあったため、打ち合わせ等で話題にし、職員全体で確認する必要がある。	

重点目標３	夢と志を育てる ①人間性の育成 ②コミュニケーション能力の向上 ③地域・文化を活かしたキャリア教育の推進	4
主な方策 成果と課題	②小規模アシスト事業や異学年交流において、自分からコミュニケーションを取っていく場が増え、良い機会となっている。 ・毎学期にいじめとＱＵ調査、教育相談を行い、児童一人ひとりと対話を重ね、保護者と協働で問題解決に努めることができた。	

重点目標４	全ての子どもの力を伸ばす学校 ①校内研修の充実 ②教科担任制を生かした専門的な指導・深い子ども理解 ③特別支援教育の充実 ④学びの一体化での授業研究	4
主な方策 成果と課題	①更なる校内研修の充実のために、放課後に、授業づくりについての交流を増やしたり、他校の公開授業への積極的参加を進めていきたい。 ③サポートルームの時間の確保、定期的に専門機関との連携を図り、支援の体制が充実できた。日々の会話の中で、各学年の気になる児童について共有し合うことで、支援の仕方について話をすることができた。 ④他校園の生活風景・授業風景を参観したり、学校の実態や課題、取り組みについて小グループで話し合ったりすることで、教職員一人ひとりが自身の取り組みを振り返ったり高めたりすることができた。	

重点目標５	学校教育力の向上 ①「チーム学校」としての組織力強化（地域に開かれた学校づくり） ②家庭・地域・学校の協働の推進 ③働きやすい職場環境の充実	4
主な方策 成果と課題	①小規模ながら教科担任制を取り入れることで、休業中の担任補充をし、より多くの教員で児童理解に努めた。全校児童を把握できるのもスケールメリットであると思う。 ②ホームページへの積極的な更新や、小規模メリットを活かした細かな保護者への声掛けなどが実り、学校評価アンケートでも９０％以上の肯定的評価を得ている。 ③職員数が少ないこともあり、個々の職員への負担が過多になっている部分は否めない。しかし、全教職員が自覚を持ち、自分の職務を全うし、誇れる教育活動が展開できている。	

２　改善方針

・学校アンケートの「自分にはよいところがある」の肯定的回答が昨年度より上がったものの、７７％にとどまるなど、児童の中に、自己肯定感が高まりきらなかったり、自分に自信が持てなかったりする部分もあると推察される。「よさ」だけではない「自分らしさ」が認められる視点を大切にして、今後もＱＵ調査やなかまづくりの取り組みなどを学校全体で進めていく必要がある。

・様々な取り組みをするために時間の確保が難しい。そのため年間を見通した計画を立てることが必要となってくる。職員も風通しの良い小規模な職員室のメリットを活かし、情報交換の質とスピードを今後も確保したい。そして、子どもたちに様々な力をつけていきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　橋北小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ・一部教科担任制の推進　　・言語力、情報活用能力、ICT技能の向上 ・家庭学習、自主学習の充実 【成果と課題】 〇教科担任制を行い、教員の専門性が活かされ、授業内容の充実につながった。５，６年生と同じ教員が指導することで教科の系統性を持たせた指導や指導方法が統一され、有効的であった。 （児）「授業で習ったことがよく分かる」90.7%（0.6%増） 〇TB端末を用いて、情報収集を行い、伝えたいことを焦点化してまとめることができる児童が増えた。 〇家庭学習、自主学習の習慣が身についてきており、今後も家庭と連携を取りながら進める。 （児）「家庭学習や自主学習をがんばっている」87%（3.3%増） 〇ICT機器活用は今後も必須であり、教職員全体で活用能力の向上に取り組んでいく必要がある。	

重点目標２	豊かな心と健やかな体づくり	3
主な方策 成果と課題	・人権感覚、自尊感情を高める取り組みの推進　・健康、安全意識、体力の向上 ・読書活動の充実 【成果と課題】 ・発達段階や各学年の実態に応じた人権学習に取り組むとともに一人一人の児童の情報共有を密に行い、校内の、差別やいじめの早期発見、早期対応、未然防止に努めた。また、いじめ防止標語作り、いじめ防止授業、授業参観での道徳授業公開など全校で取り組み、いじめを許さない心の育成に努め、取り組みの様子を保護者に発信することができた。 （児）「いじめはぜったいにいけないことだと思う」98.3%（1.2%増） （保）「学校は差別やいじめに向かう態度や意識の向上への取り組んでいる」81.9%（0.2%増） ・食育授業では、栄養と体づくりの関係を学び、保健指導では、怪我の防止、生活習慣の大切さを各学年に応じて学ぶことができた。 （保）「学校は、子どもの健康、安全意識向上の取り組みに努めている」89.8%（0.4%減） ・読書活動では、「児童は読者をするのが楽しい」と回答している児童が90.1%（6.4%増）であるが、「お子さんは読書に親しんでいる」の回答は23.6%ととても低い。今後も年間計画に基づき学校での取り組みを充実するとともに、家読が推進されるように家庭への発信と協力に努める必要がある。 ・（児）「自分のことでいいなあと思うところがある」68.5%（4%増）との結果であった。児童の自尊感情を高めるために、児童一人ひとりのちがいや良さに目を向けて認め合えるような場を更に充実させ、引き続き学校・家庭・地域で連携していく必要がある。	

重点目標３	よりよくしていく力の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ・「スーパー橋北っ子」に基づくキャリア教育の推進 ・考えて行動できる特別活動の充実（委員会・縦割り掃除・学級活動） 【成果と課題】 ・「スーパー橋北っ子」の取り組みについて、教職員が意識して取り組むことができた。あいさつ名人では、児童会を中心に定期的にあいさつ運動を行い、自然とあいさつできる児童が増えてきたとともに、「失礼します」、「ありがとうございました」「こんにちは」など場に応じたあいさつも習慣化されてきた。 （児）「自分から進んであいさつをしている」「友だちの話をしっかり聞いている」「時刻を守って行動している」「たとえ失敗してもさいごまであきらめえずにがんがっている」など、いずれも80%代から90%代と高いものの、高評価を付けていない個々の児童の実態に目を向けて、取り組みを充実させる必要がある。 ・毎学期学校集会を行い、個々の児童の頑張りを発表したり、委員会・クラブ活動の活動報告を行った。また、高学年児童が運営、司会進行など主体的に行い活躍する場を大切にできた。今後も、年間計画を見越して、活動内容を充実するように努めていく必要がある。	

重点目標４	学びを支える学校づくり	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ・校区の子どもの育ちを意識した三校園の連携（学びの一体化） ・地域と協働した体験活動の充実 ・校内組織や専門家との連携による学びや育ちの支援 【成果と課題】 ・学びの一体化を中心に、学習、生活面での系統的な学びの育成、環境づくりに努めた。高学年児童を対象に橋北中学校の学習発表会（ポラリス）を見学し、ICT機器の活用、探究的な学習の在り方をについて学ぶことができた。また６年生が、体育祭に参加し、中学校生活を体験することができ、中学校への関心・意欲を持つことができた。１年生は、橋北子ども園の年長さんを招待して、学校紹介をしたり、一緒に遊んだりして交流を深めることができた。 ・防災学習では、橋北地区防災連合協議会、消防団の方々に講師をしていただき、防災知識だけでなく、体験活動などから学びを深めることができ、防災意識をさらに高めることができた。 ・米作り体験では、地域の方から、田植え、稲刈り、脱穀、精米とお米ができるまでの工程を体験的に学ぶことができた。 （児）防災学習など地域の方に教えてもらう学習は、とても勉強になる」（94.4%） ・学校、学級たよりやホームページで学校の様子や情報を発信することができた。また、授業公開週間を設定し、保護者が子どもの様子を知る機会の拡充に努めた。 （保）「学校は、参観・便り・ホームページで学校の様子や情報を発信している」（95.3%） （保）「学校は家庭や地域と連携して、子どもを育てる取り組みを進めている」（86.6%）	

２　改善方針

【確かな学力の定着】
・教職員全体でICT機器を用いた効果的な授業づくり研修【OJT研修やタイムリーで短い時間の充実を含む】を進め、教職員のスキルアップ向上を行う。
・授業において「めあてと振り返り」を定着させ、学んだことを自分の言葉でまとめ、伝え合うことができる学び合う授業を進める。
・「学年×10分」の学習習慣がより身につくようにさらに家庭学習の内容の工夫、家庭への発信・連携に取り組む。
【豊かな心と健やかな体づくり】
・様々な教育活動において、人と比較するのではなく、児童一人ひとりの中にあるよさや自分の持ち味に児童自身が気づくような場の設定や言葉がけを学校、家庭、地域で共通目標にしていく。
・体育指導や全校遊びを通して、仲間と共に体を動かす楽しさや心地よさを感じる環境づくりと授業力の向上のための研修【OJT研修を含むタイムリーで短い時間の充実】をさらに進める。
【よりよくしていく力の育成】
・「スーパー橋北っ子」の５つの名人をさらに習慣化させるとともに、児童が主体的に取り組むことができる活動内容を工夫するとともに、児童が努力や成長を実感できるよう、振り返りや認め合える場を充実していきたい。
【学びを支える学校づくり】
・三校園が連携し合い、魅力ある系統的な学びの育成を行う。
・学習内容と関連させ、地域と共に学ぶ学習の発展を図る。
・学校教育活動アンケートの結果や学校運営協議会での意見を活かし、次年度に反映させる。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　笹川小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	わかる・たのしい授業づくり	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】・基礎基本の定着　　・主体的、対話的で深い学びの実現 ・誰もがわかりやすい授業の実現　・英語コミュニケーション力の向上 【成果と課題】 ・日本語指導が必要な児童に対して、モジュール学習で日本語の基礎作りに継続して取り組んだ。また、視覚支援で言葉と意味をつなげる学習をした・今月の行事と算数用語の掲示を行ったりした。 ・「日本語の目標」を決め、授業づくりをすることが、誰もが分かりやすい授業につながった。・朝学や授業はじめに学年で統一して基礎学力の向上を図った。 ・表現の場を工夫することで、子どもたちが表現する機会が増えた。 ・授業で聴く活動を大切にすることで、互いに学ぶ姿が見られた。 ・YEFとのTTを通して、児童が興味をもてる外国語活動を計画・実施できた。 ・YEFによる季節にまつわる英語掲示、その内容の英語クイズをお昼の放送で実施するなど子どもたちが楽しみながら、外国語に親しむことができた。	

重点目標２	すこやかな心と体づくり	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】・人権教育、道徳教育の充実　　・読書活動の充実 ・体づくり、体力向上　　・健康教育の充実 【成果と課題】 ・1学期に人権教育の全体研修を行うことで、人権教育の大切さを再確認し、学校として進めていく方向性を得た。また、同様の授業を他学年でも行うことができた。 ・道徳の授業公開を保護者に行うことで、本校の道徳教育について知ってもらうことができた。 ・昼読書の時間に教員の読み聞かせを行うことで、子どもたちが本に親しむ時間が増えた。また、読み聞かせた本を図書室に掲示したことで、図書室利用が増えた。 ・児童体育委員会を中心に、一年間を通して姿勢を改善するストレッチ「姿勢ピンポーズ」に取り組んだ。その他、姿勢ピンポーズの掲示や、曲を用いた体操、家庭学習などを行うことで「姿勢を意識して生活することができた」とアンケートに答えた児童が昨年比の二倍という成果を得られた。 ・体育の授業では、児童の実態に合わせたほぐしの運動を行った。体育の授業で学んだことを休み時間に実施する児童もおり、授業での学びは日々の遊びにつながる様子が見られた。 ・体力テストの前には、実施のポイントを教職員で共有するとともに、ペットボトルを握るコーナーを作ることで、児童の意欲向上につながった。 ・なわとび、かけあしなど学校全体での取り組みを行った。	

重点目標３	未来づくり自分づくり	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】・多文化共生教育の推進　・キャリア教育の促進 ・地域資源を活用した学習活動の推進　・防災、安全教育の推進 【成果と課題】 ・各学年で総合的な学習の時間・生活科では、地域の方をゲストティーチャーとして招聘したり、地域へ出かけて調べ学習したりするなど、地域教材を活用した学習に取り組むことができた。また、地域の多文化共生に携わる人たちとの出会いから、笹川の良さを知ることができ、自分たちにできることを考えさせることができた。 ・委員会活動、学校行事など、様々な場面で、子どもたちに近い未来のモデルとして、他学年の取り組みをみせる工夫をした。 ・交通安全教室を計画的に行い、児童への啓発を行った。 ・不審者対応訓練を児童向けに行うとともに、実施前には教職員向けに不審者対応訓練を行った。さすまたの使用方法や、不審者への対応方法を学んだ。 ・緊急時の対応マニュアル等の見直しを来年度に引継ぎ、実効性のあるものに変えていくとともに、教職員間の危機管理意識の向上に努めたい。	

重点目標４	子どもの学びを支える学校づくり	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】・指導体制の充実 ・家庭、地域と連携した地域とともにある学校づくり ・西笹川中学校区の学びの一体化による保幼中との連携 ・教職員の資質能力の向上及び学校業務の適正化 【課題と成果】 外国人保護者懇談会の実施（年3回）・多文化共生サロンとの懇談（年2回） ・教科担任制を導入することで、学年間の指導内容を揃え、学力の保障に繋がった。また、複数の教職員で児童に指導することで、児童理解も深まった。 ・学校HPの更新や通信の発信により、学校教育活動の理解を得ることができた。 ・学びの一体化では、各校園の取り組みを交流するだけでなく授業を見合うこともでき、子ども理解につながった。また、取り組みを交流することで、途切れのない支援のあり方を改めて考えることができた。算数および外国語科においては、中学校教員による乗り入れ授業も行った。 ・見守り隊の方が登下校時の子どもの様子を把握し、情報共有していただくことで、子どもたちへの指導につなげることができた。 ・夏休み学習会において、地域の方々の協力があり、子どもたち一人ひとりの実態に応じてていねいに対応できた。 ・子どもたちの放課後の学びの場として、笹川子ども教室がある。今後も、連携のあり方を考えたい。 ・各学期に1回授業公開週間を実施したり、OJTを活用したミニ研修をしたりするなど、教職員の資質向上を図ることができた。	

重点目標５	やわらかな空間づくり	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】・子どもの学びが見える校内掲示　・ていねいな言葉づかい ・花いっぱいの学び舎　・校歌「飛べ！光の中へ」がこだまする時間 ・美しい教室環境、校内環境 ・職員室前に電子黒板を配置し、子どもたちの様子がわかる写真や児童による各委員会から伝えたいこと、学習の様子がわかるスライドなどを流すことで、学年の違う児童の様子が大人にも子どもにも伝わった。（教室掲示、こくさい掲示板、保健室掲示） ・丁寧な言葉遣いを意識している子も増えたが、課題が残る。 ・集会等では、元気よく校歌を歌うことができた。	

２　改善方針

・日本語指導体制や学級集団づくり、多文化共生教育・キャリア教育の充実、学力向上に向けて、教職員が情報共有しながら一丸となって指導をしていく。
・初期指導から「こくさい」教室での学習へ児童がスムーズに移行できるように、初期指導の終盤におためし「こくさい」の取り組みなどを行っていく。
・今後、教職員の入れ替わりが多くなることが予想できていることもあり、校務の伝達や引継ぎがスムーズに行われるように資料の残し方や伝達方法について見直していく。
・子どもたちのICT教育は進んできており、ICT機器に触れる児童も多くなっている。ICT機器に触れることで考えられる注意点や活用法について、児童だけでなく教職員や保護者など大人の理解を深めるための情報発信を進める。
・教職員が心身ともに健康で、子どもたちに対して、より充実した教育活動を行うことができるよう、学校運営を見直し、教職員の働き方改革を進める。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　楠小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	豊かな心の育成 ～違いを認め合い、互いの気持ちを考えることができる子～	3
主な方策 成果と課題	「豊かな心の育成」 ・人権教育・道徳教育の推進　　・教育相談の充実 ・特別な支援が必要な子への対応　　・読書活動の充実 【成果と課題】 ・スクールカウンセラーやソーシャルワーカーとの連携がしっかりできた。会議への出席もできる限りしてもらった。 ・保護者をゲストティーチャーとして招聘し、多文化理解の実践を行う学年もあった。 ・いじめ調査の結果を受け、いじめ対策委員会を実施し、担当が全体を把握することにつながった。小さな変化を見逃さないように、高い意識をもって取り組んでいくことができた。 ・不登校対策委員会と特別支援委員会を併せて行っているため、定期的に情報共有ができた。ただ時間が十分にとれなかったため、会議時間内で対策を考えるところまで協議できなかったこともあった。	

重点目標２	確かな学力の育成 ～考えを伝えあい、自ら学ぶ子～	3
主な方策 成果と課題	「確かな学力の育成」 ・「わかる」「できる」を大切にした授業づくり　　・コミュニケーション力の育成 ・情報活用能力の育成　　・少人数指導の充実 ・高学年における一部教科担任制の実施 【成果と課題】 ・全国学調等の分析結果を周知し、本校の子どもたちの弱みや強みを共通認識した。その結果を受け、対話活動を通して自分の考えをつくる授業づくりを研修で進めた。 ・研修における指導案に５つのプロセスを明記し、意識をして授業づくりを進めた。 ・指導方法をミニ研修会で共有し合ったり、学年会で情報共有したりして、子どもの発達にあった非認知能力を育成してきた。 ・学びの一体化でこども園・中学校と連携し、中学生になるまでにつけておきたい力から逆算して、各学年にあった情報モラル教育を行ってきた。 ・少人数指導については今後習熟度別指導を積極的に取り入れることを視野に入れた取り組みを進める必要がある。	

重点目標３	健康な心と体の育成 ～健康な生活を心がけ、体を鍛える子～	3
主な方策 成果と課題	「健康な心と体の育成」 ・基本的生活習慣やルールの定着　　・体力の向上 ・健康・安全意識の定着 【成果と課題】 ・器械運動や陸上競技などの種目で学習用タブレット端末を使って動画を撮影し、児童が動きを確認することで、よりよい運動につなげることができた。しかし、ボール競技などでは活用することが少なかった。 ・運動会や縄跳びチャレンジなど、運動をする機会を確保するとともに子どもたち同士の関わりを大切にしながら活動した。 ・授業で児童から学校三師に質問をしたり、睡眠について話をしてもらったりすることで生活リズムの改善を促した。児童の健康診断の結果をみて、学校三師から食事や睡眠など家庭での生活についてアドバイスを受け、児童に教員から説明するようにした。 ・栄養教諭と連携を取りながら、計画的に食に関する指導を行うことができた。また、日ごろから給食での食品ロスを減らすことができるように、子どもたちに意識付けした。 ・5年生では自然災害からくらしを守るための学習、4年生では起震車体験をはじめとする防災学習、3年生では消火器体験をはじめとする安全に対する学習をするなど学年に応じて知識や実践力を身につけることができるような活動をした。	

２　改善方針

・問題行動等について、数が増えることで重大な事案につながる報告を見過ごすことのないよう、事案が起こった際には直ちに担当や管理職で内容を確認するとともに、放課後に限らず早急に関係する教員を招集してケース会議を行うなど、組織的に対応を検討する。
・地域や保護者をゲストティーチャーで招く等、家庭・地域と連携した取組をさらに進めていく。
・本年度の研修の成果や課題を来年度に引継ぎ、子どもたち一人ひとりに確実に力をつけることを意識した授業づくりをさらに進めていく。
・校内研修会等で道徳の授業の指導方法について話し合う機会を持ち、道徳教育の系統的な取組を進めていく。
・今年度、朝のスキルについては音読を中心に取り組んできた。次年度はさらに系統的な取り組みになるよう、学校全体で内容を検討する。
・「新５分間運動スタートブック」を活用して、主運動につながるような運動を考えて実施する。
・体育科の授業で学習用タブレット端末を積極的に活用することで、子どもたちが自分の運動を動画で振り返るなど、主体的な学習につなげられるようにする。